令和３年度

「小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業」
「地域の特色を活かした環境学習支援事業」

実 施 報 告 書

新　　潟　　県
新　　潟　　市

目　　次

「小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業」

１ 上越市立東本町小学校 ・・・

「地域の特色を活かした環境学習支援事業」実施報告書

14 新潟市立早通南小学校 ……61
「早南環境プロジェクト　～新井郷川から世界へ～」
15 新潟市立下山小学校 ……65
「下山をすみよい町にするには」
16 新潟市立日和山小学校 ……71
「生物にとって棲みよい環境とは何かを考えよう。」
17 新潟市立南万代小学校 ……75
「水の都新潟　川と共に暮らす」「川と共存するために，川の活用の仕方や安全なかかわり方について調べる」
18 新潟市立紫竹山小学校 ……79
「新潟水俣病を通して，公害について学び，環境と人々の生活とかかわりについて考えよう。」
19 新潟市立曽野木小学校 ……86
「「水はどこから」「ごみはどこへ」それいけ！曽野木環境調査隊」
20 新潟市立小須戸小学校 ……90
「プラごみへらそうプロジェクト～みんなの川・海を守る～」
21 新潟市立臼井小学校 ……94
「（４年生）ふるさとの川を守るために、用水路の水質や生き物調べをしたり、クリーン作戦をしたりしながら，ふるさとの川の良さをアピールしよう。」「（５年生）公害を乗り越えた地域では、環境を守り続けるために，どのような取組をしているのだろう。環境を守るために自分たちができることは何だろう。」
22 新潟市立新通小学校 ……98
「考えよう私たちの「食」～水から考える環境問題～」
23 新潟市立曽根小学校 ……102
「公害を二度と繰り返さないために～新潟水俣病～」
24 新潟市立南浜中学校 ……108
「新潟水俣病についての学習を通して，環境保全や人権尊重について考えを深めよう。」
25 新潟市立白南中学校 ……112
「新潟水俣病に関する学習を通して，環境・人権・自分の生き方について考えよう。」

小学校・中学校への
地域の環境学習等支援事業

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	上越市立東本町小学校	担当（職・氏名）	教諭　宮腰　和彦
学習テーマ	見つめよう　わたしたちの食と命		
活動のねらい	毎日の私たちの「食生活」を見つめ直し、様々な人々とのかかわりや体験を通して、「食」の大切さや問題点、「人」のおもいや願いを理解する。「食」を自分自身の問題としてとらえながら、課題解決に向けて取り組んだり、これからの自分の食生活や生き方を考えたりする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

実際に生きた魚を捌いたり、田植え（バケツ稲）を経験したりする中で、食と命が密接に関係していること、そしてそれをつなぐものが「水」であることに気付いた。私たちにかけがいのない水が、人の命や生活を奪っていった新潟水俣病の学習へとつなげていった。学習を通して、体だけではなく、心も傷付いた新潟水俣病被害者に対する偏見や差別の解消に向けて自分にできることを考え、児童の実践的態度を養うことをねらいとした。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

（１）新潟水俣病の概要を理解する。
（２）写真やＤＶＤ等の資料を活用し、阿賀野川は人々の生活と密着した命の川であることの理解を深める。
（３）現地学習会を通して、新潟水俣病を身近な問題として捉え、切実性をもちながら、事実について学び、考えていく。
（４）交流した方の実体験を基に、被害者のおもいや願いにおもいを寄せる。
（５）新潟水俣病被害者が受けた偏見や差別に憤り、差別解消のために行動しようとする気持ちを高める。
（６）新潟水俣病被害者に対する偏見や差別をなくすために行動する。

○　活動詳細

実施期間	８月～３月	
主な学習内容・活動内容	**時間**	**指導・支援の内容**
新潟水俣病について知る。	５	・ＤＶＤ「水俣病のあらまし」を視聴し、関心をもたせるとともに概要をつかませる。 ・新潟水俣病の原因や症状についてまとめ、自分の意見をもたせる。
胎児性水俣病について知る。	１	・母親の胎内で水俣病になる仕組みを理解させ、疑問をまとめたり、おもいを考えさせたりする。
現地学習会を行う。 ・語り部の講話 ・阿賀のお地蔵さん見学	９	・現地で学習すること、新潟水俣病問題に詳しい講師から詳しく教えてもらうことにより、資料では分からなかった発生当時の様子について考えさせる。

現地学習会のまとめをし、発表する。	3	・交流した語り部や被害者の症状や教えてもらったことを振り返らせ、被害者のおもいについて自分の考えをまとめさせる。
差別解消に向けて大切なことを考える。	2	・被害者の身体や心の痛みについて考え、そのおもいに寄り添いながら、今も続く差別の現実に改めて気付かせる。 ・新潟水俣病被害者に対する偏見や差別をなくすために大切にしたいことを考えさせ、行動しようとする気持ちを高める。
差別解消に向けて行動する。	4	・新潟水俣病被害者に対する差別をなくすために自分ができることを実践させる。

○　協力団体・協力者等

・安田患者の会事務局　旗野秀人さん
・環境と人間のふれあい館
・新潟水俣病第３次訴訟・第２次行政訴訟を支援する会　事務局　萩野直路さん
・新潟水俣病被害者　水沢洋さん

○　成果と課題

・事前学習での学びを更に深めて身近な問題としてとらえるために現地学習会を行った。実際に阿賀野川を見学したり、語り部の方から話を聴いたりした。その結果、児童は阿賀野川流域に暮らす人々にとって生活に欠かせない大切な川であった「命の川」が「魔の川」となったことを実感することができた。そして、その川が人々の体をむしばんでいったことに憤ったり、病気が人の心まで変えてしまったことに驚きを感じたりして、病気と差別に苦しむ被害者の心に共感するこ
とができた。



・語り部の水沢さんからの話を基に学習し、新潟水俣病の公式確認から５０年以上経った今も続く偏見や差別の事実と向き合い、偏見や差別が続いている要因や、差別に立ち向かう被害者を支えている仲間やおもいに気付いた。宿泊体験学習での学びが基になり、より被害者におもいを寄せることができた。差別解消のために大切なことや自分にできることを考えることができた。

［課題］



・新潟水俣病の被害者に対する差別は、上越市の児童にとって身近ではなく、自分事として捉えたり、行動に表したことを実感したりすることが難しい。
・２日間を通して水俣病の学習をいろいろな角度や立場で学ぶことができた。その学びを日常生活にも結び付け、行動につなげていけるような手立てや支援がもっと必要であると感じた。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立東本町小学校	**5年2組（35 人）**	**11月26日**	**同和学習**	**教諭　宮腰　和彦**

主題名：新潟水俣病の被害者に対する差別や偏見をなくすための行動

ねらい：新潟水俣病の被害者が受けた偏見や差別に憤り、差別に立ち向かう生き方に共感することを通して、差別を許さず、差別の解消のために行動しようとする態度をはぐくみます。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	※資料前半を読む。 ○水沢さんはどんなつらさや苦しみがありましたか。	・足のしびれや頭痛などで苦しんでいた。 ・友達がいなくて、独りぼっちになった。 ・「奇病」「たたり病」とうわさされて、殴られたこともあった。	新潟水俣病被害者の体験を基にして作成した資料
15	○50 年以上、自分の病気のことを黙っていた水沢さんが病気のことを公表したのはなぜでしょう。 ○病気のことを公表した後の水沢さんは、どんな気持ちだったでしょう。	・職場の人が自分のことを理解してくれたから。 ・周りの姿を見て、自分も立ち上がろうと思ったから。 ・新潟水俣病被害者に対する偏見や差別をなくしたいというおもいから。 ・気持ちが楽になった。 ・やっと病気のことを分かってもらえる。 ・公表した後も差別や偏見が周りに起こるのではないかと不安だった。	
20	※資料後半を読む。 ○出来事を聞いて、思ったことを発表しましょう。	・近所の人が間違っていることを言っていることがひどい。 ・水俣病になる前からその人が卑しいなんておかしい。 ・水俣病になって差別や偏見を受けているのに、病気になる前から意地汚い人間なんてひどい。 ・水俣病被害者は何も悪くないのにひどい。  	

	○このような差別が今も続いているのはなぜでしょう。	・新潟水俣病について正しく知ろうとしないから。 ・周りの人の偏見やうわさを信じ真実を確かめないから。 ・周りの人に流されて、被害者の気持ちを考えていないから。	新潟水俣病被害者の体験を基にして作成した資料
１５	○今日の学習から、差別をなくすために自分が何ができるかを考えましょう。 ☆新潟水俣病について学ぶ前の自分を振り返らせ、正しく知らないことが、偏見や差別につながっていること、自分の心の中にも差別や偏見の心があることに気付かせる。	・新潟水俣病の学習をしなければ、自分も周りの人のうわさを信じて、差別する側の人になっていたかもしれない。差別をなくしていくために学び続けていく。 ・自分が差別をしない。そのために、相手の立場になって考えた行動をする。 ・新潟水俣病の正しい知識や事実を家族や身近な人に伝える。 ・偏見や差別に負けずに、未来のために語り続けている人がいることを多くの人に知ってもらう。 	

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・病気のことを知っている先生、同級生が「たたり病」と差別していることがひどいと思う。
・今でも新潟水俣病に対してあやまったイメージをもっていたり、自分とは関係ないからと、勝手なことを言っていたりしているのがひどいと思う。
・新潟水俣病被害者の心や体の苦しみを考えなかったり、相手の気持ちを知ろうともしなかったりするから、今でも差別がなくならないと思う。
・新潟水俣病被害者だけではなく、だれに対しても相手の気持ちを考えてやさしく接していきたい。
・差別をしていた人は、何をしたくて差別していたのかなと思った。でも、自分も新潟水俣病を知らなかったら、同じことをしていたかもしれないので、差別をしている人がいたら学んだことを伝えたい。
・新潟水俣病被害者のつらさや苦しみ、病気のことなど、正しい情報を多くの人に伝えていきたい。

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	上越市立北諏訪小学校	担当(職・氏名)	教諭　野本理
学習テーマ	SDGs でつながろう　～食の大切さ・ありがたさ～		
活動のねらい	・米を育てたり、魚を調理して食べたりする活動や食に関する調べ学習を通して、いのちを食べることやそのために行っている人間の行為の意味を問い直そうとする態度をはぐくむ。 ・新潟水俣病に関する調査活動を通して、人間と食、環境とのつながりについての考えをもったり、いわれのない偏見や差別の解消のために行動しようとする気持ちを高めたりする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・活動概要③：資料活用により、阿賀野川流域の人々の生活や新潟水俣病の原因・症状・被害・裁判等についての理解を深める。

・活動概要④：「環境と人間のふれあい館」への施設訪問を行う。語り部の方から直接体験談を聞き、偏見や差別の現実を深く理解する。

・活動概要⑤⑥：新潟水俣病にかかわる学習を根拠にして、差別をなくすために自分にできることを考え、表現する。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

①米作り農家の方の指導を受けながらの米づくりをする。(4 月～11 月)

②米や、生きている魚の調理を通し、いのちをいただくことについて考える。(9 月～11 月)

③各種資料を活用し、新潟水俣病の概要を知る。(7～9 月)

④新潟水俣病にかかわる現地学習会を通して、被害者の思いや願いを理解したり、差別解消にむけて行動しようとする気持ちを高めたりする。(10 月)

⑤食べることに関する体験や語り部さんから学んだこと等を学習発表会で保護者や地域住民に向けて発表する。(10 月)

⑥食や環境、差別について考えたことを振り返り、自分が今後よりよく生きていくために大切にしたいことを様々な方法で表現する。(9 月～12 月)

○　活動詳細

実施期間	令和３年４月～令和３年１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
米づくり	１５	・米づくり農家の方の指導を受けながらの米づくりをする。
源流探検・河川・河口の環境調査	６	・川の探検や水質調査を行う。 ・河口の海岸の環境調査を行うとともに、ごみ拾いも実施する。

ニジマス調理	４	・ニジマスのつかみ取りをし、その場で一人一人がニジマスを捌き、調理して食べる体験を通して、食べることと命をいただくことについて考える。
新潟水俣病に関する学習（新潟水俣病現地学習会を含む）	６ ５	・DVD や「未来へ語りついで」を活用し、新潟水俣病の原因、被害などを理解する。 ・環境と人間のふれあい館を訪問し、語り部さんの講話（録画）を聴いたり、展示資料を見たりして、被害者の心情を理解し、差別解消のために自ら行動する気持ちを高める。
学びに基づく表現活動	１５	・学びから得たことを、新聞やポスターにまとめ、表現する。 ・学習発表会でステージ発表を行い、他の学年や保護者、地域の方に学びを伝える。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・稲作指導：里方幹雄様（地域住民）

・現地学習：水澤　洋様（新潟水俣病 語り部）

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

・川の探検や河川・海岸の環境調査を行うことにより、「川は、人間を含めた多くのいのちをはぐくむところ」という気付きをもった。また、環境問題を身近な問題としてとらえていた。川魚を自ら調理し食べたことにより、川からの恵みやいのちをいただくことを実感することができた。

・資料「未来へ語りついで」を活用した調査活動により、児童は新潟水俣病に関する科学的知識を自分に分かる言葉に直したり、要約したりしながら理解した。その上で、環境と人間のふれあい館を訪れ、語り部である水澤様のお話を DVD で視聴したり、差別に立ち向かった方々のエピソードをまとめた資料を読んだりして、被害者の方の生き方にふれる活動を行った。児童は、今も病気と差別に苦しむ人々の思いに寄り添い、自分にできることはどんなことなのかと行動をするようになった。

・新潟水俣病に関する正しい知識を多くの人にもってほしいと願った児童は、自分の伝えたい表現方法で学んだことや考えたことをポスターにまとめたり、学習発表会で保護者・地域に伝えたりと発信することができた。

＜課題＞

・自然環境を守っていくための行動を継続して行っていくために、環境保全の意識を持続できるように、今後も支援する必要がある。

・新潟水俣病患者の方々への差別について、自分ごととして捉えられるようになってきた。そのことをさらに広げ、様々な差別を見逃さず、許さない心を培っていくことが今後の課題である。６年生で学習する「部落差別」へ意識をつなげていきたい。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立北諏訪小学校	5 年 1 組（12 名）	11 月 17 日	総合	教諭　野本理

主題名　病気による差別をなくそう

ねらい　新潟水俣病の被害者が受けた差別や偏見に憤り、差別に立ち向かう生き方に共感することを通して、差別を許さず、差別の解消のために自分にできることを行っていこうとする気持ちを高める。

配 時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
５	○これまで学習してきた新潟水俣病について、症状等に、どんなものがあったかを確認する。	・手足がしびれる。 ・耳鳴りがする。 ・めまいがする。 ・視野が狭くなったり、しゃべりにくくなったりする。	
２０	○資料「ある新潟水俣病患者（A さん）の話（前半）」を読み、「おかしいと感じたこと」「A さんの気持ち」について、感じたことや思ったことを発表し合う。	「水俣病はうつるからという部分がおかしい」「怠け者と言うのはおかしい。仕事をしないのではなく、したくてもできない。」「裁判をしたのは、お金が欲しいわけではない。」など、環境と人間のふれあい館見学や語り部さんからお話を聞き学んだことを振り返りながら、A さんが周りから差別をされていることに気付き、憤る気持ちをもった。また、病気によって体がつらいのに、周りの人からの言動によって心も深く傷付いている A さんの気持ちに共感していた。	
２０	○資料「ある新潟水俣病患者の話（後半）」を読む。 ○A さんは、そのような思いをしても語り部を続けるのはどうしてか考える。 ○A さんや同じ語り部の水澤さんの生き方から学び、自分たちにできることを考え、発表する。	・差別をなくしたいから。 ・自分のように苦しい気持ちの人を増やさないため。 ・多くの人に正しい知識や病気のつらさを知ってほしいから。 ・今も続いていることを知ってほしい。 ・学んできたことを、家族や多くの人に正しく伝えることで水俣病をなくしたい。 ・差別をされている人の気持ちを考えて、差別をしない。身近な自分の周りから差別をなくしていきたい。	

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・新潟水俣病は今もたくさんの人が苦しんでいて、その人々を苦しめているのは病気だけではなくで、私たち一人一人の行動だと分かりました。私がこれから気を付けていくことは、新潟水俣病の人たちだけでなく、家族や周りの友達に優しくして絶対に差別をしないことです。そして、誰にでも優しく平等に接することができる大人になります。

・水澤さんのお話の時もそうだったけれど、言ったりやったりしてはいけないことをきちんと説明していく。家の人や他の人にも新潟水俣病について正しい知識を伝えていく。

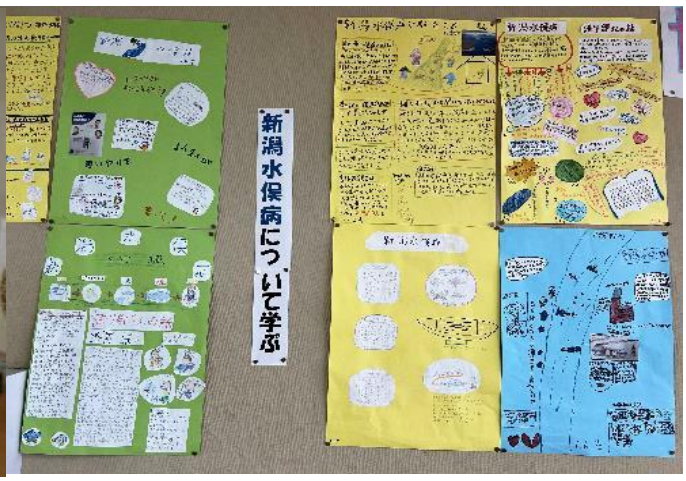
・新潟水俣病患者の方は、近所の人や職場の人、お医者さんにまで悪口を言われて、病気になりたくてなったわけではないのに、本当に悲しく苦しい気持ちだったことが分かりました。私は、これからしっかりと相手の気持ちを考えて、「言っていいかな。」と悩んでから発言したいと思います。そして、差別や偏見は絶対にしません。

・今でも続いている新潟水俣病への差別以外にも、差別をなくしたいです。そのために、私ができることは、うわさを信じたり流したりしないことです。

・自分が住んでいる県で起きたことです。関係ないって思うのではなく、苦しんでいる人や助けを求めている人のために、私たちが、がんばらないといけないと思う。

・語り部さんたちのように苦しいことがあっても前向きに生きていきたいと思った。自分にできることは、水俣病のつらさや差別の苦しさを身近な人から教えていくことです。





（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	上越市立国府小学校	担当（職・氏名）	教諭　齊藤　亜紀子
学習テーマ	・生活環境を守る ・新潟水俣病差別		
活動のねらい	・新潟水俣病の原因や症状、発生の仕組み、周囲の状況等を正しく理解する。 ・新潟水俣病の被害者の思いや生き方を知り、偏見や差別をなくすために考える。		

○　新潟水俣病とのかかわり

５学年社会科「環境とわたしたちのくらし」では、四大公害病の水俣病に焦点を絞って学習した。熊本県八代海沿岸で起きた水俣病が、11 年後に新潟県阿賀野川流域で起きたことに注目させ、離れた２つの場所を関連づけることで、水俣病の被害と全国各地での公害をなくす取組を自分たちの生活と重ねて考えさせるようにした。その上で「環境と人間のふれあい館」での現地学習会を行い、新潟水俣病を身近な問題として考えることができるようにした。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

（１）社会科「環境とわたしたちのくらし」
（２）新潟県の新潟水俣病に関するパンフレットや冊子、ＤＶＤ等の資料の活用
（３）「環境と人間のふれあい館―新潟水俣病資料館―」での現地学習会を通して、事実から考え、新潟水俣病を身近な問題としてとらえる
（４）新潟水俣病被害者の思いを受け止め、これからの社会形成に向けて大切なことを考える

○　活動詳細

実施期間	９月～１１月	
主な学習内容・活動内容	**時間**	**指導・支援の内容**
社会科 「環境とわたしたちのくらし」	１７	・身の回りの自然環境と自分たちのくらしとのつながりについて理解させる。 ・公害をなくすための取組について調べさせる。
現地学習会事前学習 新潟水俣病について知る	1	・新潟県「未来へ語りついで～新潟水俣病が教えてくれたもの～」を活用したり、ＤＶＤ「水俣病のあらまし」を視聴したりして関心をもたせ、概要をつかませる。
現地学習会を行う ・語り部の講話 ・環境と人間のふれあい館見学	3	・新潟水俣病被害者との出会いを通して被害者の思いや生活の様子にふれることで、被害者の思いに共感させる。
現地学習会事後学習 学習したことをまとめる	2	・現地学習会での学びを振り返らせ、水俣病被害者の思いや生き方、人間と環境との関係について自分なりの考えをまとめさせる。
人権教育 差別解消に向けての気持ちを高める	1	・新潟水俣病被害者に対する偏見や差別をなくすために自分にできることを考えさせる。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・環境と人間のふれあい館

・語り部　新潟水俣病被害者の会　曽我　浩さん、水沢　洋さん

○　成果と課題

（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

［成果］

・新潟水俣病差別の問題と新型コロナウイルス感染症が拡大した２学期の始めに感染に対する不安や恐怖から、感染者や感染症にかかわる人に対する偏見や差別の問題を関連付けて学習した。「コロナ差別」で「悪いのはウイルスで感染した人ではない」という正しい認識と「差別された人の気持ちを考える」という人権感覚を育成した。このような学習の積み重ねにより、水俣病被害者の苦しみに寄り添って考え、差別解消に向けた気持ちをさらに高めることができた。

・熊本県八代海沿岸で起きた水俣病と新潟県阿賀野川流域で起きた新潟水俣病の学習と関連づけて考えたことで、公害病の原因である工場廃水と環境問題について 50 年以上経過した現在でも多くのことを教えてくれる教材となった。これからの未来を考え、環境を守る取組や「持続可能な開発目標（SDGs)」への関心を高めることができた。

・語り部さんから阿賀野川流域に暮らしてきた生活者としての話を聞き、水俣病被害者の症状は、時間経過や人それぞれで異なって多様であることを実感した。語り部さんとの出会いをもとにした人権教育を実践することで、「差別の苦しみの強さと周囲のかかわり」「差別に負けずに生きてきたたくましさと仲間の存在」について自分なりの考えをもつことができた。

［課題］

・移動時間等の関係で「環境と人間のふれあい館」での語り部との交流や施設見学の時間確保が難しかった。事前、事後の学習を充実させることでより深く学ぶことができるようになると考える。

＜現地学習会後の児童の感想＞

・水俣病は、外見では分からないから差別や偏見が起きるのだとよく分かり、体の苦しみだけでなく、心の苦しみも与えてしまったと改めて感じました。公害病は、人間がつくってしまったものなので、人間が治さなければならないんだと思います。私も、自然環境を壊さないように、工夫しながら生活したいです。環境問題についてしっかりと自分の意見をもって、実行したいです。

・ぼくは、水澤さんのお話を聞いて感動しました。他の人からは大変さが分かりづらいから、「なまけ病」などと差別やいじめを受けることもあったそうです。人一倍きびしく苦しい人生だったけど、必死に生きて、「水俣病はおそろしい公害病だ」と語り継ぐことがすごいと思いました。そして、サポートする人や助けてくれる人がいると、あきらめないでがんばれると思いました。困っている人がいたら、絶対に見て見ぬふりはしてはいけないと思いました。相手の気持ちになって話を聞いて、寄り添って支える人になりたいです。

＜人権教育の授業後に、子どもたちが考えたこと＞

・新潟水俣病被害者の方たち（小武さん・星野さん・水澤さん）は、ずっと変わっていない。変わったのは差別している周りの人たちだと気づきました。差別をなくしていくには、相手のことを理解して、みんなに分かってもらうことが大切だと思いました。思い込みや決めつけがあったら、誤解を解いて、心の痛みを治すようにみんなで助け合いたい。

・相手の気持ちを考える人になりたいです。悩みがあったら、一人で考えないでほしいです。ぼくは、自分の気持ちを言ったり、友達の話をちゃんと聞いたりすることを大切にしたいです。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
上越市立国府小学校	5 年（33 人）	11 月 16 日	道徳	教諭　齊藤　亜紀子

主題名　新潟水俣病の被害者に対する差別をなくすために

ねらい　新潟水俣病被害者が受けている現実を直視し、差別に立ち向かう小武さんを支えていることに思いをよせることを通して、周りの誤った見方や考え方を変化させた要因に気付き、差別をなくすために大切にしたいこと考え、差別をなくしていこうという気持ちを高める。

配時(分)	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	指導上の留意点
15			・導入で語り部さんとの学習会を振り返らせ、資料前半を読む
	新潟水俣病被害者への差別や偏見を見抜く　【資料　前半】		
	○おかしいと思ったことに線を引きながら読みましょう。	・同級生（周りの人）の水俣病に対する冷たい態度（コソコソと話す、目をそらす)。 ・自分の居場所がないこと。 ・周りの人の見方は昔から変わっていない。	
	新潟水俣病被害者の気持ちに共感するとともに周囲の差別への憤り		・体の苦しみだけでなく、心の苦しみも続く被害者の気持ちに共感させる。
	○小武さんはどんな気持ちだったでしょう。	・悲しい。体だけでなく心もつらい、苦しい。 ・魚を食べただけ、水俣病はうつらないのに…。どうして、冷たく差別されるの…。悔しい。	
10	差別が続いている要因		・新潟水俣病が公式認識されて 50 年経ても差別が続くことに気付かせる。
	○水俣病被害者への差別が続くのはなぜでしょう。	・近づかない、かかわらないと壁を作り、水俣病のことをよく知らない、知ろうとしないから。 ・補償されて当然なのにお金がもらえてよいなど間違った考えやうわさを信じ、本当のことを確かめないから。	・周りの間違った考えや偏見、無理解や無関心が差別につながることをおさえる。
10	周りの変化　【資料　後半】		・小武さんの言葉や行動により、変わっていった周りの人の考え方に気付かせる。
	○同級生（周りの人)は､なぜ変わったのでしょう。	・いろいろな人と話したり、小武さんのがんばりをちゃんと見たりして、自分の間違った考え（差別する心や態度）に気付いたから。 ・水俣病のことを正しく理解してほしいという小武さんの気持ちが伝わったから。	
10	差別解消に向けた実践行動		
	○差別をなくすために自分が大切にしたいことを考えましょう。	・自分たちが学習した新潟水俣病の正しい知識やどんなことがあったのか（事実）を他の人に伝えていきたい。 ・差別される人ではなく、する人たちが変わらないといけない。つらい思い、困っている人がいたら仲間になって話を聞いて、力になりたい。 ・人の心の痛みや苦しみが分かっていないから差別する。人の気持ちを考えて、相手を大切にしたい。	・偏見や差別をなくすためには周りが変わることが大切であることをおさえる。

＜資料＞

心まで病気にならないように

（「人間と環境のふれあい館―水俣病資料館」での語り部さんとの学習を振り返る）

私は、今年で８５歳になりました。人間と環境のふれあい館で語りとして、皆さんのような小学生から大人の人、たくさんの人たちに、私のことを少しでも分かってもらえたらと願い、お話をしています。思い出すとつらい気持ちになることもありますが、新潟水俣病とは、どんな公害病なのか、被害者がどんな思いで生きてきたのか、本当のことを知ってもらい、みなさんと「人が幸せになるために」大切なことは何かを考えたいです。

（前半）

私が、被害者の会の副会長なった４年後。60 歳（還暦）の時、同級会の案内が届きました。水俣病になってからというもの、同級生に会うことはほとんどありませんでした。久しぶりに会う同級生と昔の思い出話や孫の話ができると思い胸をわくわくさせて、同級会当日、会場のドアを開けました・・・・。

しかし、そこにあったのは、私を見る冷たい視線でした。私を見ながらコソコソと話をする人、目をそらす人、自分が水俣病だと隠している人もいました。

私が水俣病だということを、被害者の副会長をしていて水俣病と闘っていることを、同級生みんなが知っていました。楽しみにしていた会場に、私の居場所はありませんでした。

（後半）

同級会の後も私は、今までと同じように活動を続けました。64 歳から「語り部」となり、65 歳の時には海外で講演もしました。72 歳では被害者の会会長になり、私の活動を多くの人が支えてくれました。

ある日、スーパーで、こちらを見る視線が気になりましたが、私はその人の横を通りすぎました。その時、

「節子さん。」

私は、どきっとしました。同級生でした。

「テレビ見たよ。あんた立派だよ。水俣病に負けんでね。」

そこには、昔と変わらぬ笑顔の仲間がいました。その後、何度か同級生と会うことがあり、応援の声をかけてくれました。

そして、あの同級会から 17 年が過ぎた 77 歳の時、喜寿のお祝いにみんなで集まろうと同級会の案内が届きました。17 年前の苦い思い出が頭をよぎりましたが、久しぶりに同級生に会いたくなったので行ってみることにしました。不安の中、受付に行くと

「おぅ、久しぶりだなぁ。この前テレビで見たぞ。お前もたいしたもんだぁ。」

と何人かの仲間が声をかけてくれました。テーブルにつくと、次々に仲間が声をかけてくれました。

「俺は、節子がテレビで頑張っているのを見て元気をもらったんだ。俺は、仕事頑張るから、負けんで頑張れ。」

写真撮影の時には、

「節子さん。あんたが真ん中よ。」「そうだ。真ん中においで。」

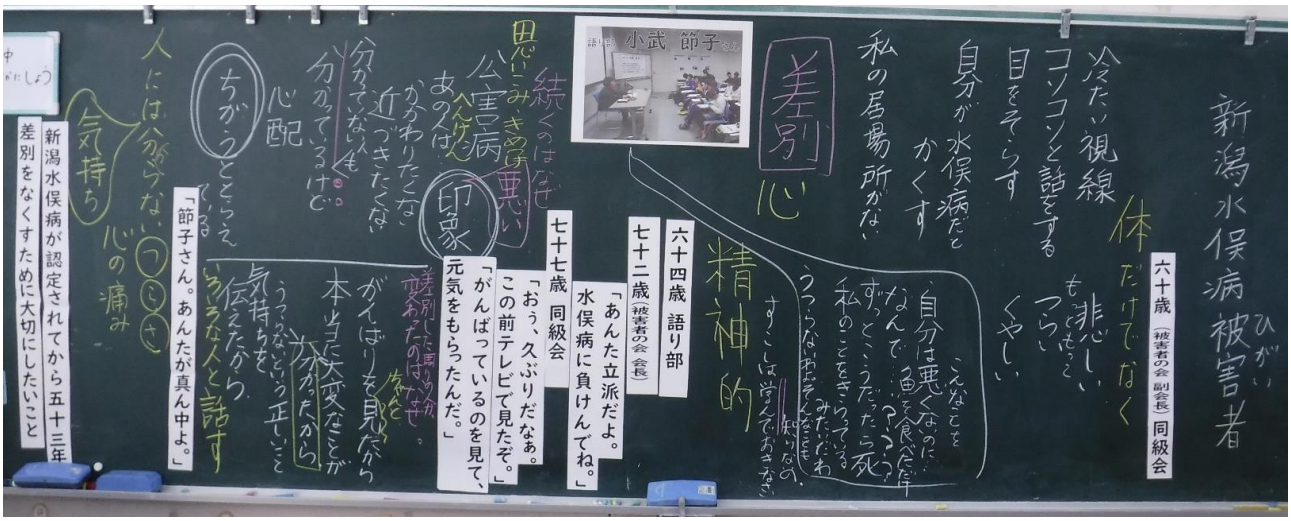
と言ってくれました。そこには、17 年前とは違う仲間がいました。子どものころと変わらない仲間がいました。

新潟水俣病が 1965 年 6 月 12 日に公式確認されてから今年で 56 年。差別がなくなったわけではありません。でも、少しずつ変わってきています。

2016 年「東本町小学校同和教育研修会」　一部改作

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・新潟水俣病の学習をして、正しいことを知ることが大切だと思いました。自分の決めつけや思い込みで、悪い方に考えることが、差別につながると分かりました。だから、相手の気持ち、心の痛みを考えられるようになりたいです。言葉を選んで、もっと言葉を大切にしようと思います。
・いろいろな人とかかわって、なかよくしたいです。困っている人がいたら、悩んでいることなどを聞いて、寄り添う優しさが大事だと分かりました。寄り添うことをしていたら、よい関係になって差別が減ると思います。だれにでも平等に接することを大切にしたいです。
・しっかりと適切な情報を得て、人と上手に接していきたいと思いました。差別をなくすには、人には分からないつらさや困っていることを相手から感じて、その人を助けることみんなで助け合うこと大切にしていきたいです。
・物事を正しく見て、自分がその立場だったらどうかをよく考えて行動したり、発言したりすると差別はなくなると思います。みんなが、安心して生活できるように、私も、くれぐれも一方的に、偏った見方をしないように、気を付けて行動していきたいです。



（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	上越市立板倉小学校	担当（職・氏名）	校長・竹田正子
学習テーマ	板倉の自然を見付けよう　えがお自然調査隊		
活動のねらい	板倉区の自然（光が原・箕冠山・大熊川・別所川）について調べたり、板倉を知る地域の方と触れ合ったりする活動を通して、板倉の自然のよさに気付き、地域の一員としてできることに取り組む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

「環境と人間のふれあい館」の施設訪問を通して、水が汚染されることで人間の生活にどのような影響を与えるかについて学習を深める。語り部のお話と映像資料を基に、差別や偏見の実情を理解し、差別をなくし共に生きる社会を目指して自分の行動を考える。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

地域の森林・川には豊かな自然があり、それを守る人がいることを知った児童に、新潟水俣病の歴史と現在までの取組を学ぶ機会を設けた。児童は、環境と人間のふれあい館の見学や「新潟水俣病が教えてくれたもの」等の資料を基にした学習を通して、公害が取り返しのつかない苦しみや悲しみ、心の分断を生むこと、森・川・海がつながり人間の暮らしに深くかかわっていることを学んだ。新潟水俣病から学んだことを忘れずに、自然を大切にすること、人と人のつながりを大切にすることを伝えていこうという思いを高めた。

○　活動詳細

実施期間	４月～２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
地域の自然について、調べたいことや調べる方法を考える。	３時間	・昨年度までの活動を紹介し合い、地域の自然環境という点か特徴やよさを洗い出す。 ・地域散策を行い、地域の様子を概観する。
大熊川・別所川の環境調査、生き物調査を行う。	17 時間	・専門家の指導を受け、地域を流れる川の環境を調査する。分かったことをスライドにまとめさせる。
光が原高原・箕冠山の自然環境調査を行う。	15 時間	・専門家に案内を依頼し、光が原高原・箕冠山の自然環境を調査する。分かったことをスライドにまとめさせる。
地域の自然について分かったことを発信する。	10 時間	・地域の自然について、撮り貯めた画像や自作のスライドを紹介し合い、学習発表会で発表する計画を立てる。
環境と人間のふれあい館を訪問し学習を深める。	10 時間	・新潟水俣病の歴史と現在までの取組について学習する機会を設け、自然を守る取組の大切さに気付かせる。
ＳＤＧｓについて調べ、できることを考える。	10 時間	・ＳＤＧｓについて調べ学習を行う。
学んだことを家庭や地域に発信する。	５時間	・これまで学んだことを基に「ＳＤＧｓかるた」を作成し、校内や地域の人に紹介する活動を行う。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

ゑしんの里観光公社

板倉おもてなしの会

水土里ネット関川水系

環境と人間のふれあい館

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

成果

・環境と人間のふれあい館を訪問し、水質調査実験を行い、展示物の説明を受けた。水環境が自分たちの生活と深く結び付いていること、自然環境を維持するためには一人一人の小さな努力の積み重ねが大事なこと、新潟水俣病から学んだことを忘れてはいけないことを実感を通して学ぶことができた。

・環境と人間のふれあい館での学習が、自分たちの生活を見直すきっかけとなり、ＳＤＧｓの学習へと発展した。

・新潟水俣病患者が差別や偏見に苦しんだことを知り、正しく理解することの大切さ、差別や偏見の不当さ、相手に寄り添うことの大切さについて考えを深めることができた。

課題

・感染症対策のため、語り部のお話を直接うかがうことができず、ＤＶＤと資料による学習となった。感染症対策は今後も必要となるため、児童が実感をもち自分事として考えを深めることができるよう、学習の進め方を工夫していくことが課題である。



別所川の環境調査



環境と人間のふれあい館見学

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立板倉小学校	４年（１９人）	１２月７日	総合	校長　竹田正子

主題名　新潟水俣病が教えてくれたもの

ねらい　新潟水俣病が自然を壊し、住民の健康を奪い、地域や家庭の絆をも壊したことを理解し、人と自然とのかかわり、人と人とのかかわりについて考えを深める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5分	板倉区の川の環境を振り返ろう。		
	・これまでの環境調査の画像を示し、地域を流れる川の環境を想起させる。	・きれいな川に住む水生生物が何種類もいて、きれいな川だと分かった。 ・カワセミが飛んできてきれいな川。 ・上流で水遊びをしたとき、水が透明で冷たくて楽しかった。 ・ペットボトルやプラスチックの袋がたまに流れていて、完全にきれいだと言えない。	画像
２０分	資料やＤＶＤから新潟水俣病のことを学ぼう。		ＤＶＤパンフレット「新潟水俣病が教えてくれたもの」
	・公害病の歴史や背景について簡単に説明する。 ・新潟水俣病の原因、患者の症状、患者が何に苦しんだかを調べることを確認する。 ・ＤＶＤを視聴し、分かったことをワークシートにまとめるよう指示する。	・きれいだった川が工場排水で汚染された。 ・食物連鎖で人間の体にも害が起こった。 ・患者は、手足のしびれや震え、耳が聞こえない、味やにおいがわからない、言葉がうまく話せない、視野が狭くなる、歩けないなど、いろいろな症状で苦しんだ。 ・「怠けている」「水俣病のふりをしている」「うつるとこわい」「孫の代までたたられる」「金儲けをしている」等、差別されて心も苦しかった。	
２０分	患者への差別をどう思いますか。		
	・自分の考えがまとめられるようワークシートに書くよう促す。	・「金儲け」「たたり」と差別した人はひどすぎる。 ・本当につらくて我慢しているのに、つらさも知らずに悪口を言うのはおかしい。 ・なりたくて病気になったのではない。差別されて患者さんは体だけでなく心も苦しむ。 ・本当のことを知らないで勝手に決めつけるのはいけない。差別は絶対にいけない。	

	患者の人たちへの差別をなくすために、どうしたらいいでしょう。自分たちにできることを考えよう。		
	・考えが深められるよう、一人一人が考えをまとめた後、話し合い活動を行う。 ・正しい知識と判断、差別を見逃さず立ち向かう決意、環境を守る取組等、今後の生活で実践していくことをまとめ、意欲を高める。	・相手がどんな気持ちになるかを考えて差別は絶対にしない。 ・水俣病のことをきちんと知らないで決め付けないように差別する人に呼び掛けたい。 ・患者さんの話をよく聞いて理解したい。 ・環境を壊さないようにみんなで気を付けていく。	
	環境と人間のふれあい館でさらに学びたいことはどんなことでしょう。		
５分	・環境と人間のふれあい館見学のめあてを立てるように促す。	・食物連鎖のことが知りたい。 ・今の阿賀野川の様子が知りたい。 ・環境を守る方法を学びたい。	

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・差別をしている人に「患者さんは何も悪くないのに責めるのはいけないことだよ」と言って、差別された人の心の支えになってあげたい。差別をなくすためには、「差別された人の傷は決してうまらないからやってはだめだ」と呼び掛けていきたい。

・患者さんの苦しい思いを知らないのに勝手に決めつけては絶対にだめだと思う。患者さんの話をよく聞いて、水俣病の本当の意味をよく知らせたい。水俣病の本当のことを正しく知って、間違ったうわさや決め付けはしないようにしたい。

・水俣病になりたくてなったのではないから苦しんでいる人のことを傷付けてはいけない、差別しては絶対にいけない。嫌なことを言われた人の心が傷ついて、その傷はずっと残るから、言う前に気を付けていきたい。自分がされて嫌なことは絶対にしない方がいい。

・患者さんに声をかけたり、困っていたら他の人と同じように接したりしていきたい。話す時も手伝うときも、みんな同じ人間だから差別しないでいつもと同じくしたい。

・食物連鎖で魚を食べた人間の体にも被害があったことが分かってびっくりした。自然はみんなつながっているので、山も川も水も生き物も大切にしないといけないことが分かった。

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	三条市立月岡小学校	担当(職・氏名)	教諭　岡田　藍
学習テーマ	SDGs の視点で環境問題について考える		
活動のねらい	月岡小学校の地域を流れる田川、五十嵐川は信濃川と合流し、多くの農作物を育てたり､工業用水として利用されたりしている｡水害で大規模な被害が起きたり、水の汚染で生活環境が変わったりすることなどを知り、自分の生活を見つめ直し、広い視野を持って環境を守るための行動に繋げる。		

○　新潟水俣病とのかかわり
水が汚染されることで生活にどのような影響を与えるかについて知る。水俣病の語り部から体験談を聞き､差別や偏見の実情を深く理解する｡公害問題を二度と起こさないよう地域の水質問題に関心をもち、自分たちにできることは何かを考える。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）
・校区の川で生き物採取や水質調査をし、水環境の実態を把握する。
・校区の川でクリーン作戦をし、地域の川を綺麗にする。
・環境と人間のふれあい館を訪問し、新潟水俣病を通して水環境の大切さや人権について学ぶ。
・水俣病について道徳授業を実施する。

○　活動詳細
・生活圏にある川の生き物を調べる。パックテストで上流と下流の川の水質を比較する。
・新潟水俣病で起こった差別や偏見について知る。
・環境と人間のふれあい館で語り部から新潟水俣病の教訓を語ってもらう。
・川のクリーン活動で地域の清掃活動を行う。

実施期間	４月～　３月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
総合的な学習の時間 SDGs について調べる	４	SDGs について、日本ユニセス協会や小学生のための SDGs などの HP を参考資料として調べさせる。
7.13 水害について調べる	５	7.13 水害について被害の範囲や当時の様子などについてゲストティーチャーを招いてお話いただく。
地域の川の水質調査をする	４	講師を招いて田川と新通川の水質調査（パックテスト）比較をする。田川に住む生き物を採取する。
三条市ごみ処理センターの見学をする	４	下水を川に流すまでにどのような工程があるか施設見学し説明を受ける。
五十嵐川の河川ごみ拾いをする	４	7.13 水害慰霊碑の見学と河川のごみ拾いをする。
各グループで学んだことをまとめる	１０	水害、上下水道、水生生物、ごみ問題について学んだことをそれぞれグループでまとめる。
新潟水俣病について知る	６	環境と人間のふれあい館を訪問し語り部の動画を視聴する。新潟水俣病について説明を受ける。

学んだことを作文にまとめる	５	これまで総合的な学習で学んできたことから考えたことを作文にまとめる。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・「エコクラス認定制度」三条市市民部環境課　環境衛生係
・にいがた里山研究会　小林良範様
・三条市下水処理センター

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

成果

・地域の川に足を運び、生き物を通して川や地域に愛着を感じるようになった。
・ふれあい館で語り部の映像を視聴し、新潟水俣病について知っただけでなく、差別や人権、人間の尊厳に対する意識を高めた。
・４年生で浄水の学習を行い、ダムの水が飲料できるようになるまでを学習したが、今回、下水がどのようにしてまた川に戻るのかに関心をもち、下水処理センターを見学したことで、川に汚水を流すことの危険、新潟水俣病がなぜ起きたのかについてより深く理解することができた。
・川の水質調査を行ったことで、上流の川の水質と、生活用水が流れている下流の川の水質では違いがあることを実感することができた。このことから、生活排水について関心をもち、油汚れなどは新聞紙などで拭き取ってから洗うなど、自分にできることを考え実践することができた。
・命の大切さや人権という意味で、「健太いのちの教室」を実施したことで、水の有難さと脅威について改めて考えることができた。

課題

・県内で起きた新潟水俣病であり、語り部の話を聞いたり道徳の授業をしたりすることで人権意識を高めることはできたが、水俣病の歴史的事実などについて各自の知識を深めるところまでに至らなかった。
・「水×SDGS」として広く環境問題について扱ってきたので、地域の川の水質調査から水質汚染、新潟水俣病について関心をもつことができた半面、地元で被害を受けた７．１３水害をテーマにしていた子が多かったため、そこから水俣病へ繋げることが難しくなってしまった。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
三条市立月岡小学校	6年生　62名		道徳	教諭　岡田　藍

主題名　教材名　　「ある新潟水俣病患者の訴え」

ねらい　・四大公害病の１つでもある新潟水俣病が発生している事実を知り、そのことでたくさんの人々が命を奪われたり、心身や家庭を破壊されたり、差別や偏見に苦しんだりしていることをとらえる。

・水俣病の原因追及や公害認定に向けて、懸命に戦ってきた人の生き方を学ぶことを通して、差別や偏見に屈することなく、立ち上がっていくことの大切さを学ぶ。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5分	○新潟水俣病について知っていることを出し合う。 ○全文を読み、簡単な感想を書く。 ：教師が範読し、分からないことや難解語句を説明しながら通読する。	**・聞いたことはある。** **・新潟水俣病とは、どこで起きたことなのか？** **・昨年公害で学習した気がする。**	・「生きるⅢ」p、27
15分	○「わたし」を「ぼろぼろの状態」にしたのは何ですか？		
	○「わたし」を「心も体もぼろぼろの状態」にしたのは何かを考える。	**・夫や子どものこと。** **・職場でひどい扱いや疲れ。**	
15分	○「その後の行動」の中で「わたし」が受けた差別や偏見はどのようなものでしたか。また、その時にどんな気持ちになりましたか。		
	○その後の「わたし」の行動を読み取る。 ：出てきたことを構造的に板書し、その後の行動が分かるようにする。 ○「その後の行動」の中で「わたし」が受けた差別や偏見について話し合う。 ：公害病の裏には様々な差別や偏見が存在していることにまで話し合いが深まるようにする。	**・金がめあてだろう、という誤解** **・周囲からの冷たい視線。** **・誤解のある悪口。** **・欲望のためでなく本当に苦しんでいるのに、間違った差別** **・病気を黙っていた方がいいという考え。**	
10分	○差別や偏見の中でも負けずに闘えた「わたし」を支えたものは何だと思いますか。		
	○それらに立ち向かった「わたし」を支えたものは何かについて考える。 ：闘い続けるためには様々な支援が必要なことに気付かせる。 ○差別に負けずに闘った「わたし」の生き方について感想を書く。	**・真実を伝え偏見に負けないぞという強い思い。** **・同じ苦しみを持っている人たちとの協力や支え。** **・諦めない心。** **・強いメンタル。**	

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・「病気で多くの人が苦しむだけでなく、さらに誤解から偏見を受けて苦しむ二重の苦しさがあったことがわかった。」

・「新潟水俣病のことをきちんと理解し、昔の人の思いを受け継いで自分で伝えていきたい。」

・「差別をされると悲しい。差別や偏見をせず、きちんと事実を知り、正しいかどうかを確認して、言葉を選んでつかっていきたいと思う。」

・「よく知りもせず、人から聞いた噂などで相手を判断したり何かを言ったりするのはよくないということが改めてわかった。このことをきっかけに自分も噂話などで相手を判断しないようにしたい。」

写真





（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	小千谷市立南小学校	担当(職・氏名)	教諭　・　本間　陽子
学習テーマ	総合的な学習の時間　「南戦隊　信濃川を守るんジャー」		
活動のねらい	小千谷市に住まう子どもたちや新潟県に住まう人々にとってかけがえのない存在である信濃川の環境を調べ、それを守る実践につなげていく。		

○　新潟水俣病とのかかわり

日本海へ流れつく信濃川の水質を学ぶ中で、川の環境が徐々によくなってきていることに気付くことで、先人がどのような苦労や困難に立ち向かってきたのかを知り、新潟水俣病について深く知ることで、より身近な信濃川を大切にしようとする。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

（１）社会科「わたしたちの新潟県」

①新潟県の地図を見て、大きな川として信濃川と阿賀野川が日本海に流れ着いていることを知る。

②阿賀野川の源流を地図で調べ、阿賀野川流域にどんな建物や施設があるのかということに気付かせ、調べる。

③阿賀野川流域も自然豊かであり、小千谷市南地区に住まう私たちの生活と何ら変わらないことを知る。

（２）人権教育学習　新潟水俣病について知ろう

①新潟水俣病について知り、情報収集をする。パンフレットやDVD等の資料の活用

②新潟水俣病で苦しい思いをした人々の気持ちに迫る。（７月人権教育）

（３）信濃川と阿賀野川について実際に行って調べ、考え、まとめ、行動しよう。

①信濃川源流地区の川上第二小学校4年生とお互いの環境学習について伝え合う。(現地見学、体験やオンラインで)（７月・１０月・２月）

②環境と人間のふれあい館に行き、新潟水俣病について深く知る。（１１月）

③環境新聞を作り、新潟水俣病や環境と人間のふれあい館で学んできたことをまとめる。

④小千谷南小学区のゴミ拾いや環境ポスターの掲示をしに活動する。

○　活動詳細

実施期間	４月～２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
社会科 「わたしたちの新潟県」	１０	・新潟県の全体像をつかみ、自然豊かなところであること、水が生活に欠かせないものであることを知る。 ・川の水を使ったさまざまな施設に見学に行く。 （ごみ処理施設・発電所・浄水場・妙見堰等）
人権教育学習 新潟水俣病について知ろう	３	・新潟水俣病について調べ学習をする。 ・事前学習をしたうえで、パンフレットやDVD資料を見て感想を伝え合い、話し合い活動を行う。 ・心を痛めた人に気持ちに迫り、差別について考える。
信濃川と阿賀野川について調べ、考え、まとめ、行動しよう。	１０	・実際に信濃川の様子を見て、汚れているのか否かを確かめる。

		・信濃川源流地域の川上第二小学校と、お互いの環境学習について伝え合うｋとで、私たちの英勝人川が深くかかわっていることを確かめる。 ・「環境と人間のふれあい館」に行き、語り部さんの話を聞く。また、施設内を見学し、実践につなげられることはないか考える。 ・信濃川の環境保全活動を行う。（サケの稚魚放流・ゴミ拾い清掃活動・ポスター掲示活動）

○　協力団体・協力者等

・環境と人間のふれあい館・信濃川事務所（妙見堰）

・小千谷市漁業組合　・JR 東日本信濃川発電所　・長野県南佐久郡川上第二小学校

○成果と課題

＜成果＞

・阿賀野川で起こったことを自分ごととして捉え、問題意識をもって調べたり、見聞きしたりすることができた。

・「環境と人間のふれあい館」を訪れたことで、より身近な環境問題に取り組もうという意欲が増した。

・語り部さんの熱量を感じて、「差別はどんなことがあってもしてはいけない」ということが分かった。

・事前に資料を読んだり DVD を見たりしてから人権学習や見学を行ったことで、主体的に学ぼうとする意欲が高まった。

・他行と学びを伝え合ったり、まとめ新聞を書いたり、発表をする機会を設けたりすることで、これまでの学びを振り返ることができ、より環境保全の意識が高まった。

＜課題＞

・「差別や偏見を許してはならない」という思いは芽生えているが、それが常に持続していくように、また、周りの人にも注意を払うことができるようにするためには、継続して支援を続けていく必要があると考える。

・新潟水俣病で学んだことを身近な信濃川を守る活動へと移行してきたが、一過性のものにならないように、行動を子どもたちの心に根付かせていく必要があると考える。

学習報告会（２月２４日）
参観者　保護者　地元新聞社
長野県川上第二小学校４年生（zoom にて）



サケの稚魚放流会（２月１５日）
協力者　JR 東日本信濃川発電所
小千谷市　小千谷漁業組合



（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
小千谷市立南小学校	**1学級（17名）**	**12月2日**	**学級活動**	**教諭 ・ 本間 陽子**

主題名　新潟水俣病から学ぶ環境保全　（人権教育）

ねらい　新潟水俣病が環境や地域住民の生活を一変させたことを知り、安心して生活できる環境を自分たちの手で作り上げる主体的な態度を養う。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5分	・事前に新潟水俣病について調べたことから、疑問や不思議に思うことを挙げさせる。	・治らない病気にかかってしまっているのに、差別をする意味が分からないな。 ・魚を食べて水俣病になってしまったのに、なぜ今も魚を食べ続けるのか。	新潟水俣病が教えてくれたもの
	めあて 新潟水俣病にかかった人を助ける方法をわたしたちが考えよう。		
5分	・新潟水俣病の患者さんたちの思いを確認する。 （環境と人間のふれあい館での見学・語り部さんの話、資料から）	・体が曲がったり、関節がいたくなったりした。 ・耳鳴りがずっとするようになった。 ・頭痛がする。・なんでわたしがかかるんだ。 ・差別を受けることが一番つらかった。 ・病気になってしまったことを理解してもらえないことが悲しい。	
5分	・どうして、新潟水俣病に対して差別や偏見が起こったのか。	・他人ごとだから。 ・水俣病ということがまだ誰にも信用されていなかったから。 ・お金をもらえてひがんでいた。	
25分	・水俣病の人も、その周りの人たちも救う方法はないだろうか。 （子どもたちで話し合い）	・今でも、新潟水俣病について知らない人がいるだろうし、自分もそうだったから、そういう病気で苦しんでいる人がいることを知らせる。 ・もう二度と新潟水俣病の患者さんを増やさないように、環境を守っていく活動が必要。 ・差別をするのはされたことがないからするんだと思うので、自分ごととして感じてもらう。そのために、劇をする。 ・川をきれいにするためのポスターを作る。	

		・新潟水俣病についての説明会を開く。 ・ボランティア活動をする。 ・新潟水俣病をたくさんの人に分かってもらって、患者さんの気持ちになってもらう体験会をする。 ・自分たちが新潟水俣病だけじゃなくて、普段から差別や嫌な言葉遣いをしないように気を付ける。	
5分	・振り返りをする。 差別はいけないこと、今もいろいろな差別があることを受け止め、「自分ごと」として考えさせる。	・調べたことや見聞きしたことを正しく伝えていくことが大切だと思いました。差別を受けたらどんな気持ちになるのかをみんなが分かるような体験をしたらいいと思います。 ・「かわいそう」だと思うのではなく、今できることは何かを考えて実行していくことが大切だと思います。	

授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・差別をしている人は、どんなに差別が辛いのか分からないからするんだと思います。それを体験するっていうのはいいアイディアだと思うけれど、それをすることはできないと思うから、差別された人の気持ちを伝えていくことが大切だと思いました。

・みんなの話を聞いて、今自分ができることは学区のゴミ拾いだと思いました。阿賀野川の環境を守っていきたいけれど、まずは生活で使わせてもらっている信濃川をもっともっと大切にしていきたいと思いました。

・差別することは、している人の心も汚れていっているということに気付いてほしいと思いました。ちくちく言葉を言うことと同じだと思うので、やっぱりちくちく言葉はよくないと思いました。

・ポスターを作って、川の環境を守る活動をしていくことが病気を防ぐことになり、そして、それが差別を生まなくするんじゃないかと思いました。

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	妙高市立新井中央小学校	担当（職・氏名）	教諭　杉本　慎一 教諭　広瀬　美結
学習テーマ	「私たちの食と命～体験から学ぶ米作りと新潟水俣病～」		
活動のねらい	・米作り体験活動を通して、「生き物」の「いのち」を食べることや、そのために行う人間の行為の意味を自身に問い直そうとする態度を育む。 ・新潟水俣病に関する調査・体験活動を通して、人間と食、身近な環境とのつながりについて考えをもち、偏見や差別の解消のために、自分たちに出来ることを行動しようとする気持ちを高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・資料活用により、阿賀野川流域の人々の生活や「新潟水俣病」の原因・症状・被害・裁判等についての理解を深める。
・「環境と人間のふれあい館」への施設訪問を行う。その際、語り部の方から直接体験談を聴き、偏見や差別の現実を深く学ぶ。
・「新潟水俣病」にかかわる学習を根拠にして、差別をなくすために自分自身で出来ることを考え、文章に表す。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

①米作り農家の方の指導を受けながら、米作り活動を行った。（４月～１０月）
②栽培した米や生きている魚（ニジマス）の調理をとおして、「いのち」をいただくことについて考えた。（９月）
・ニジマスの調理：自然教室の活動の一つとして行った。
③資料を活用し、「阿賀野川」がその地域の人々の生活に密着した川であることや、「新潟水俣病」の概要を学んだ。（９月）
　授業を通して「新潟水俣病」の被害者の思いや願いを理解したり、差別解消のために行動しようとする気持ちを高めたりした。（９～10 月）
・今年度は資料館より配付の資料と DVD２本（水俣病の概要、語り部講話）より学習した。
・資料をもとに水俣病に関連した人権教育、同和教育の授業を行った。
④「食べる」一連の活動や食糧生産について調べたことや体験したことを他の学年や保護者に向けて発表した。(12 月)
⑤食や環境、差別につい考えたことを振り返り、自分が今後よりよく生きていくために、大切にしたいことを意見文や作文にまとめたりした。（１月～２月）

○　活動詳細

実施期間	令和３年９月～　令和３年１２月	
主な学習内容・活動内容	**時間**	**指導・支援の内容**
新潟水俣病に関する学習	2	DVD 資料などを用いて、新潟水俣病の原因・被害の様子などを理解した。
〃	4	語り部の講話（ＤＶＤ）を聴き、被害者の心情を理解し、差別解消のために自ら行動する気持ちを高めた。
〃	5	新潟水俣病に関する新聞記事から､被害者が心や体の苦しみに耐えながら前向きに生きる姿に共感し､自らできることは何かを考えた。
食と命を考える学習	2	ニジマスをさばいて調理し､食べる活動や振り返りから命をいただくことについて考えた。
学びに基づく表現活動	１０	学びから得たことを、学習発表や作文で表現する。

○　協力団体・協力者等

・稲作指導：長澤　政敏様、春美様（地域住民）
・ＤＶＤ学習：立川　小三郎様、水澤　洋様、（新潟水俣病 語り部）
・資料、新聞記事：小武　節子様（新潟水俣病被害者）

○　成果と課題

《成果》

・川魚を自ら調理し食べたことにより、命をいただいて今の自分の命があることを実感できた。児童は魚をさばくことにつらい思いを感じながらも一生懸命に調理し、「私たちが生きていくために命をいただいている。」と感じるようになった。「川は人間を含めた多くの命を育む所」ということに気付いた。
・初めにDVDを視聴し、新潟水俣病への正しい理解を得ることができた。児童は病気の実態や苦しむ人がまだいる事実を初めて知り、工業廃水が原因による公害であることを理解した。
・新型ウィルス感染症対応のため、環境と人間のふれあい館を訪れることができなかったが、代わりにＤＶＤをお借りして語り部の講話を視聴した。語り部である立川様、水澤様のお話を聴き、体と心の苦しみに耐えながら、前向きに生きる姿を学んだ。児童は、新潟水俣病による不当な差別に憤りを感じ、自分にできることを考えた。
・新潟水俣病について理解を深めた児童は、「水俣病についてもっと知りたい」「学んだことを家族や身近な人にも伝えたい」という思いをもち、学習発表会で学んだことやこれからの自分たちの行動について保護者の前で発表した。
・新潟水俣病の被害者に関する新聞記事からは、過去に受けたひどい差別や病気のつらさを知った。そして、被害者の小武さんが差別に負けずに立ち上がり、解消のために奮闘されている姿に感動し、自分にできることを考え、行動したいという思いを強くもった。
・活動のまとめに、語り部の方に自分の思いや考えを手紙に書いて送った。差別の実態から学び、学んだことを生かして、差別や偏見をなくそうという思いを文章に表していた。

《課題》

・生活の中で自分が差別や偏見につながる言動をしていないかを振り返り、自ら気付く力を身に付けていけるように今後も支援を続けていく。
・新潟水俣病、環境学習で学んだことを生かして、よりよく生きるために自信をもって正しいことを行動に表すことができるようにしていきたい。気付いたことを行動に表す勇気をもたせたい。
・新潟水俣病に関して学んだことを、次の学年や他の教科でも学びをつないでいけるように、計画を立てて指導にあたる。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
妙高市立新井中央小学校	**5年1組（28人） 5年2組（28人）**	**10月1日**	**同和教育 関連学習**	**教諭　杉本　慎一 教諭　広瀬　美結**

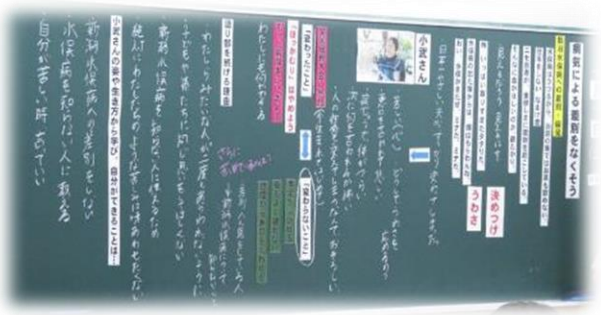
主題名「新潟水俣病がうばったもの」（出典　『いっち　うんめい　水らった』越書房　一部抜粋）
ねらい　新潟水俣病の被害者が受けた差別や偏見に憤り、差別に立ち向かう生き方に共感することを通して、差別を許さず、差別の解消のために自分にできることを行っていこうとする気持ちを高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	◎新潟水俣病に対する偏見や差別にはどんなものがありましたか。		『いっちうんめい　水らった』越書房　一部抜粋
	・これまでの学習を振り返られるように掲示する。	・水俣病はうつる。　・仕事をしない。 ・魚を取りすぎたタタリだ。　・ニセ患者。 ・金欲しさに裁判を起こしている。 →何も知らないのに決めつけている。 ・ミナが来た　→　変なあだ名をつけている。	
	◎語り部の小武さんは、どんな気持ちだったと思いますか。		
	・小武さんが周りから差別されていたことを振り返り、憤る気持ちをもつ。	・人に会わないようにバスに乗るのはつらい。 ・地域の人に言われ、ここに住むのがつらい。 ・体も病気でつらいのに、家族まで変わってしまって悲しい。 ・病気のつらさを分かってほしい。 ・お金をもらっても病気が治らず、仕事ができなくて苦しい。	
20	◎小武さんは、病気の苦しみだけでなく、差別でも苦しんでいました。しかし、今は、「ほっかむりはやめよう」と考えて、新潟水俣病の真実を伝えようとがんばっています。小武さんが書いた本の中にはこのように書かれています。これから読みますので、よく聞いてください。		
	・資料を配る。		
	◎『全国母親大会』という運動に参加した小武さんが「変わったこと」は何でしょう。一方で「変わらないこと」は何でしょう。		
	・ほっかむりをやめるということは、どんなことが起こるか想起させる。 ・小武さんの気持ちにせまるために以下の手順で活動する。	＜変わったこと＞ ・ほっかむりをやめた。 ・前向きな気持ちになった。 ＜変わらないこと＞ ・手足のしびれは変わらない。 ・夜はよく眠れない ・差別は変わらない。	
	◎小武さんは、なぜ、語り部を続けているのでしょうか。		
	・病気によって体もつらいのに、周りの人からの言動によって深く傷付いている小武さんの気持ちに共感させる。	・差別は間違っていると伝えたいから。 ・病気のことを知らない人がいるから。 ・本当のことを知ってほしいから。 ・私たちのような人を二度と出さないため。	

		・子どもや孫たちにこの苦しみを味わわせないため。	
15	◎「ほっかむりはやめよう」と考え、新潟水俣病の真実を伝えようとがんばっている小武さんの姿や生き方、この学習で考えたことを発表しましょう。		
	・自分たちが学んだからこそできることや被害者の方が語り続けているのはなぜかを考えさせる。 ・小武さんが、未来に同じことを繰り返してほしくない、つらい苦しい思いをさせたくないという願いをもって、自分も病気でつらいのに語り続けていることを伝える。	・差別や偏見をなくすために、新潟水俣病を正しく伝える。 ・もっと語り部さんの話を聞き、これからもずっと新潟水俣病に関心をもち続ける。 ・身近な家族から伝えていく。 ・水俣病のつらさや差別で悩んでいる人がいることを伝える。 ・本当のことを知らないと気付かないうちに差別をしてしまう。知ることの大切さを伝える。	

＜活動の様子と板書＞





授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・新潟水俣病は病気だけでなく、近所の人の信頼までうばってしまったことを知った。
・新潟水俣病で差別されている人がつらい思いをしていることが分かった。正しい知識や差別された方の苦しみを知ることができてよかった。自分は絶対に差別をしない。
・病気は自分でなりたくてなったわけではない。自分は差別や偏見など、人に言われて傷つく言葉を言わない。差別はだめだと伝えたい。
・下の学年やこの病気を知らない人に新潟水俣病の症状や差別を知ってほしい。
・小武さんのように差別に苦しむ人がいなくなるように、新潟水俣病の正しい知識をもち、差別を起こさないようにしていきたい。
・今まで学んだことをいかして、差別や偏見をしている人を注意したり止めたりする。
・わたしの身の周りで広く知られていない病気の人が出てくるかもしれないけど、そのときは決して悪口や差別をしないように心掛けていく。
・学習する前に「新潟水俣病はうつるよ」と言っている人がいたら信じてしまったかもしれない。しかし、新潟水俣病について知ったら、うつらないこと大変だったことが分かったので正しい知識を伝えていきたい。
・今でも差別があるので、病気による差別を見たら注意したり、その病気について詳しく伝えたりすることができるようにしたい。
・新潟水俣病について詳しく知り、次の世代へどんどん伝え公害について知ってもらい、公害以外にも病気による差別を防げるようにする。

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	五泉市立五泉小学校	担当（職・氏名）	教諭・柾木寿美子 小林孝俊 浅川　南
学習テーマ	五泉の水博士になろう		
活動のねらい	○　絶滅危惧種トゲソの生態と環境について学び、人間が川をはじめとした自然にどれだけ負荷をかけているのかを知る。 ○　川の汚れが何に起因しているかを知り、水の汚れの測定や浄化について学ぶことで、環境を守る意識を高める。 ○　「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居や旗野秀人さんのお話などから、新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り、環境を守る意識を高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

水の汚染が希少淡水魚トゲソに危機を及ぼしていること、また水を汚したことにより近くの阿賀野川で新潟水俣病が発生したことを知る。そして、患者さんの支援をしている旗野秀人さんのお話を聞いたり、「阿賀のお地蔵さん」の絵本や新潟水俣病学習用動画を見たりして、学びを深める。

○　活動概要

◇　人間が川を汚したことが原因で、トゲソが絶滅の危機に瀕していることを知る。そして、人間が生活によってさまざまな汚れや負荷を地球にかけていることを学ぶ。また、水の汚染により近くの阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知る。

◇　新潟水俣病の患者さんの支援をしている旗野秀人さんの話を聞き、公害の実態を知る。そして、このような環境問題に対し、どのように考え行動していったらよいかを調べ学習を通して考える。

○　活動詳細

実施期間	令和３年５月～１０月（３５時間）	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
トゲソについて知ろう	7	・トゲソについて、インターネット等で調べる。 ・「トゲソの会」の方から、トゲソの生態について学ぶ。 ・学んだことや考えたことをワークシートにまとめる。
トゲソの里を訪ねよう	5	・「トゲソの会」の方の案内で、トゲソの生息地を訪問し、トゲソや周囲の自然の観察、外来種の駆除活動を行う。 ・気付いたことや学んだことをワークシートにまとめる。
水の循環について知ろう 水の汚れを調べよう	3	・「トゲソの会」の方から、水の循環について学ぶ。ＣＯＤパックテストで、３種類の水の汚れを調べる。 ・学んだことや考えたことをワークシートにまとめる。
水の浄化実験をしよう 新潟水俣病について知ろう	4	・「トゲソの会」の方から、水の浄化や新潟水俣病について学び、どうしたら水を汚さないようにできるのか考える。 ・学んだことや考えたことをワークシートにまとめる。 ・「トゲソの会」の方に、学習の感想やお礼の気持ちを伝える手紙を書く。

新潟水俣病について調べよう	7	・新潟水俣病について、インターネットやパンフレットで調べ、ワークシートにまとめる。 ・新潟水俣病学習用動画「新潟水俣病をもっと知ろう！学ぼう♪」を視聴し、学びを深める。
旗野さんのお話を聞いて考えよう	3	・旗野秀人さんによる「阿賀のお地蔵さん」の絵本の読み聞かせや新潟水俣病についての話を聞き、新潟水俣病の実状について理解を深める。 ・旗野さんに、学習の感想やお礼の気持ちを伝える手紙を書く。
学習したことを新聞にまとめ、発信しよう	6	・五泉の水環境について学んだことや伝えたいことを新聞にまとめ、発信する。

○　協力団体・協力者等

ＮＰＯ法人　五泉トゲソの会　中村吉則様　齋藤明様

新潟水俣病安田患者の会　旗野秀人様

○　成果と課題

【成果】

・「トゲソの会」や旗野さんの協力により、トゲソや新潟水俣病について体験的に学ぶことができ、児童が身近な水環境や自然について、関心をもって学習に取り組む姿が見られた。

・新潟水俣病学習用動画「新潟水俣病をもっと知ろう！学ぼう♪」は、４年生の児童にも分かりやすい内容で、新潟水俣病の発生原因や現状などがよく伝わり、とても有効だった。

・学習を進める中で、児童に「きれいな水を守るために自分たちにできること」を考え実践していこうという意識が芽生え、今回の学習と自分の生活とを結び付けて考えようとする姿が見られるようになった。

【課題】

・新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される時期と学習活動の時期が重なり、特に「発信」の活動が不十分になってしまった。



トゲソを知る



トゲソの里見学



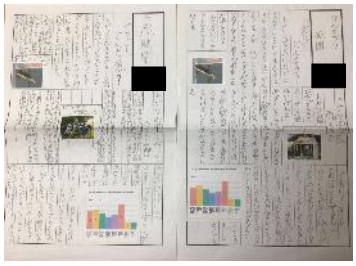
水の循環・ＣＯＤ



浄化実験



旗野さんのお話



作成した新聞

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立五泉小学校	**4年生3クラス（79名）**	**9月30日**	**総合学習**	**教諭　柾木寿美子** **小林　孝俊** **浅川　　南**

主題名　五泉の水博士になろう

ねらい　「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居や旗野秀人さんのお話から、新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り、環境を守る意識を高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
20	○旗野秀人さんを紹介する。 ○旗野秀人さんから「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしてもらう。	●読み聞かせを聞く。	・「阿賀のお地蔵さん」のプリント ・パワーポイント（絵本の挿絵）
20	旗野さんに質問しましょう。 ・事前に新潟水俣病についての質問を考えさせておく。  	●挙手して、質問する。 ●ワークシートにメモを取りながら、話を聞く。 【子どもたちの質問】 ①どんなしょうじょうが出るのですか。 ②かんじゃさんは、何人くらいいるのですか。 ③魚にも、しょうじょうが出るのですか。 ④今も苦しんでいる人がいるのですか。 ⑤どんな人がかかるのですか。 ⑥治す方法はあるのですか。 ⑦水俣病は、他の場所でも起こっているのですか。 ⑧なぜ差別が起きたのですか。 ⑨工場は、今どうなっているのですか。 ⑩水俣病の毒は、どんな毒なのですか。 ⑪人から人にうつることはあるのですか。 ⑫水俣病のような症状は、他の病気でもあるのですか。	
5	○振り返りを書かせる。	●授業を通して学んだことや感じたこと、考えたことをワークシートに書く。	

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・今日、旗野さんのお話を聞いて、インターネットでは分からなかったことが分かって、よかったです。

・水俣病のことが前より分かりました。直接お話を聞けて、よかったです。

・旗野さんは、ぼくたちが調べてこなかったことを話してくれました。いたいのを感じないこと、食中毒だということ。しびれをやわらげる薬しか出ていなくて、治す方法が見つかっていないなんて、つらいです。

・目に見えないしょうじょうで、差別・へん見が起きやすいことは、とてもこまったことだと思った。そのような人たちのそんざいが最近やっと知ってもらえたのかなと思った。これからも、水俣病のことを調べてみたい。

・水俣病は、人だけでなく、魚や動物もかかることが分かりました。水俣病が治る薬が、早くできてほしいです。

・旗野さんのお話を聞いて、お母さんのおなかの中の赤ちゃんも新潟水俣病になることが分かりました。新潟水俣病は、とても大変な病気だと思いました。

・水俣病には、いろいろなしょうじょうがあることや、たくさんの未認定のかんじゃがいることが分かりました。

・「阿賀のお地蔵さん」のお話が心に残りました。お地蔵さんには、「もう二度とこんなことが起こらないように」という願いがこめられていると思いました。

・水俣病にかかった人たちは、苦しい思いをいっぱいして、つらかっただろうなと感じました。川をよごさないようにしていきたいと思いました。

・じわじわとしょうじょうが出て、大変だなと感じました。

・こんな病気が二度と起きてほしくないです。

・これから、こんな病気で死んだり苦しんだりする人が出ないように、みんなでかんきょうを大切にしていきたいです。

・私が心にのこったのは、差別に苦しんでいる人がいるということです。さいばんを何回もおこしているのに、まだその苦しみに気づいてくれていないことを知ったのと同時に、水俣病のしょうじょうも分かって、大変さがよく伝わりました。

・ぼくがいちばん心にのこったことは、水俣病を治せる薬がないということです。水俣病が今も続いていることは知らなかったので、早く解決できるといいなと思いました　.

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉南小学校	担当(職・氏名)	４年　教諭　水澤知世　他１名 ５年　教諭　石本恵美里　他２名
学習テーマ	４年総合的な学習…五泉市に生息する魚トゲソを通して水と汚れなどの様々な関係について学ぶ。 ５年社会科……社会科の公害について学習する単元において、新潟水俣病の発生と被害について学ぶ。		
活動のねらい	４年…きれいな水にすむ魚トゲソについて学び、人間が生活する上で川などの自然にどれだけ負荷をかけているかを知ることができる。川などの汚れの原因を知ることにより、水の汚れの測定や浄化について学ぶことができる。 ５年…「阿賀のお地蔵さん」の話と旗野秀人さんの話を通して、新潟水俣病は防ぐことのできた病気で、差別や未認定で苦しんでいる人がいること、二度と同じ過ちを繰り返さず、地域の絆を取り戻したいという願いを知ることができる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

４年…人間が川を汚したことが原因でトゲソが絶滅に瀕していることを知る。そして、人は生活によってさまざまな汚れや負荷を地球にかけていることを知る。その中で水の汚染により近くの阿賀野川で新潟水俣病が起きたことを知る。これらの環境問題に対して一人一人がどのように考えたらよいのかをグループで考える。

５年…社会科の授業で公害について学び、阿賀野川を汚染して新潟水俣病が発生した事例を学ぶ。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

４年…五泉に生息する絶滅危惧種トゲソの生態を学んだ。子どもたちは、トゲソは簡易ＣＯＤパックテストなどにより、家庭からの排水汚れが絶滅の原因であることを知る。そして、トゲソだけでなく、近くの阿賀野川で工場排水によって新潟水俣病が発生したことについても学んだ。その後、水の浄化実験を通して、水を汚さないためにはどうしたらよいかを考えた。

５年…阿賀野川で起きた公害について、その背景や新潟水俣病の被害に関する話を聞いた。

※学習の成果を発表した動画を、保護者に見ていただいた。（４年）

○　活動詳細

４年生は５回にわたってトゲソの関連で現地訪問、授業、実験を行った。またトゲソのビオトープで生息数調査を実施した。５年生は３月に旗野秀人さんから、「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしていただき、新潟水俣病について、子どもたちの質問に答えていただいた。

実施期間	令和３年６月～令和４年３月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
① 6 月 2 日（水）4 年生	9:35～11:30	トゲソのことを知ろう。トゲソってどんな魚？
② 6 月 10 日（木）4 年生	9:35～11:30	トゲソの生息地の見学。 水温を計測、地下水を味わう、ザリガニ駆除の手伝い。

③ 6月23日（水）4年生 ※クラスごとに実施	8:45～10:20 10:40～12:15	水の循環。水の旅を考える。水の汚れを調べる。ＣＯＤテスト3種類の水実験。
④ 7月13日（火）4年生 ※クラスごとに実施	8:45～10:20 10:40～12:15	水の浄化実験。新潟水俣病の事。どうしたら水を汚さないようにできるのか。
⑤ 9月9日（木）4年生	9:35～12:15	校内ビオトープ「南の泉」のトゲソ生息数調査。 生きもの調査・水生植物の調査。
⑥ 3月7日（月）5年生	10:40～11:25	旗野秀人さんによる「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせ。新潟水俣病に関わる質問に答えていただく。

○　協力団体・協力者等

ＮＰＯ法人五泉トゲソの会

旗野　秀人さん

○　成果と課題

【成果】

４年生…五泉市に生息する身近なトゲソという淡水魚を通して、水の循環の仕組み、水の汚れの測定、そして水の浄化について学ぶことができた。新潟水俣病を含め、私たち人間がいかに水を汚してきたかを学び、一人一人が環境の保護がいかに大切かを意識するようになった。また、私たちにできる環境保全について考えるようになった。

５年生…理科・社会科の学習で、新潟水俣病について、あがのがわ環境学舎の動画資料や新潟水俣病資料館からいただいた資料を参考にして学んできた。しかし、過去のできごとと感じている児童が多くいた。今回、旗野秀人さんからお話を伺うことで、今も新潟水俣病に認定されずに苦しんでいる人たちがいることを知ることができた。また、新潟水俣病のことを多くの人に知ってもらい、二度と起こさないでほしい、地域の絆を取り戻したいという旗野さんの思いにふれることができた。

【課題】

４年生…校内ビオトープやトゲソ生息地での活動が中心となり、新潟水俣病や阿賀野川については話を聞くだけになった。今後、早出川の水質調査や、阿賀野川の調査活動などを通して、探究範囲を広げ、５年生の新潟水俣病の学習につなげていきたい。

５年生…新潟水俣病の社会科の最後の単元で、調べ活動に多くの時間をかけることができなかった。

今回は、旗野さんへのお礼の手紙で学習を振り返り、表現活動を行ったが、家庭や地域に発信することができるとなおよかった。

【活動成果参考写真】

		
① 6 月 2 日トゲソを知る	②6 月 10 日生息地見学	③6 月 23 日水の循環を考える
		
④7 月 13 日水の浄化実験	⑤9 月 9 日生息数調査	⑥3 月 7 日新潟水俣病学習

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立五泉南小学校	**５年 1･2･3 組（88 人）**	**３月７日**	**社会**	**教諭　石本恵美里**

単元名　**環境をともに守る**

ねらい　**「阿賀のお地蔵さん」の話と旗野秀人さんの話を通して、新潟水俣病は防ぐことのできた病気で、差別や未認定で苦しんでいる人がいること、二度と同じ過ちを繰り返さず、地域の絆を取り戻したいという願いを知ることができる。**

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
25	・旗野秀人さんに自己紹介してもらう。 ・旗野秀人さんから「阿賀のお地蔵さん」の読み聞かせをしてもらう。  ・「阿賀のお地蔵さん」の解説をしてもらう。	○「眉毛の太いおっちゃん」は旗野さんだったんだ。 ○歌を歌っていたおじいさんは、「水俣病患者のくせに」と差別を受けていたんだ。でもくじけなかったんだ。 ○水俣病は、目に見えないしびれなどで苦しんでいた人たちがたくさんいたんだ。 ○地震は自然が引き起こしたものだけど、水俣病は人間が引きおこしたものなんだ。 ○阿賀のお地蔵さんは、熊本県水俣市の石で作られたんだ。	・「阿賀のお地蔵さん」のプリント ・パワーポイント（絵本の絵）
15	旗野さんに質問しましょう。 ・事前に新潟水俣病についての質問を考えさせ、質問するよう指示する。 	○まだ裁判をやっている人たちや、名乗り出ない人たちもいるんだ。県が認めた人たちは 800 人ぐらいなんだ。 ○「あんなに元気なのに畑に行って」など、差別はなかなかなくならないんだ。昔の絆を取り戻したくてお地蔵さんを建てたんだ。 ○熊本・新潟で起きた水俣病は、食物連鎖によるもので、日本が最初だったんだ。水銀による中毒は世界中で起きていたんだ。	

		○差別を止める決定打はないけど、みんなで学んで仲よくなれば、差別はなくなるんだ。 ○裁判は終わるとお金がもらえる。でもお金はなくなる。裁判が終わっても、差別や患者はなくなったわけではない。映画や絵本による文化運動はずっと続いて残っていく。だから旗野さんは映画や絵本を作ろうと思ったんだ。	
5	・振り返りを書かせる。		

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・水俣病は、目に見えない患者もいます。手がしびれるだけの人もいます。だから理解できる人になります。

・旗野さんの話を聞いて、水俣病の問題や差別のことについて考えさせられました。症状が軽い人は差別されて、いろんなところから否定されて、症状が重い人はたたりなどと言われて、水俣病は切ない病気なんだと改めて思いました。目に見えない障害はなかなか気付いてもらえず、裁判を起こしても認めてもらえず、否定されたりしている、それでもがんばっている人たちがとてもすごいと思いました。

・差別や悪口をこわがり、水俣病だということを言っていない人もいるから、少しでも理解してくれる人を増やし、差別を減らしたいなと思いました。

・私は、水俣病が 2 つの意味で怖い病気だと思いました。1 つ目は病気の症状です。生活に大きな支障をもたらす症状が多いので、歩けなかったり話せなかったりして、とても怖いと思いました。2 つ目は差別や偏見です。目に見えない症状が多く、その症状も人によって様々なので、症状に苦しんでいても分かってもらえず、ニセ患者などと言われるところが怖いと思いました。そして、その差別や偏見などが怖くてなかなか病気をあかせないこともその怖さの 1 つだと思います。

・旗野さんは、仲よくすることで差別はなくなるとおっしゃっていました。これからは、たくさんの人と仲よくかかわって、差別もなく偏見もないようにしていきたいです。人を見た目で決めつけないで、その人のことをよく知って仲よくしていかないといけないと思いました。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	五泉市立川東小学校	担当(職・氏名)	4年担任　井村　早智
学習テーマ	トゲソの里　水の里　川東		
活動のねらい	トゲソに関する調査活動､川の環境を守る取組をしている人々とかかわる探究的な学習を通して、 ①トゲソの生態や生息環境、人々のかかわりについて理解させる。 ②課題の解決に必要な情報を収集・比較・分類・関連付けて考える力や表現する力の育成を育成する。 ③進んで生物や人々にかかわり、それぞれが暮らしやすい環境にしていこうとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・水環境が侵された歴史、罪のない人々が昔も今も苦しんでいる事実を正しく理解する。

・水環境を守る大切さを一人一人が考え、水環境を守る実践者としての意識を高める。

○　活動概要

（１）トゲソハウス（ビオトープ）の清掃、維持活動の中から、トゲソの生態や生息環境、使われている水などに関心をもつ。

（２）トゲソの会の講師とともに、トゲソの生態や生息環境、水の循環、水の浄化などトゲソにかかわる学習をし、トゲソに関する知識を深める。

（３）トゲソの生息地の水質、環境調査を行う。また、外来種の駆除活動にも参加する。活動を通して、人が自然（水環境）を維持、守っていく必要があることを理解する。

（４）学校近くの小川（新江川）の水質調査、トゲソや水生生物の生息数調査を行い、身近な水環境がきれいであることを理解する。

（５）トゲソが生息する水と生活の中で使う水の違いや､使われた水がどのように処理されるのかを理解する（社会科と関連)。

（６）新潟水俣病が発生した現地と環境と人間のふれあい館の見学、語り部の方との交流を通して、新潟水俣病の正しい知識を身に付けるとともに、水環境保全の大切さを理解する。

（７）自分たちの学んだことをどのように伝えるか考え、発表する。また、あがのがわ環境学舎の方から当時の様子や語り部の立川小三郎さんの話を聞き、一年間の学習を新聞にまとめ発表する。

○　活動詳細

実施期間	２０２１年６月～２０２２年２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
トゲソハウスの清掃活動 トゲソの観察	５ （常時活動）	トゲソ・水草・水の観察、清掃などの活動を通して、トゲソや水に興味をもつ。

トゲソや水についての学習会、学習会の振り返り	２０	トゲソの生態、水の循環や浄化方法、トゲソの生息地の水質調査、外来種の駆除活動、トゲソや水生生物の生息数調査などを通して、トゲソや水を大切にしようとする心情を育てる。
上下水道の仕組みの理解	５	水の循環や浄化方法について、社会科の学習と関連付けながら学ぶ。
新潟水俣病現地学習会 事前学習とふり返り 生きるⅢ「ある新潟水俣病患者の訴え」	１５	新潟水俣病に関する施設の見学を通して、新潟水俣病の正しい知識を身に付けるとともに、水環境を守っていこうという心情を育てる。
発信活動	１５	トゲソや水環境、新潟水俣病に関して学んだことをまとめ、発信する。また、さらに学びたいと考える環境に関する課題を自ら選択し、調べ活動を行い、まとめる。
学習のまとめ	５	新潟水俣病の被害とその後について学ぶ。多くの患者さんが差別を受け、今でも苦しんでいる人々がいることを理解する。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・ＮＰＯ法人五泉トゲソの会（中村　吉則様）
・新潟市満願寺浄水場（施設見学・資料提供）
・新潟県下水道公社新津浄化センター（資料提供）
・新潟県立環境と人間のふれあい館
・一般社団法人あがのがわ環境学舎（山崎　陽様）

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

・五泉市に生息する絶滅危惧淡水魚トゲソを通して、水の汚れの測定や生き物調査を行いながら、人が自然（水環境）を維持、守っていこうと考えるようになった。
・トゲソの会、環境と人間のふれあい館などたくさんの協力を得ながら、体験的な学習を進めることができた。
・新潟水俣病患者の方の苦しさを学ぶことを通して、自他の権利を大切にしようと考えるようになった。
・学習を進める中で、水の使い方をふり返り、水は資源であることを理解し、水の使い方を改める姿が見られた。

【課題】

・今回の学習をまとめ、発表して終わるのではなく、今後は環境保全、改善に向けた発信者として、子どもたちを活躍させていくには、どのように取り組むとよいのか、検討する必要がある。

写真資料



トゲソハウスの清掃。トゲソハウスに落ちたごみを網ですくったり、伸びすぎた水草を適切な長さに切りそろえたりした。



トゲソ学習会①。トゲソの生態について教えてもらった。その後、トゲソが数を減らしている理由について、みんなで考えた。



トゲソ学習会②。水の循環について考えた。また、生活で使用した水、水道水、新江川の水などの水質調査を行った。



トゲソ学習会③。トゲソの生息地の自然の豊かさを確認した。また、外来種の駆除活動に取り組んだ。



トゲソ学習会④。新江川の水質調査を行い、その後、トゲソや水生生物の採集を行った。



トゲソ学習会⑤。フィルターや活性炭を使用し、よごれた水を浄化する実験を行った。



環境と人間のふれあい館を訪れ、水質検査をしたり、新潟水俣病について資料を見ながら話を聞いたりした。



「阿賀のお地蔵様」を読み聞かせし、実際に千唐仁にある「阿賀のお地蔵さん」を見学し



学習発表会。それまでの学びを保護者を対象に YouTube 配信した。



当時の様子や新潟水俣病の症状、差別や偏見について話を聞いた。語り部の方の講話動画を視聴した。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立川東小学校	1クラス（30人）	12月1日	総合 道徳	井村　早智

主題名　ある新潟水俣病患者の訴え

ねらい　新潟水俣病の原因追究や公害病認定にむけて懸命に取り組んできた人々の生き方を学ぶことで病気に対する差別をなくしていこうとする心情を高める。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	新潟水俣病が発生した地域や病気の主な症状を思い出す。		・iPad ・生きるⅢ ・写真
	・これまでの学習が想起できるような資料を用意し、提示する。 ・いつ頃、どこで、原因はなどの補助発問により県内で発生した公害病であることを再確認する。	発生した地域 ・今昔マップを使用し、旧昭和電工の場所を確認する。 主な症状 ・手足のしびれ・耳鳴り ・めまい・頭痛 	
15	資料を読み、差別を受けた「わたし」の苦しみやその背景について考える。		
	・資料を範読する。 ○阿賀野川は昔の人々にとってどんな存在だったのだろう。	・大好きな遊び場。・魚とりをして食べていた。 ・川魚をとって毎日食べていた。	
	○「わたし」の心や体、家庭を壊した原因は何だろう。	・周りの人が理解してくれない。・焦りや不安。 ・原因が分からなかったことがつらい。 ・差別の言葉、偏見の目で見られること。 ・仕事や家事も上手くできない。	
10	○なぜ「わたし」は病気の苦しみや差別、偏見に負けず生きていくことができたのだろう。	・自分を頼りにしてくれる人、共に戦ってくれる人が支えだったと思う。 ・自分たちと同じように苦しんでいる人たちのために。 ・二度と同じようなことが起きないようにするために。	

5	○もし、あなたが「わたし」と接するなら、どのようなことを大切にしますか。	・「わたし」の思いや気持ちをきちんと聞いてあげたい。 ・差別や偏見をもたず、接していきたい。	
10	○今までの学習をふりかえり、「わたし」への励ましの手紙を書きましょう。	・差別や偏見を許さず、患者に寄り添い、ともに行動しようとする気持ちを高める。	



授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・差別や偏見にも負けず、闘い続けた「わたし」はすごいと思いました。

・水俣病について、もっと学びたいと思いました。そしてたくさんの人にも正しく理解してほしいと思いました。

・新潟水俣病は治らない病気と聞いて、こわいなと思いました。早く治療法が見つかってほしいです。

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	五泉市立村松小学校	担当(職・氏名)	４年担任　清野美紀子
学習テーマ	五泉市に生息する魚トゲソや近くで起きた新潟水俣病を通して、水環境について学ぶ。		
活動のねらい	絶滅危惧種のトゲソの生態について学び、人間が川や自然に負荷をかけていることを知る。水質検査や浄化の活動を通して、水環境への関心を高める。 新潟水俣病について知り、健康的で安心な暮らしのために水環境を守ろうとする意識を高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

人間による水の汚染によりトゲソが絶滅に瀕していることを知る。また、「阿賀のお地蔵さん」を教材とした授業や登場人物である旗野秀人さんのお話から、人間による水の汚染がトゲソなどの水生生物だけでなく、人間の健康や安全にも関わっていることを知り、これからの水に関する環境について一人一人が考えていく。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

五泉に生息する絶滅危惧種トゲソの生態を学び、生息地を見学し、トゲソが絶滅に瀕しているのは水の汚れが原因であることを知った。簡易 COD パックテストや川の観察、水生生物調べなどにより、家庭用排水が水の汚れの原因であることを学んだ。水の浄化実験や新潟水俣病についての学習を通して、水をきれいに保つために人々の努力が必要であることを学んだ。また、学んだことを学習発表会で劇にして発表し、水環境を守っていくことについて家庭や地域の人々に協力をお願いした。

「阿賀のお地蔵さん」を教材とした授業を行い、新潟水俣病患者や住人の苦しみについて考えた。新潟水俣病患者を支援している旗野さんから話を聞き、被害者への差別や偏見の事実や差別や偏見がさらに被害者を苦しめていることを知った。水環境について学んだことや新潟水俣病について調べたことをテキストにまとめ、各家庭に持ち帰り保護者に向けて各自が発表を行った。

○　活動詳細

トゲソの会の方に講師をしていただき、５回にわたってトゲソや水の環境に関わる授業、見学、実験を行った。旗野秀人さんに講師をしていただき、新潟水俣病について学んだ。

実施期間	令和３年６月～令和４年２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
①６月３日（木）	9:35～11:25	トゲソの生態や環境について知る。
②６月１１日（金）	9:00～12:00	トゲソの生息地の見学を行う。水温及び水路の観察とザリガニ駆除の手伝いを行う。
③６月２４日（木）	9:35～11:25	水の循環について考える。COD テストで３種類の水の汚れについて調べる。
④９月１０日（金）	9:00～12:00	学校脇の滝谷川の水生生物を調べ、水の汚染状況を判定する。
⑤９月１６日（木）	9:35～11:25	水の浄化実験を行う。水の汚染による新潟水俣病が起きたことを知る。
⑥１０月２４日（日）	9:20～9:50	学習発表会で学んだことを保護者や地域の人に向けて発表する。

⑦１１月２２日（月）	14:05～14:50	「阿賀のお地蔵さん」を題材にした授業を行う。新潟水俣病の被害者の心情について考える。
⑧１２月６日（月）	9:35～10:20	旗野さんから、新潟水俣病の話を聞く。
⑨２月下旬		水環境や新潟水俣病について学んだことをロイロノートにまとめ、家庭に持ち帰り保護者に向けて発表する。

○　協力団体・協力者等

特定非営利活動法人五泉トゲソの会　　安田患者の会　旗野さん

○　成果と課題

【成果】

五泉市に生息する絶滅危惧種トゲソについて調べることを通して水環境について関心を深めることができた。水の循環、水質調査、川の観察、浄化実験を通して、近くの川はきれいであることを知ると同時に、水の汚れは人間の生活が起因することが大きいこと、きれいな環境を保つためには人々の努力が不可欠であることを学ぶことができた。

また、新潟水俣病などの事例を通して、人が水を汚染してきたことで水生生物だけでなく人の健康や安全がおびやかされたことや新潟水俣病患者やその地域の人が苦しんできたことを学ぶことができた。このことから、水環境をこれからも守っていこうとする意識が一層高まった。

【課題】

トゲソの会、旗野さんから講師をしていただいた活動により、子ども達は多くの気付き、思考を深めることができた。地域の方との交流は子どもの学びに大変役立つ。このことから、地域及び各種団体にさらに働きかけ、講師等、さらに協力をしていただくことが課題である。

【活動成果参考写真】



①６月３日トゲソを知る



②６月１１日トゲソの里見学



③6月２４日水の循環・COD テスト



④９月１０日滝谷川の観察



⑤９月１６日水の浄化実験



⑥１０月２４日学習発表会





⑦11月22日「阿賀のお地蔵さん」授業　　⑧１２月６日旗野さんのお話

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

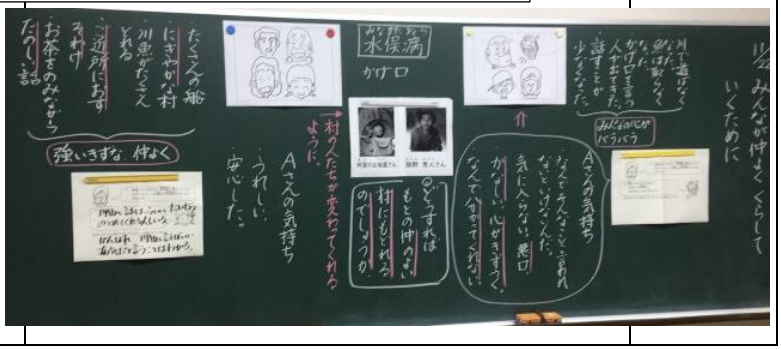
学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立村松小学校	**4年1組（22人） 4年2組（24人）**	**11月22日**	**道徳**	**教諭　藤井つむぎ 教諭　清野美紀子**

主題名　**みんなが仲良くくらしていくために　2―（2）思いやり・親切**

ねらい　**地域が差別や偏見によって結び付きを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して、相手の立場を想像し、相手のことを考えた言動の大切さに気付き、自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。**

資　料　「お地蔵さんにこめられた願い」（新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために　新潟水俣病教師用指導資料集 P29~41）

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5	阿賀野川のほとりの小さな村は、どんな様子でしたか。 ○教師による範読を行った後、水俣病にかかる前の村の様子を読み取らせる。	・川魚がたくさんとれるので近所の人にもおすそわけをしていた。 ・みんなで集まって楽しい話をするなど仲がよかった。	・読み物資料「お地蔵さんにこめられた願い」 ・仲良くしている村人の絵
5	強いきずなで結ばれていた村は、水俣病によってどうなりましたか。 ○水俣病の後の村の様子を読み取らせる。	（水俣病後） ・かげ口を言う人が出てきた。 ・みんなで話をすることが少なくなった。 ・強いきずなで結ばれていたのに、みんなの心がばらばらになった。	・怒ったり、悲しんだりしている村人の絵
10	病気に苦しんでいる上に、さらにかげ口を言われるAさんの気持ちを考えましょう。 ○ロールプレイ 1 を行い、かげ口を言われる患者役として感じたことを発表させる。	・病気で苦しいのになんでそんなことを言われなければならないんだ。 ・かなしい。心がきずつく。 ・なんでわかってくれないんだろう。	・ワークシート
5	どうすれば、もとの仲のよい村にもどれるのでしょうか。 ○旗野さんの言葉を読み、旗野さんが仲のよい村にもどすために行ったことを伝える。	・「阿賀のお地蔵さん」と呼ばれるお地蔵さまをつくった。 ・旗野さんは、お地蔵さんを見て村の人が変わることを願っていた。 ・相手のことを考えた言葉がけが大切だ。	・旗野秀人さんと「阿賀のお地蔵さん」の写真 ・旗野秀人さんの言葉
10	旗野さんの「相手のことを思った言葉」とは、どんな言葉でしょう。 ○患者にかける言葉を考え、ロールプレイ 2 を行う。言葉を言われたときの心情を発表させる。	・「だいじょうぶ。」と心配してもらえて、うれしかった。 ・「病気はつらいね。無理をしないで。」と言われて安心した。 ・「認めてみられるよう、応援するよ。」と声をかけてもらえて、心強かった。	

10	自分の思いや考えを伝えたい相手を選んで、手紙を書きましょう。 ○以下の中から相手を選んで、自分の思いを手紙に書く。 ア　水俣病と認められずにかげ口を言われていた人 イ　かげ口を言っていた人 ウ　旗野さん  	・手紙の用紙

授業後の子どもたちの考え等（手紙の中から一部抜粋）

【ア　水俣病と認められず、かげ口を言われていた人たちへ】
・かげ口を言っていた人が悪いと思います。言われた人が心配です。ぼくはおかしいと思いました。
・水俣病と認められても、工場から補償金が支払われても、病気が治るわけではありません。こういうことがなくなってほしいと思います。
・わたしはみなさんの味方です。かげ口を言っている人がいたら注意します。なので、みなさんもあきらめないでください。
・わたしはみなさんのように困っている人を助けてあげられる人になりたいです。
・水俣病はいろいろな症状があることを知って、水俣病にかかっている人はとてもつらくて大変なんだなと思いました。そのつらさを少しでも多くの人が認めてくれるように、もっと水俣病のことを知ってもらえたらいいと思いました。
・かげ口を言われたらとても心が傷つきます。体も傷ついていると思いますが、心が一番傷ついたのではないでしょうか。それに負けずにがんばっていたことがえらいと思います。
・水俣病と認めてもらえなくても、ぼくはみなさんが大変な病気にかかっていてつらい思いをしていることはわかっているので安心してほしいです。
・ロールプレイをして、水俣病にかかった人の気持ちがよくわかりました。

【イ　かげ口を言っていた人たちへ】
・ぎゃくに自分たちが言われたら傷つくと思うので、かげ口はやめてほしいです。もう二度とかげ口を言わないでほしいです。
・水俣病にかかった人は苦しんでいるのに、なぜ、かげ口を言うのか意味がわかりません。仲がよかったのになぜ傷つけ合うのですか。
・もっと相手の気持ちを考えて行動してほしいです。
・かげ口ではなく、やさしく声をかけたほうがいいと思います。

【ウ　旗野さんへ】
・バラバラになった村の人たちを元に戻そうと考えたのがすごくやさしいなと思いました。
・わたしが、もしその村にいたら、お地蔵さんに会って、笑顔いっぱいの村にできるようにしたいなと思いました。
・村の人の強いきずなを取り戻すために「阿賀のお地蔵さん」をつくった気持ちがよくわかりました。仲良く差別のない村になってほしいです。
・人々のためにお地蔵さんをつくり、地域を守ろうとしている旗野さんの気持ちがよく伝わってきました。
・お地蔵さんのおかげですくわれた人もいると思いますこれからもずっと残っていってほしいと思います。
・旗野さんはやさしい人だと思いました。ぼくも病気の人にやさしくしたいと思います。
・お地蔵さんを見て、みんなが自分を変えていくというアイディアがすごいと思いました。ちょっとでもよくなってほしいという気持ちが伝わってきました。

（様式２）　　小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書

学校名	愛宕小学校	担当(職・氏名)	教諭・村山三枝子 教諭・佐藤　将臣
学習テーマ	五泉市に生息する魚トゲソを導入として，水の汚れや環境問題の基礎的な学習を学ぶ。また，阿賀野川の学習を通して，新潟水俣病を学ぶ。		
活動のねらい	・きれいな水に棲む魚トゲソの生態や置かれている環境について学び，人間が川をはじめとした自然にどれだけ負荷をかけているのかを知る。また，川などの汚れがどこから出ているかを知り，水の汚れの測定や浄化について学ぶことで環境を守っていこうという意識を高める。 ・「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居を見て，作者である旗野さんの話を聞き，新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り，差別・偏見を許さないという意識を高める。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・人は生活によって様々な汚れや負荷を地球にかけていることを知る。近くの阿賀野川では水の汚染により新潟水俣病が起きたことを知る。様々な環境問題に対しどのように考え，行動していったらよいかを一人一人が調べ学習を通して考えていく。

・「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居を見たり，「阿賀のお地蔵さん」の作者である旗野さんの話を聞いたりして，新潟水俣病で苦しんでいる人の存在を知り，差別・偏見を許さないという意識を高める。

○　活動概要

・ＮＰＯ法人五泉トゲソの会を講師として，①きれいな水に棲む魚トゲソが五泉市に棲んでいることを知った。そして，人間の活動によってそれらの生物を絶滅の危機に追い込んでいる事実を学んだ。また，同会の案内で②トゲソの生息地を訪問した。トゲソを実際に見せてもらい，水路の水温を測り湧水のことを学んだ。③水道水・川の水・家庭の汚れた水 3 種類を簡易ＣＯＤパツクテストで調べ，家庭排水が環境を汚す原因の一つであることを知った。また，水がどのように地球上で循環しているか「水の循環」絵カードを並べ学んだ。この中で，阿賀野川で新潟水俣病という公害が起きたことを学んだ。④ 活性炭を使って，水の浄化実験を行った。道具を使ってきれいな水に浄化する実験をした。そして，水を汚さないためにはどうしたらよいのかを考えた。

・あがのがわ環境学舎の山崎さんを講師として，新潟水俣病についての学習会を開催した。

・水俣病患者さんを支援してきた旗野秀人さんを講師として，水俣病についての話を聞いた。環境の大切さを理解し、新潟水俣病の歴史とその被害者への差別・偏見は許されないことを理解した。

※活動は新型コロナウイルス感染拡大の対策を行いながら実施した。

○　活動詳細

・６月には，ＮＰＯ法人五泉トゲソの会から 2 名，講師として来ていただき，トゲソの授業，水の授業，実験を３回に渡って行った。また，１回はバスを使って実際にトゲソが棲んでいる生息地を訪ねた。

・８月には，あがのがわ環境学舎の山崎さんを講師として，新潟水俣病について発生原因のみならず社会的背景も含め，詳しく学んだ。

・９月には，簇野秀人さん，小林知華子さんを講師として，旗野さんのこれまでの取組や，新潟水俣病患者の方々にふれ合う中で感じられたことなどについてお話を聞くことができた。

実施期間	令和３年６月～１０月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
①　６月１日（火）	13:55 ～ 15:30	講師：トゲソの会　中村吉則さん，後明明子さん ①トゲソのクイズ・紙芝居　②トゲソってどんな魚？ ③どうしてトゲソはいなくなったのだろう。
②　６月７日（月）	9:30 ～ 11:30	講師：トゲソの会　中村吉則さん，後明明子さん ①トゲソの里へバスにて現地学習（水温測定，湧水試飲，ザリガニ駆除）
③　６月２２日（火）	13:55 ～ 15:30	講師：トゲソの会　中村吉則さん，後明明子さん ①水の循環･水の旅を考える　②水の汚れを調べる　③ＣＯＤテスト（3 種類の水実験）　④新潟水俣病が起きた

④ ６月２９日（火）	13:55 ～ 15:30	講師：トゲソの会　中村吉則さん，後明明子さん ①水の浄化実験　②どうしたら水を汚さないようにできるのか。
⑤ ８月３１日（火）	13:55 ～ 15:30	講師：あがのがわ環境学舎　山崎陽さん ①新潟水俣病とは　②阿賀野川流域を地図で確認 ③食物連鎖（阿賀野川の川魚） ④被害の４つのポイント　⑤工場の製品と校外を学ぶ　⑥当時の社会と公害の関係　⑦映像作品の鑑賞
⑥ ９月２１日（火）	13:55 ～ 15:30	講師：旗野秀人さん　小林知華子さん ①新潟水俣病についてのお話　②「阿賀のお地蔵さん」の紙芝居 ③質疑応答
⑦ １０月２３日（土）	9:00 ～ 10:00	学習発表会「水とわたしたち」

○　協力団体・協力者等

・特定非営利活動法人五泉トゲソの会　中村吉則さん　後明明子さん

・あがのがわ環境学舎　山崎陽さん　　・安田患者の会　旗野秀人さん　小林知華子さん

○　成果と課題

【成果】

五泉市に生息する絶滅危惧淡水魚トゲソを通して，水循環の仕組み，水の汚れの測定，そして水の浄化について学んだ。私たち人間がいかに水を汚してきたかを学んだり，新潟水俣病の発生のみならず社会的背景を捉えたり，絵本「阿賀のお地蔵さん」を通して水俣病患者さんの苦しみに思いを寄せたりすることができた。このことにより，一人ひとりが環境の保護が大切であることを強く意識するようになった。また，私たちにできる環境保全について考えるようになった。

【課題】

あがのがわ環境学舎が作成したバーチャル資料は非常に効果的であり，指導計画に確実に位置付けていきたい。講師の日程調整や学習の進度から判断し，可能であるならば夏休み前に実施したい。

【活動成果参考写真】



トゲソを知る学習会



トゲソの生息地見学



水の循環・簡易 COD 検査



浄化実験



新潟水俣病学習会



旗野さんとの学習会

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
五泉市立愛宕小学校	４年１組（19 人） ４年２組（19 人）	10／1（金）	道徳	教諭・村山三枝子 教諭・佐藤将臣

1　主題名　「みんなが仲よくくらしていくために」（B-7 親切，思いやり）

2　ねらい

地域が差別や偏見によって結び付きを失う様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して，相手の立場を想像し，相手のことを考えた言動の大切さに気付き，自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。

3　資料「お地蔵さんにこめられた願い」

（新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために…新潟水俣病教師用指導資料集 pp. 29～41）

4　本時展開

時間	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
	（資料前段を読む）		本文配付
	T：当時の「阿賀野川のほとり」はどんな様子ですか。	C：仲良く暮らしていた。 C：強い絆があった。	資料１を掲示
	（資料中段を読む）		
	T：強い絆で結ばれていた村は，水俣病によってどうなってしまいましたか。	C：バラバラになった。 C：差別があった。 C：幸せでなくなった。	資料２を掲示
	T:どうすれば元の仲の良かった村に戻れるか，考えましょう。		
	T:ロールプレイ１をしてみましょう。	C：（交代でロールプレイ１をする。）	ワークシート
	T：Ａさん役の人はどんな気持ちでしたか。	C：心が傷ついた。 C：責められている。	
	（資料後段を読む）	C：水俣病の人の気持ちが分からないのか。	資料３を掲示
	T：旗野さんはどのような方法で村を元通りにしようとしたのでしょうか。	C：お地蔵さんを作った。 C：お地蔵さんに村が元に戻るように願いを込めた。	
	（旗野さんの言葉を読む）		
	T：プリントのＢに相手を思いやった言葉を書き，ロールプレイ２をしてみましょう。	C：（交代でロールプレイ２をする。） C：味方になってくれて嬉しい。 C：心の傷が治ったようだ。	ワークシート 下段に記入
	T：Ａさん役の人はどんな気持ちでしたか。	C：患者の方は悪くない。助けてあげたい。	
	T:自分の思いや考えを伝えたい相手を選んで手紙を書きましょう。	C：差別や偏見は許せない。 C：旗野さんの行動のおかげで絆が戻ってくるようで嬉しいな。	

＜裏面に児童の感想＞

授業後に子どもたちが書いた作文（抜粋）

【水俣病と認められず，かげ口を言われていた人たちへ】



・新潟水俣病とみとめてもらえず，つらい思いをされてきたんだと思います。そして，差別も受けられ，心も体もきずついたと思います。「自分は水俣病なのに，どうしてみとめてもらえないんだ」「どうしてなんだ」と毎日苦しんでいたのですね。安心してください。みなさんを信じてくれる人もいますよ。差別を受けているみなさんのつらさを分かってくれる人がちゃんといます。仲間はいます。少しでも心のつらさがなくなりますように。

・新潟水俣病のことを授業で学びました。みなさんは悪口やかげ口を言われて苦しい思いをしたと思うけど，私はみなさんがつらいということは分かっているよ。悪口やかげ口を言う人がいても，私は元気を出してほしいよ。応えんするよ。水俣病と信じてもらえない悲しい気持ちや苦しい気持ちが早くなくなるといいですね。心配しないでね。

・つらかったですね。でもぼくはみなさんの味方です。例え，かげ口を言われても，元気を出してください。ちゃんと信じる人もたくさんいるし，元気をくれる人もたくさんいます。ぼくもついています。心配しないでください。たくさんの人がついていますよ。

【かげ口を言っていた人たちへ】

・「ニセ患者」などと言わないでください。そう言われた人は「本当なのに…」「こんなにいたいのにどうして…」と思っていたはずです。あなたたちのせいで，水俣病になってしまった人は体だけでなく，心まで苦しくなってしまったのです。差別をしないで，相手の気持ちを考えてください。

・本当はとてもいたい水俣病なのに，苦しんでいるのに，「ニセ患者」なんて言わないで。やさしく声をかけてあげたり，心配してあげたりしてください。水俣病で苦しんでいる人のことを考えてあげてください。また前の強いきずなで結ばれた村にもどってください。

・かげ口を言われた人たちは，かげ口を言われてとても悲しい気持ちになったと思います。水俣病ではないとしんだんされたからといって，「お金がほしいだけなんだろう！」と言うのはひどいです。かげ口は人の心をきずつけます。言ってはいけません。水俣病の人を差別することはやってはいけません。

【旗野秀人さんへ】

・旗野さん，お地蔵さんを作ってくださり本当にありがとうございます。旗野さんは新潟水俣病によってばらばらになってしまった人たちを見て，「いやだな」「なくしたいな」「笑顔をとりもどしたいな」という素晴らしい気持ちをもったのですね。旗野さんはやさしい心をもっているな，と思いましたよ。阿賀野お地蔵さんがいつまでも愛されていることを知り，とてもうれしくなりました。

・旗野さん，阿賀のお地蔵さんを作っていただき，ありがとうございました。ぼくは旗野さんにお会いしたいです。旗野さん，みんながよろこんでいますよ。こういう公害がなくなってほしいです

・旗野さん，阿賀野お地蔵さんを作ったことは正解だと思います。「みんな苦しんでいるのに，なぜ傷つけあうのだろうか」という一言から始まり，こんなにりっぱなお地蔵さんが完成しました。阿賀のお地蔵さんには，お団子やお花などのお供え物がたえる日はないそうですね。これは，旗野さんの思いが，みんなに伝わったからだと思います。旗野さんや新潟水俣病のことは，ぼくたちが伝えます。まかせてください。

（様式２）　　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業 実施報告書**

学校名	上越市立柿崎中学校	担当（職・氏名）	教諭　小林真史
学習テーマ	海岸のごみから、地域と自分と世界の暮らしを考える。		
活動のねらい	１海岸に漂着する廃棄物の調査を通し、私たちの暮らしと海を結ぶ川が供給源であることを理解する。 ２新潟水俣病の原因が自分たちが川を通じてゴミを海に供給してしまう生活様式や思考に共通点があることに気付く。 ３廃棄物の世界全体や日本全体のデータとの比較を通し、世界的な視野で海岸に漂着する廃棄物の問題点に気付く。		

○　新潟水俣病とのかかわり

　新潟水俣病のような悲劇を繰り返さないためにも次の３点が重要であると考えます。

①自分の生活を振り返る姿勢

　新潟水俣病の原因は企業だけでなく私たち自身が何気なくもっている利便性の追求や経済を優先して、自然を軽視している共通点があることに気付くこと

②「地域」の自然環境を大切にする姿勢を養う

　身近な自然環境の変化に気付き、深刻な環境破壊が起こる前に防止する地域の力を育成すること。

③健康や人権は、世界共通の問題であることを理解する。

　水俣病により多くの人々の健康が害され、差別による人権侵害がおこったことを学び、環境の悪化を防ぐことが世界共通の課題であることに気付く。

○　活動概要　（新潟水俣病とのかかわりについての内容に触れてください。）

課題をつかむ
海岸のゴミ調査
地域の環境の実態を実感する

→

比較・考察
水俣病学習
海岸のゴミ問題との共通点を考える
経済・利便性の優先
自然環境・健康・人権の軽視

→

表現・実践
ICC(International Coast Cleanup)への参加
事前準備と啓発ポスター・動画づくり

→

発表会

→

まとめ
水族館見学・講義
関川・柿崎川の水質調査

○　活動詳細

実施期間	令和３年４月～１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
遠足・海岸のゴミ調査	１０	準備・計画・役割分担
調査結果の分析	２	各地域のゴミ調査結果からどこに多く、どこが少ないかを考えさせ、河川からの流入が多いことに気付かせる。
海岸に漂着するごみの何が問題なのか	２	上越市立水族博物館職員により講義

新潟水俣病学習	２	どうして、新潟水俣病が起こり、現状は、どのような状況かを学習した。その後、海岸のゴミと新潟水俣病との共通点を考えさせた。経済優先・利便性を優先し、健康や人権・自然環境を軽視していることを共通点として認識できた。その上で、自分たちの生活を振り返り「知恵を増やし、ゴミを減らし築こう未来の暮らし」をスローガンにＩＣＣへの参加に向けての準備に入った。
ＩＣＣ準備	１０	啓発用動画・ポスター制作・事前準備の各グループに分かれ活動を行った。啓発用動画、ポスターに関しては、スローガンを意識したものという点に留意させた。
ＩＣＣ	４	ＰＴＡ親子活動とタイアップして実施した。終了後、親子レクを実施。漂着物を利用したミニ水族館やガムテープアートに挑戦。
学習成果発表会	２	調査結果の発表やや啓発用ポスター・動画のコンテストを実施した。審査員は、地元の方をお願いした。コロナ下でもあり、Youtube 配信で保護者に公開。
水族博物館での講習 関川・柿崎川の水質調査	６	上越市立水族博物館での見学及び海洋の生態系についての講習 高田河川事務所にご協力いただき関川河川域にて、関川とあらかじめ採取した柿崎川の水質調査を実施し、どちらも非常にきれいな水質であることが理解できた。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・JEAN／クリーンアップ全国事務局・上越市立水族博物館「海がたり」

・高田河川事務所・新潟日報社・上越タイムス・上越ケイブルビジョン

○　成果と課題

【成果】

・生徒たちの日々の活動や言動から自然環境や環境破壊に対する感性が鋭くなったと感じられた。

・小学校時代も水俣病について学習していたが、再度、詳しく学習したことにより水俣病についての理解が深まった。

・実際に身近な海や川をフィールドにした活動であったので、興味関心が高く、わかりやすく、切実感もあった。

・ただ調査しただけでなく、その影響について水族博物館の職員から講話していただき、理解が深まった。

【課題】

・日常生活の中でのごみの分別やゴミを拾う行動など不十分である。

・家庭生活でもあまり行動変容がおきていないようだ。

（様式３）　**小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業に係る授業記録**

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
上越市立柿崎中学校	**29**	**６月24日**	**総合**	**教諭・小林真史**

主題名　新潟水俣病

ねらい　・水俣病と海岸に漂着するプラスティックゴミの問題の共通点を探りながら、自分たち自身も利便性を優先して、環境を破壊していることに気付くことができる。

配　時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
当時の経済優先の考えを抑える	**熊本県でメチル水銀による水俣病が発生したのに新潟県で 9 年後に発生したのは、なぜでしょう。** ・人々の健康より経済を優先していたことを確認する。	・水銀に関して知識を得ていなかったのでは。 ・経済成長には欠かせないものだったので、流し続けた。 ・国が再発防止の対策を怠ったから。 ・工場の不注意。 ・薄めて排出すればいいと思っていたのでは。	『初めての新潟水俣病』『海がたり職員の講話資料・レジュメ・ノート』
自分達の生活を振り返る	**私たちは、プラスティック製品のゴミが海や私たちの生活に重要な問題を引き起こすことを学びました。でも、私たちはプラスティック製品を使い続けています。なぜでしょう。** ・環境よりも利便性を優先していることを確認させる。	・便利だから ・まだ、大丈夫と思い込んでいるから。 ・豊かにしてくれて必要なものだから。 ・環境にしたら悪いけど、人間からしたら加工しやすくて、とても便利だから。	
海のゴミと新潟水俣病の・まとめ	**新潟水俣病と海のゴミ、全く異なるように見える二つの共通点は** ・公害も海のゴミも経済優先・利便性優先という人間の利己的な考えから起こっていることを確認する。	・水（川）に流して、食物連鎖の過程に入っている。 ・どちらも、人間のやったこと。 ・一度、以前におこった事例や問題ある事にもかかわらず、「便利だから」、「経済のため」という理由でしてしまっている。	

		・これくらいいいだろうという心構え。 ・環境のことを考えず、生活するのに便利だから、必要だから仕方がないなど自分勝手な理由でしてしまっている。 ・環境に悪く、様々な生物に影響があること。	

授業後の子どもたちの考え等(作文等)

熊本で水俣病が発生したときに、水銀を排出することをやめていれば、新潟水俣病は起こらなかったと思う。現在では、４Ｒや SDGs が叫ばれ、有害物質の排出などに厳しい規制がかけられている。でも、私が見る限り、マスクなどをポイ捨てする人を見かけるし、不要だと思われるものを購入し、結局、余らせ捨ててしまう人もいる。自分たちも将来地球に生み続けることが、できるかどういか分からない。だから、今のうちに生活に制限を課すことは必要なことだと思う。そうしないと、自分たちが 40 歳になるころに地球が崩壊してしまうかもしれない。もっと、積極的に SDGs を進めるべきだと思った。

私は最初、なんでプラスティックゴミの話をしていたのに、新潟水俣病の話になったんだ？何の関係があるんだ？と授業内容を聞いた時からずっと考えていました。でも、学習を進めていくうちに「あれ？なんか関係あるのかも」と思ってきました。プラスティックゴミも新潟水俣病も問題が起こり目に見えているはずなのに、また、引き起こしてしまった。水俣病のようにプラスティックのゴミ問題も大きな問題にならないように日頃から気をつけていきたい。

熊本県水俣で発生した水俣病が 9 年後に新潟でも発生し、命が奪われていること。海のゴミと同じで、魚や人に害を与えてしまうのは怖いことだなと思いました。人の命や環境は、大切にしなければならないことが、この授業でよくわかりました。未だに川や海にゴミを捨ててしまう人がいることもよく分かりました。自分の行動を振り返り、環境を大切にしていきたいと思いました。

水俣病だけを学習したときは、「昔は、こんなことがあったのだから繰り返してはいけない」と思いました。でも、今もプラスティックのゴミが海に流れ込むことで問題を引き起こしていることが分かりました。どちらも便利にするためだからといって、環境を破壊してしまう。公害も海のゴミも深いつながりがあると思いました。

今回の授業を受けて、新潟水俣病の事をより深く理解することができました。また、もう二度とこの病気や海のゴミ問題を引き起こさないために、自分の日頃の生活から、できることを探していただきたいと思います。

地域の特色を活かした
環境学習支援事業

令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立早通南小学校	担当（職・氏名）	校長　佐藤　伸一
学習テーマ	「早南環境プロジェクト　～新井郷川から世界へ～」		
活動のねらい	新井郷川の歴史や現状と，その源流となる福島潟について学ぶことを通し，身近な水環境の問題に気付くとともに，自分たちでできる環境を守る取組を考えたり，実践したりしようとする意欲や態度を養う。		

○　新潟水俣病との関わり

・地域の生活を支えてきた大切な水環境である新井郷川は，福島潟から流れてきていることを知り，川や潟と人々との関係を調べるとともに，身近な川である阿賀野川で起こった「新潟水俣病」について，社会科の公害の学習とも関連させながら学習を進める。
・「環境と人間のふれあい館」を訪問し，語り部さんから話を聞いたり，展示資料を見たりすることにより，「新潟水俣病」についての見方や考え方を深める。

○　活動概要

①　ゲストティーチャーの講話から，新井郷川や福島潟についての理解を深め，問題意識をもつ。
・新井郷川の歴史　・水環境と新井郷川　・新井郷川と福島潟との関係
②　福島潟を訪問し，レンジャーの講話を基に，調査活動を行う。
・「水鏡」の歌の披露　・講話と資料を基にした学習　・屋外での福島潟調査
③　北区の地形図とハザードマップを基に，自分たちの生活は危険と隣り合わせであることに気付くとともに，各排水機場・新井郷川・福島潟放水路が自然環境や私たちの暮らしを守るために大きな役割を果たしていることが分かる。
・福島潟の水との闘いの歴史　・バスによる水系巡り
④　ＳＤＧｓとも関連させて視点を環境問題全般に広げ，私たちができることは何かを考えて発信する。
・これまでの学習のまとめ　・ゲストティーチャーを招いての発表会
（以上，４年生）
⑤　新潟水俣病に関する学習を進め，水と環境との関係についての理解を深める。
・各種資料を使った学習　・環境と人間のふれあい館に出掛けての学習
（５年生）

○　活動詳細

実施期間	令和３年９月～令和４年２月（４年生）　令和３年１２月（５年生）

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
ＧＴの講話，学習課題の設定	3	・小学生用環境教育副読本「行動する私たち」を活用し，「水環境」への視点をもたせる。 ・ゲストティーチャーの講話から，新井郷川や福島潟についての理解を深め，問題意識をもつ。
福島潟での現地学習	3	・福島潟を訪問し，レンジャーの講話を基に，調査活動を行う。

		・福島潟と水生生物や植物，動物との関係についても調査する。
自然災害と水環境	2	・北区の地形図とハザードマップを基に，川や潟の果たす役割について考える。 ・学校から福島潟までの水系について，バスで巡りながらＧＴの講話を聞く。
発表会「私たちにできること」 （以上，４年生）	4	・ＳＤＧｓと水環境との関連について，ＧＴの講話を聞く。 ・私たちができることは何かを考えて発信する。
水と環境との関係 （５年生）	4	・「未来へ語りついで」等を活用し，新潟水俣病の概要を知る。 ・「環境と人間のふれあい館」を見学し，新潟水俣病への理解を深める。

○　協力団体・協力者等
・ビュー福島潟　・環境と人間のふれあい館
・特定非営利活動法人「エコネットにいがた」理事長　伊藤興亜さん，志津子さん
・北区郷土博物館　学芸員　曽部珠世さん
・蒲田さん，渡辺さん，福島潟レンジャーの皆さん

○　成果と課題

【成果】
・身近な環境問題をスタートに，「新井郷川物語」と題してＧＴから分かりやすい講話をしてもらったことで，子どもは単元を貫く学習課題をもつことができた。
・ビュー福島潟の展望台から眼下の湖面を見ながら，にじいろ音楽祭での発表曲「水鏡」を歌わせてもらうことで，生涯忘れ得ぬ思い出をつくることができた。
・ビュー福島潟に展示してあるたくさんの資料やレンジャーからの講話は，子どもたちが水環境について疑問に思っていることの解決につながった。
・地形図とハザードマップを活用して環境問題を身近に捉えさせたり，発表会までの準備を通してこれまでの活動を見詰め直させたりしたことは，自分たちでできる環境を守る取組を考えたり，実践したりしようとする態度の育成につながった。
（以上，４年生）
・各資料を基に，新潟水俣病の発生原因を考えさせたことで，人間の活動が災いとなって，再度人間に戻ってきたという「人間の生活と環境との密接な関係」への理解が深まった。
・新潟水俣病の語り部さんの話を聞くことで，患者のもつ苦しみについて具体的に知ることができた。また，生の声を聞くことで，子どもたちは「差別や偏見を絶対に許してはいけない」という強い気持ちをもつことができた。
・「新潟水俣病の闘いは今も続いている」という話を語り部さんの話や展示資料や関連資料から知ることで，「自分たちには何ができるか」を考えることができた。
（以上，５年生）

【課題】
・感染症防止の観点から，発信する場を校内にとどめた。状況も勘案しながら今後はぜひ，地域への発信も考えていきたい。（４年生）
・社会科の公害の学習とも関連させることを考えると，「環境と人間のふれあい館」を訪問する時期が１２月以降になる。寒い時期になるので，単元を入れ替えるなどの工夫が必要となる。（５年生）

２０２１年度「地域の特色を活かした環境学習等支援授業」に係る授業記録

学校名	授業学級(人数)	実施日	実施教科等	授業者(職・氏名)
新潟市立早通南小学校	5年3組(30人)	１２月１７日	道徳	教諭・石田　愛海

【主題名】　新潟水俣病患者の苦しみ(「生きるⅢ」より「5　ある新潟水俣病患者の訴え」)

【ねらい】　新潟水俣病の公害認定に向けて懸命に闘ってきた人の生き方を学ぶことを通して，差別や偏見を許さない態度を育て，立場に応じた自らの役割を自覚する力を育てる。

時間	学習活動	教師の働き掛け	子どもの反応	備考
5分	新潟水俣病の原因について，社会科の既習事項や見学内容と関連付けて確認する。	○新潟水俣病の原因は何でしたか。	●阿賀野川上流の工場からメチル水銀が流され，それが原因で水俣病が発生した。	・事前に朝学習時に本文範読をしておく。 ・地図や資料を掲示する。
10分	患者の苦しみについて考える。	○「わたし」を「ぼろぼろの状態」にしたのは何ですか。	●メチル水銀，首・腰の痛み　手足のしびれ，夫の態度，職場の同僚からの悪口… ●苦しさにもいくつか種類がありそうだ。 ●症状による体の苦しさと，周りから受けた心の苦しさがあるようだ。	・本文をもう一度黙読しながら原因だと思うものに，赤線を引かせる。 ・短冊に苦しみを書いていく。
10分	班で話し合い，体の苦しみ以外にも偏見・差別などの心の苦しみがあったことに気付く。	○患者さんが受けたのは体の苦しみだけではないのですね。どんな苦しみがあったのか班で話し合いましょう。 ○このような苦しみや悲しみを繰り返さないために，自分ができることはないでしょうか。	●首・腰の痛みや手足のしびれは体の苦しみだ。 ●夫の態度，職場の同僚からの悪口は，精神的な苦しさだと思う。病気なのにさらに嫌な思いまでさせられて辛かったと思う。	・短冊に書いた「苦しみ」を班ごとに理由を述べながら分類させる。 ・全体では班で発表し合い，教師が黒板で短冊を整理する。
		課題私たちにできることは何だろう。		
15分	三つの立場に分けて立ち，それぞれの立場で自分ができることを考える。 ・国・県・工場(原因を作った側)	○何か苦しい出来事に遭遇した時，それぞれの立場だったら自分はどうすることが大切だと思いますか。	●国・県・工場など(原因を作った人) ・公害を作らない努力 ・原因を隠さない。 ・謝罪する。 ●周囲の人 ・差別しない・偏見をもたない。	・三つの立場を構造的に板書する。

	・周囲の人 ・差別やいじめを受けた人(当事者)		・正しく理解する。 ・苦しむ人への思いやりや寄り添う心をもつ。 ●差別・偏見を受けた人(当時者) ・あきらめずに戦い続ける ・助けを求める。 ・本当のことを伝えていく勇気	
5 分	振り返る	○これまでの学習や生活，今後のことと結び付けて，今日の学習を振り返る。		・書き出せない児童には黒板のキーワードを参考にするよう声を掛ける。

【子どもたちの考え・振り返り】

・新潟水俣病になって辛い思いをしている方に，追い打ちをかけるように差別や偏見があることは悲しいと思った。自分の周りに苦しんでいる人がいたら，その人の気持ちに寄り添いながら助けたいし，偏見をもっている人がいたら，本当のことを知ってもらうように努力したい。

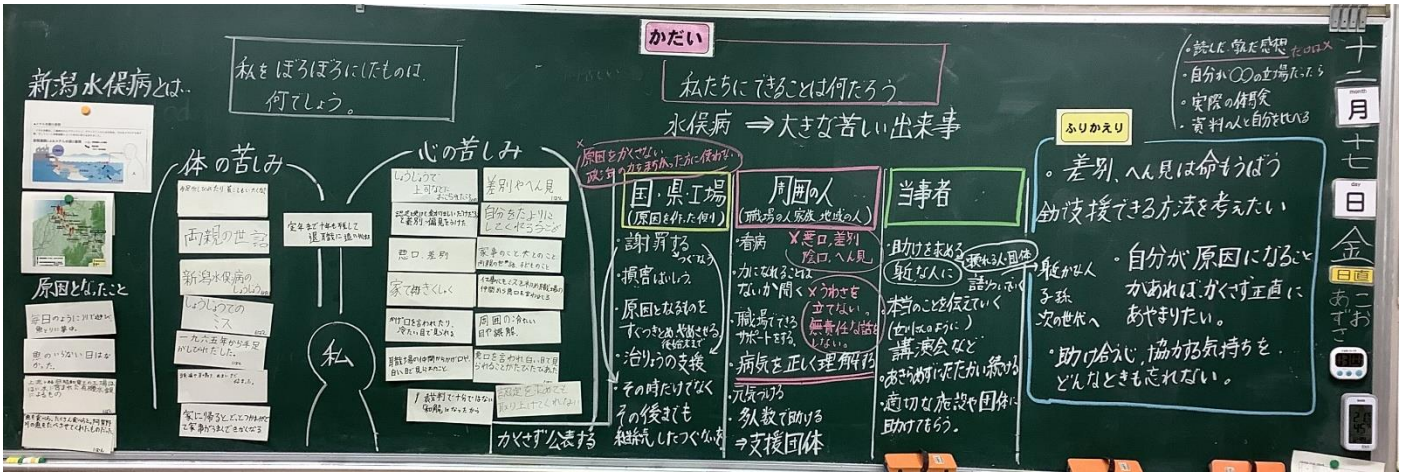
・今はコロナウイルスが流行っているから，もしかかってしまった人がいたとしても，うわさを流したりしないようにしたいし，コロナウイルスの正しい情報を調べるなど，自分にできることをしていきたい。

・病は，家族の仲を悪くしたり，周囲からも悪口を言われたり，患者さんは本当に大変だったのだと思った。困っている人がいたら，どんな時も助け合う気持ちを持ち続けていきたい。

・原因を作ってしまった人は，原因や問題を隠さないことが大切だと思った。誠意を見せて謝罪し，一回の謝罪だけではなく，継続して償っていく責任もあると思った。

・本人は偏見・差別しているつもりはなくても，思い込みや不確かな情報で噂話をすることは人を傷付けるということが分かった。病気など，本当のことを正しく理解できるようにしたい。

【最終板書】



■様式２：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立下山小学校	担当(職・氏名)	主幹教諭　飯田　厚
学習テーマ	下山をすみよい町にするには		
活動のねらい	◎福祉や人権や差別について関心をもち，自分たちの地域に住む高齢者・小さい子ども・妊婦・障がいをもつ人・水俣病の方など，さまざまな立場の人の気持ちや生活を理解し，誰にでも優しい気持ちをもつことができる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

身近にある阿賀野川の公害により水俣病になった方の思いや経緯を知り，身近な環境を守ろうとする気持ちをもつ。

○　活動概要

・身の回りにある点字・スロープなどに着目し，障がいについて知っていることを話し合う。
・今年開催されているパラリンピックの競技を観たり，NHK for school などの動画を見たりして，身近にも障がいをもつ方がいることに気付く。
・アイマスク折り紙体験をして，視覚障がいの方からお話を聞く。
・車いす体験をしたり，車いすバスケの方からお話を聞いたりする。
・環境と人間のふれあい館へ行き，水俣病などの公害に苦しんでいる人がいることを知る。
（11 月に校外学習を実施）
・水俣病の語り部さんからお話を聞く。
・障害をもつ人が生活しやすい環境かどうか，学校の近くの施設を調べる。
・課題を追求していく中で，各自の決めたテーマに沿って，学んだこと，感じたこと，伝えたいことをまとめて発表する。

○　活動詳細

実施期間	９月～２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
オリエンテーション	１	・地域に様々な立場の人が暮らしていることを知り，みんなが安心して暮らすことができるために大切なことや，自分にできる取り組みについて考えるというゴールを確認する。
障がいについて知る	５	・身の回りにある点字・スロープなどに着目し，どのように使われているのかを話し合う。 ・障がいについて知っていることを話し合い，さらに詳しく調べてみる。 ・今年開催されているパラリンピックの競技を観たり，NHKforSchool などの動画を見たりして，さまざまな障がいがあることに気付く。（新潟にも競技をやっている方がいる。） ・図書室の本やタブレットなどを活用し情報収集する。

体験活動・まとめ	１０	・アイマスク折り紙体験 ・視覚障がい者の方からの話を聞く。 「生活の様子や盲導犬の役割などについて」 **・環境と人間のふれあい館へ行き，水俣病などの公害に苦しんでいる人がいることを知る。** **（１１月１０日に校外学習を実施）** ・車いす体験　　（東区社会福祉協議会） ・車いすバスケの方からの話を聞く。 ・水俣病の語り部さんから話を聞く。
自分の住む地域を考える	４	・障がいをもつ人が暮らしやすい環境かどうか考える。 ・下山小近くの施設の調べ活動を行う。（バリアフリー，ユニバーサルデザインという視点から） ・ＳＤＧｓとの関連に触れ，わたしたちの地域を住みよい町にすることはＳＤＧｓの取り組みにも通じるということを確認する。
まとめる・伝える	８	・課題を追究していく中で，各自の決めたテーマに沿って，学んだこと感じたこと伝えたいことをまとめる。 ・国語「調べたことを正確に報告しよう」のまとめ方の流れに沿って，ロイロノートで報告レポートを組み立てる。 ・学習参観時にロイロノートを使って報告・意見交流する。

○　協力団体・協力者等

・新潟市東区社会福祉協議会

・環境と人間のふれあい館

・新潟水俣病　語り部　水澤　洋様

○　成果と課題

【成果】

・環境と人間のふれあい館やビュー福島潟で，水俣病と環境汚染とのかかわりを実際に見たり聞いたりすることにより，環境と人々の暮らし，水俣病のかかわりについて，体験的に捉えることができた。

・語り部の水澤さんのお話を聞くことで，病気のつらさや偏見，差別についてより深く理解することができた。また，水澤さんのこれまでの病気とのかかわり方から，被害者の思いや，願いに触れ，自分の生き方や考え方を見直すことができた。

【課題】

・社会科の公害病の学習や道徳・人権学習との関連付けを行い，環境や人権にもっと焦点を当てた学習にすること。

・新型コロナウイルスの感染拡大により，校外に出る学習やまとめの発表などが計画通りにできなかった。子どもの思考の流れに沿った指導計画を考えていく必要がある。

環境と人間のふれあい館

水質検査






館内展示の見学




ビュー福島潟見学









語り部　水澤さんのご講話







地域の語り部　水澤さんから，

貴重なお話をお聞きしました。

■様式３：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立下山小学校	**5年1組（31人）**	**2月3日**	**道徳**	**主幹教諭　飯田　厚**

・主題名　**新潟水俣病の被害者に対する差別をなくすために行動しよう　C−（１３）公正、公平、社会正義**

・ねらい　**新潟水俣病の被害者が受けた差別や偏見に憤り，差別に立ち向かう生き方に共感することを通して，差別を許さずに立ち向かい，真実を伝えていこうとする気持ちを高める。**

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	○資料１を配付し範読する。 ○写真を使い，補足説明をする。 ○資料２を配付し，範読する。	●阿賀野川は，魚を捕ったり，水を飲んだり，地域の人々に親しまれていた。 **●いろいろな差別の言葉が書かれている。**	・H28p46資料1 ・写真（魚・川・患者） ・H28p48資料2 ・写真（差別の言葉が書かれたハガキ）
	資料を読んで感じたことを書いて発表しましょう。		
	○タブレット端末を使い，感じたことをカードで提出させる。 ○お互いの感じたことが読み合えるようにする。	**●苦しくて仕事を休んでいるのに，のめしこきと言うなんてひどい。** **●知り合いから「金ほしさのにせ患者」と言われてかわいそう。**	
	（学習課題） 水俣病のような差別を繰り返さないためにどんなことが大切か。		
25	**水俣病の症状が出て，体の苦しみを味わっている上に，さらに陰口を言われたらどんな気持ちになるのか，ロールプレイで確かめましょう。**		・ロールプレイ用のカード（参考 H22p39）
	○ロールプレイで，陰口を言われた患者たちの気持ちを実感させる。	●教師の師範を見た後，ペアで交替しながら役割演技を行う。	
	B　お前，水俣になって金いっぺもらったろ。欲かり！ニセ患者が金欲しさに裁判し起こしている A　手足がしびれて頭がガンガンする。うまく歩けなくて病院に行ったら水俣病と認められた。		
	Ａさんの立場で，どんなことを感じたか発表しましょう。		
	○Ａさんの立場でどんなことを感じたか発表させる。 ○体の苦しみだけでなく，差別や偏見による心の苦しみを受けた被害者の気持ちに共感させる。	**●病気で健康を奪われた。心ない言葉で心も深く傷ついた。** **●知り合いから差別されるのがつらい。** **●体がしびれて仕事ができない。また，その「しびれ」は誰も分かってくれない。**	
	新潟水俣病にかかった人たちやその家族がこんなにも苦しい思いをしているのに，どうしてこのような誤解や差別をし，冷たい言動をとったのでしょうか。		

	○隣の児童と考えを交流させる。その際,自分の考えをカードに書いてタブレット端末に送らせ,お互いの考えが見合えるようにする。	●周りに流され，考えずにやっている。 ●お金をもらったのがねたましい。 ●よく分からない病気なので，分からなくて言っている。	
			
10	**語り部さんの力強いメッセージから，自分たちは何をすべきか考えましょう。**		・H28p48 資料3
	○資料３を読ませて,被害者である小武さんが,水俣病や差別に対して，どう感じ，どうやって克服したか考えさせる。	●正しい知識をもって水俣病のことを伝えていくこと。 ●失敗を恐れず挑戦すること。 ●被害者の身になって考えること。	
	水俣病のような差別を繰り返さないために被害者の人の身になって考え，正しい知識をもって伝えていくことが大切。		
	水俣病やいろいろな病気の人に対する差別や偏見について考えたことを書きましょう。		
	○差別や偏見について考えたことを振り返らせる。カードに書いてタブレット端末に提出させる。		

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・近所の方や友達からいっぱい差別を受けて，それでも一生懸命生きているから，そういう差別があったことをいろいろな人に伝えて，もう二度とこういうことがないようにしたいです。
・水俣病の学習から，私は差別がなくならない理由は複数あってどれも難しいことばかりだけど，それは人の心の問題だということがよく分かりました。このようなことを防ぐために相手のことをよく知り，相手のことを自分のことのように考え，そして相手のことを理解することが大切だと思いました。
・水俣病の学習をして私は，もし周りに誰かを差別している人がいたら，その人に流されずに注意をしようと思いました。そして，どんな人であっても絶対に差別をしてはいけないということが分かりました。
・水俣病は,友達との絆をさくような差別や苦しみといつも隣り合わせで生きていかなければいけない病気だと分かった。私は差別をなくすために，自分の家族やいとこなどに水俣病の苦しさ，つらさについて教えてあげたいと思いました。

令和３年度「地域の特色を活かした環境学習支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立日和山小学校	担当（職・氏名）	教諭・斎藤　隆
学習テーマ	生物にとって棲みよい環境とは何かを考えよう。 （５．６学年：理科・道徳）		
活動のねらい	自然環境と生物との関わりについて，環境を調べる活動やプログラミングの活動を通して理解を深め，環境を保全していこうとする態度を育む。		

○　新潟水俣病とのかかわり

「水俣病教師用指導資料集」「みなまた探索日記自作ＤＶＤ」を用いて，新潟水俣病が，自然を壊し，環境を蝕み，生活を変えたことを理解させ，人々が安心して暮らしていくために，自然を畏敬し，社会全体で環境を守ろうとする実践意欲を高める。

○　活動概要

①　メダカ・タナゴ・ヤマトヌマエビにとって，水槽の中をどのようにしたら棲みよくなるか考える。

②　煮干しの胃の中のプランクトンを観察することで，海の環境を調べる。

③　道徳の学習において水俣病について学び，水の大切さ，環境の大切さに気付く。

④　プログラミングで環境を守ることができるかについて学び，プログラミングでできることとできないことに気付き，環境を守るプログラミングに挑戦する。

①と③は５年生　②は６年生　④は５．６年生

○　活動詳細

実施期間	令和３年６月～令和４年３月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
メダカ・タナゴ・ヤマトヌマエビの飼育	5	・生物の飼育の仕方を調べて，飼育する。 ・ヤマトヌマエビの卵の飼育の仕方を調べさせる。
煮干しの胃の中のプランクトンを観察	5	・煮干しの胃の中のプランクトンを取り出し，撮影する。写真を共有して名前や環境を調べさせる。 ・プランクトンを調べることができるサイトを紹介する。
プログラミングで環境を守る	5	・シャチを守るプログラミングを体験させる。助けることができるが，生き物をプログラミングで制御することはできないことを学ばせる。 ・海の豊かさを守ることについて，魚の乱獲を防ぐプログラミングを考えさせる。 ・海の豊かさを守るためのプログラミングに挑戦させる。
人権教育	2	・水俣病について，これからどんな努力をしていくことが必要か学ばせる。

○　協力団体・協力者等

Scrub というiPadのアプリ開発者　大庭慎一郎様

○　メダカ・タナゴ・ヤマトヌマエビの飼育

・水槽は，直接日光が当たらない明るいところに置く。よく洗った小石や砂を水槽の底にしいて，水草を入れる。水槽には，くみ置きの水を入れる。めす・おすを入れる。えさは食べ残しが出ないようにあたえる。水がよごれたら，くみ置きの水と入れかえる。

・ヤマトヌマエビは，汽水の中でしか育たないことについて調べさせて，飼育する。

○　煮干しの胃の中のプランクトンを観察

イワシは，海の中にいるプランクトンを餌として食べる。口の中に入ってくるプランクトンを手当たりしだいに食べるので，生きたプランクトン・ネットということができる。そんなイワシを乾燥させた煮干しを使えば，海に棲むプランクトンをいつでもどこでも調べることができる。新潟で獲れたイワシを調べた結果，環境が良い‥２種類，普通‥１２種類，悪い‥１種類，不明‥１０種類であった。

○　プログラミングで海の環境を守る

シャチを守るためのプログラミングを考えさせた結果，プラスチックを食べないようにプログラムすることができた。しかし，実際には，シャチは目の前にあるものを食べてしまうので，生き物にプログラミングすることはできないことに気付いた。そこでロボットやＡＩを活用していくことで，シャチを守ることができそうだと学んだ。その後魚の乱獲を防ぐこと，プラスチックゴミをなくすこと，プラスチックゴミを発見することについて解決するためのプログラミングに取り組んだ。

○　子どもたちの声

・メダカ・タナゴ・ヤマトヌマエビの飼育

「魚などが棲みやすい環境について学び，毎日玄関の所で見ることができて，とても身近なものとして感じることができました。」

・煮干しの胃の中のプランクトンを観察

「この学習がきっかけで，夏休みに新潟の海で釣ったアジとタイを調べました。５種類のプランクトンが見つかり，環境が良い状況だと思いました。」

・プログラミングで海の環境を守る

「プログラミングで，色々なことができてすごいと思いました。プログラミングが現実の世界でも環境を守ることができるとよいと思いました。」

・水俣病

「環境がこわれるととても大変だと思いました。正しい知識を学び，環境を守りたいと思います。」

○　成果と課題

成果①　水俣病について正しい知識をもつこと，差別はいけないこと，自然環境を大事にしていかなければならないことの大切さについて学ぶことができた。

成果②　プランクトンの観察は，食物連鎖の理解へとつなげる学びとなった。プログラミングで環境を守ることができる可能性を感じさせることができた。

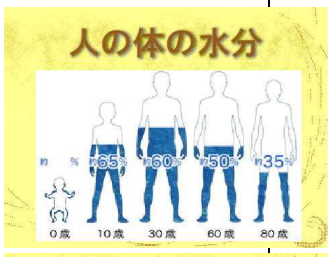
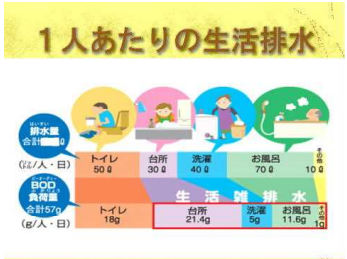
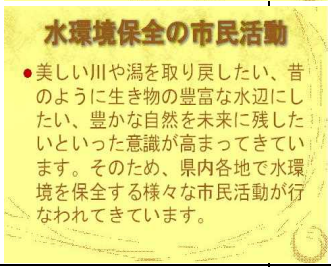
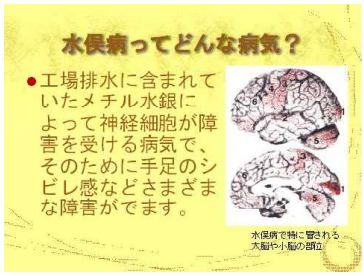
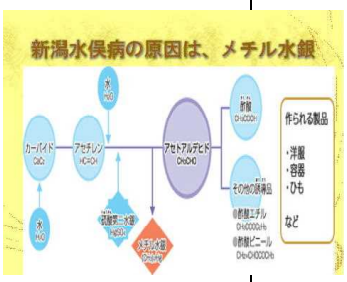
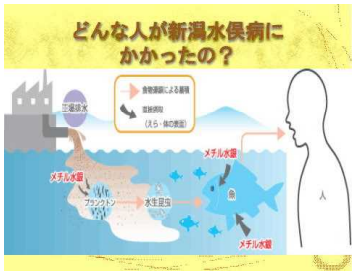
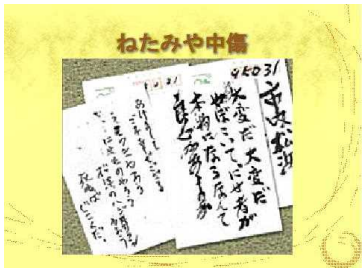
課題　　環境を守ることの大切さと，差別をしてはいけないことは学んだが，身近なところから自分のできることをしていくという実践的な部分がまだ不足している。

令和３年度「地域の特色を活かした環境学習支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立日和山小学校	５年生（７４人）	１月13.14日	道徳	教諭　斎藤　隆

主題名　**環境学習から水俣病について学ぶ　３－（２）自然愛**

ねらい　**新潟水俣病が，自然を壊し，環境を蝕み，生活を変えたことを理解させ，人々が安心して暮らしていくために，自然を畏敬し，社会全体で環境を守ろうとする実践意欲を高める。**

配分（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習内容等）	資料
１０	水俣病について，これからどんな努力をしていくことが必要でしょうか。 ○　環境を守る活動について考えさせる。     	●　赤ちゃんの水分は８８％もある。 ●　水の汚れの原因は人がつくっている。	環境と人間のふれあい館のＨＰを基にした自作ﾌﾟﾚｾﾞﾝ
２０	○　新潟水俣病について説明する。    	●　最初は水俣病の原因が分からなかった。 ●　「うつる病気」「タタリ」だと誤解され，差別や偏見があった。	「水俣病教師用指導資料集」 「みなまた探索日記自作ＤＶＤ」
１５	○　水俣病について，これからどんな努力をしていくことが必要か考えさせる。	●　自然を守る。 ●　差別をしない。 ●　「もやいなおし」をする。	

授業後の子どもたちの考え

○　水俣病について学んでの振り返り

・水俣病は人間が作った病気のようなものだと思いました。こんなことは二度と起こってはいけないし，水俣病にかかってしまった人を馬鹿にしてはいけない，差別や変見もしてはいけないことが分かりました。だから僕はその人たちを助けたいと思いました。今まで水俣病と戦ってきた人たちのことを聞いて僕は感動しました。一人一人がその水俣病と戦ってきた人たちのことを考えて環境を大事にしていかなければだめだということが分かりました。

・もとは仲がよかったのに，水俣病になってから関係が壊れ始めたという話を聞いて，とても驚きました。公害病の苦しさについて，後世まで伝えていきたいです。

・水俣病になると大変なのに，差別や中傷を受けるのはひどいと思いました。自分でなりたくてなったわけではないのにかわいそうだなと思いました。「お金が目当て」などの偏見，差別をするのは残酷だなと思いました。もし自分が水俣病になったらと考えて相手の気持ちを理解してあげるのが大切だと思いました。これからはもっと水俣病について調べていきたいです。

・水俣病の人が何も知らない人に，誤解されて，差別されているのは，とてもかわいそうだなと思いました。だから私は，昭和電工鹿瀬工場の排水に含まれているメチル水銀をどうにかして，川に流さないでほしかったなと思いました。私たちにも，何かできることがあれば手伝いたいなと思いました。早く，水俣病を治す方法が見つかってほしいです。

・私は，水俣病について，名前しか聞いたことありませんでした。今日の授業で，水俣病になってしまった人たちが，長い間差別や偏見を受けてきたことが分かりました。罪が誰にあるのか分からないけど，これからはもう，水俣病じゃなくても，こんなことが起こらないといいなと思いました。

・差別や偏見をするのはひどいと思います。私は，そういった人がいたら助けます。だけど助けもしないでいじめをする事は，絶対許されてはいけない事だと思います。みんなが助け合える世界になって欲しいです。

・水俣病で苦しい思いをしている人がたくさんいることを知りました。この授業で差別や偏見をすることは，絶対に許されないということがよく分かりました。

・水俣病のことを勉強して，水俣病は治せない病気ということが分かりました。でもなってしまっても前向きに考えていることがすごいと思いました。環境汚染は絶対に出してはいけないことが分かりました。

・水俣病で，差別されていた人がたくさんいることを学びました。水俣病はかかると脳が小さくなって治らない病気と聞いて恐ろしい病気だなと感じました。苦しい思いをしているはずなのに生きる希望をもって色々なことに挑戦していることがすごいなと思いました。私もその人たちを見習って，色々なことに挑戦してみたいです。そして水俣病や他の病気に苦しんでいる人たちのことを自分ができることからを少しずつ手助けをしたいと思いました。

■様式２：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立南万代小学校	担当(職・氏名)	教諭・渡邉裕子
学習テーマ	水の都新潟　川と共に暮らす 川と共存するために，川の活用の仕方や安全なかかわり方について調べる		
活動のねらい	信濃川河口付近で生活する児童が，「川と人の暮らし」について「親しむ」「暮らす」「保つ」という視点から学習をすることを通して，過去からの学びを生かして，川との共存の仕方や災害に強い街づくりについて考え，発信する。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・「生きるⅢ」や新潟水俣病に関する指導資料を基に，新潟水俣病について「知る」学習を行う。
・「環境と人間のふれあい館－新潟水俣病資料館－」を訪問し，新潟水俣病の経過，要因，影響について正しく知る。その際，昭和電工の従業員も生活のために働いていたという視点で考えさせ，人権意識をもたせていく。さらに，人が川を含めた自然と共存するための構えについて考えていく。
・語り部の方の「口演」を聞き，差別の理不尽さや差別された人の苦しみを知り，「語り部」という道を選択した人々の願いを受け止め，差別をなくすために自分でできることを考える。その際，考えをもつ足掛かりとなる実践の場として「防災」を位置付けた。特に，「災害弱者」をキーワードとして，人権学習として成立するように単元を構成した。

○　活動概要

南万代小学校の生活環境は，信濃川河口付近に位置している。信濃川には，ヨットや遊覧船が通ったり，ボートを浮かばせていたりすることがあり，人々が趣味や観光で水に親しむ様子が見られる。一方で，新潟地震の際に，津波や地盤の液状化等，甚大な被害を受けた地域でもある。このことから，川という地域素材を多面的にとらえると同時に，その見方・考え方を汎用的に用いて，阿賀野川と人々のつながりについての学習を行った。

今回，新潟水俣病の学習をしたことで，人間の環境に配慮がない判断が，結果的に人間に取り返しのつかない「罰」として戻ってくることが分かった。人間本位の見方・考え方を優先すれば，持続可能な社会を形成することができないと判断した子どもたちは，より良い暮らしを未来に残すために，「災害から命と暮らしを守る」取り組みを選択し，「偏見や差別の問題」と「災害弱者の問題」を関連付けながら学習を重ねた。

これらの学びを通して，児童は，新潟水俣病や差別された人の苦しみについて「語る」ことはできないが，「防災学習」を通して得た知恵や技術を「語る」ことで，自分や家族の命を守り，地域の暮らしを支えることができるという実感を得た。

○　活動詳細

実施期間	2021 年 5 月　～　22022 年 2 月	
主な学習内容・活動内容	時間(前 50 時間)	指導・支援の内容
川についての知識をもつ （理科/道徳/総合）	4 時間	生活経験や各教科等の学習から，川についての知識を引き出す。川に関する図書や資料を読み，基本情報を得ると共に，これから深めたいことを話し合い，学習の流れを作る。
川と人々の関わりについて調べる （社会/道徳/総合）	4 時間	自然教室のカヌー体験の学習を兼ねて，人々が川とどのようにかかわってきたかを調べる。水に親しむ豊かな暮らしのイメージを深めると共に，多くの災害を経験しながらも暮らしを守ってきた人々の営みを価値づけ，その暮らしを維持しようとする構えをもたせる。

川と災害・防災について調べる（理科/総合）	8 時間	洪水や津波などの災害から身を守るための備えを行政がどのように整えているか調べる。その上で，「自助」として「家庭備蓄」を進める意義と方法について考え，実践し信濃川河口付近で暮らす者としての構えをもたせる。
新潟水俣病と差別の事例について知る（総合/道徳）	5 時間	人間の身勝手，配慮不足の行為，無知の結果としてどんなことが起きたのかを知る。患者となってしまった人々と，「昭和電工」で働いていたために加害者の側に立たされた人々の，両者の視点から学習を進める。
新潟水俣病からの学びを価値づける道（徳/総合）	5 時間	「環境と人間のふれあい館－新潟水俣病資料館－」で調べ学習を手掛かりにして，差別をなくすためにどうすればよいかを考えさせる。語り部の方との出会いを通して一人一人の児童に湧き出た思いや疑問を言葉として引き出して共有し，「語る」価値，「語ってもらった」価値を押さえる。
「よりよく暮らし命を守る」提案を行う（総合）	20 時間	単元全体のまとめとして，「災害食の家庭備蓄の促進」を視点に，生き延びるための備えについて提案する。初めに，農林水産省が推奨している内容を踏まえた上で，自分の家庭の実態との比較を通して課題意識をもたせる。続いて，実際に 7 日分の食料を購入し 3 食ごとに振り分けたり，試食したりしながら，より自分の暮らしにあった備蓄食料を選んで，家族に提案する。さらに，乳幼児や病気をもった人などの要配慮者がいた場合の備えを考えることで，世の中にいろいろな立場で暮らしている人がいること気付かせていく。
提案の成果を確認し，地域への発信の準備をする（総合）	4 時間	家族に提案した結果を持ち寄り，成果や問題点を検証する。家族からの提案も生かして，タブレット端末を用いたプレゼンテーションにまとめる。

○　協力団体・協力者等
・中央区コミュニティ協議

○　成果

当初は既に推奨されている内容を伝達すればよいと考えていた児童が，語り部の方に出会ったことで，自分自身が防災について「語る」ことの意義を実感し，提案する内容や伝え方を吟味するようになった。その際，伝える相手を様々に想定しその立場に立って考えており，人権意識の高まりが見取れた。

差別された人の立場に実際に立つことはできないが，災害時には自分や家族が弱い立場に立たされる可能性があると理解し，自分にできること・すべきことを真剣に考えた。その際，仲間と意見を交換することで得た知見の確からしさを検証できたことから，共同的な学びの良さを実感した。

○　課題
・防災にかかわる提案は，命や人権にかかわることから，専門家からの評価を受けることが望ましい。来年度は，まず，今年度実践の評価を受け，学校として進むべき方向を定めたい。

■様式３：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
南万代小学校	**5年1組（26名）**	**9月28日**	**学級活動**	**教諭　渡邉裕子**

・主題名　「未来へ語り継いで」

・ねらい　　水俣病について，被害を受けた人や原因をつくった工場の人，差別的な発言をした人の立場で見直すことで，川と共に生活するための見方や考え方について見直すことができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	T１　新潟水俣病は，どこで起きた社会問題でしたか		p7 位置の確認
	状況の整理	C1　阿賀野川 C2　昭和電工という会社が阿賀野川に流した排水が原因で起きた	施設の資料
	T2　環境と人間のふれあい館で，調べたり聞いたりしたことで感じたことの発表をしてください		
	施設見学を通して感じたり考えたことを共有する	C3　水俣病になった人は，原因もわからない病気になり，長い間，苦しんでいた。 C4　原因がわからなかったことで，社会的に差別を受けることになった。	
10	T3　水俣病になった人が受けた「差別」は，どこに問題があるのかな		
	「正しい理解」がないことによる差別の実態を基に，正しく理解することの大切さを考える	C5　原因がわからない病気が急に出たことで，周りの人が不安になった。 C6　原因は，排水を川に流した工場にあると思う。	



5	T4　校長先生のおじが，昭和電工で働いていました。当時，ここで仕事をしていたということで，周囲の人から悪く言われたと聞いたことがあります	
	ゲストティーチャーを校長として，体験談を聞く	
10	T5　もう一度，聞きます。水俣病になった人が受けた「差別」は，どこに問題があるのかな	
	再度，T3 を繰り返すことで，水俣病の被害者，加害者，差別をした人の視点で総合的に考えさせる	C7　校長先生の話を聞いて，工場の人がすべて悪いとはいえないと思った。社会のためにできる仕事をしていると思っていた。 C8　排水が川に流れるとどうなるのかわからないことに問題があったのではないかな。 C9　水俣病のことを知っていれば，汚水を川に流したりも，病気になった人を差別したりもしなかったと思う。
3	T6　水俣病について，どう考えますか　まとめ	
		C10　原因や被害にあった人のことを正しく知ることで，同じ間違いを繰り返さない
12	T7　今後，わたしたちは，どのように川と接していけばよいでしょうか 自分の考えをノートにまとめてください　振り返り	

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・今までは、差別された人の立場でしか考えてこなかったけれど、今日の授業では、別の立場に立って物事を見る大切さに気付くことができた。これも「正しく知る」必要のあることだと考えた。川については、ただ水が流れているだけでなく、人と人の暮らしをつないでいるものだと考えられるようになった。教室からいつも見ている景色が、いつもと違って見えた。これからは、自分の生活と関連付けて川と接するようにしたい。

・「自分は正しい知識をもって正しい行動をしている」と思い込んでいると、見落としてしまうことがあることに気が付いた。もしかすると、それが差別がなくならない原因ではないかと考えた。川の環境が汚染されたことで、病気になり、差別されるという、二重の苦しみを背負った人のことを学び、自分が川に対してよくないことをしているのではないかと不安になった。これから確かめて、もしあれば改善していきたい。

・自分は差別されたことがないので、差別された人の気持ちになれているかわからないけれど、苦しくて、悲しかったことは分かった。何も知らずに食べた魚が原因で、おなかの中の赤ちゃんが病気になってしまったお母さんの話を思い出し、とても悲しくなった。だから、川を守りたい。

■様式２：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立紫竹山小学校	担当（職・氏名）	阿部　真直
学習テーマ	新潟水俣病を通して，公害について学び，環境と人々の生活とかかわりについて考えよう。		
活動のねらい	公害（水俣病）の学習を通して，「人と自然」「人と人」のかかわりについて発信したいことを考えることができる。		

○　新潟水俣病とのかかわり
・社会科の「国土の自然とともに生きる」の中に出てくる水俣病について触れ，過去に起きた公害に苦しんだ人々や環境改善に努めた人の努力を知り，自分たちの身近な環境を守ることについて考えさせる。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）
・公害についての学習（調べる）
・「環境と人間のふれあい館」へ見学
・環境保全について考える
・実践（ポスター作成，掲示）

○　活動詳細
・公害について調べたり学習したりして，自分たちの県でも大きな公害問題が起こっていることを理解する。
・「環境と人間のふれあい館」に行き，水俣病の被害にあった方の講話を聴いたり，施設を見学したりする。（水俣病語り部の話，水俣病について，阿賀野川近辺の環境について，水環境についての４か所をローテーションで見学）
・身近な環境を守るために自分たちにできることを考える。
・考えたことを実践する。（ポスターを作成し校内に掲示する。）

実施期間	１１月～　　１月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内
公害について調べる	1	・教科書やタブレットを用いて公害について調べる。
新潟水俣病の発生と原因	1	・新潟水俣病がどのように発生し，どのような被害を及ぼしたのか調べる。
環境と人間のふれあい館見学	4	・語り部の講話や，水俣病にかかった人々の話を聴き，苦しみのあらましを捉える。 ・施設内を見学し，阿賀野川に生息する生き物や水質汚染などについて理解を深める。
環境保全について考える	1	環境保全のために自分たちにできることは何か考える。
環境保全ポスターを描く	1	身近な内容で環境保全を促すポスターを描く。

環境保全ポスターの発表	1	一人一人の環境保全に係るポスターについて発表する。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・「環境と人間のふれあい館」

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

＜成果＞

・水俣病について学習することで，公害について知り，自分の身近な環境について考えることができた。

・地域の環境に目を向け，よくしていこうという態度が育まれた。

・水俣病に苦しんだ人々がいたことを知り，人権や差別について考えることができた。

・環境や人権にかかわるポスターを作成し，校内に掲示することによって，学んだことを地域の人々や保護者など多くの人に知ってもらうことができた。

＜課題＞

・コロナ禍のため，発表会を開催できなかった。タブレットによる発表動画撮影などポスター以外の発信方法を考えさせ，実践させることにより，より一層水俣病や環境保全について理解を深めさせていきたい。

写真資料

見学の様子













ポスター掲示



■様式３：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立紫竹山小学校	**5学年（83人）**	**11月18日**	**社会科**	**講師・阿部　真直**

・主題名　　環境と人とのふれあいのために

・ねらい　　公害（水俣病）の学習を通して，「人と自然」「人と人」のかかわりについて発信したいことを考えることができる。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
１０	○「環境と人間のふれあい館」へ校外学習に行ってきたことをもとにして振り返りを発表し合わせる。 ・「水俣病語り部の話」 ・「水俣病について」 ・「阿賀野川近辺の環境について」 ・「水環境について」 ○大変な思いをした人がいたことや大きな環境の変化があったことに気付かせ，学んだことをもとに何かできることはないか考えさせる。 ○この中からみんなで取り組むことを決めさせる。	 ●水俣病になり，身体的にも精神的にも辛い思い思いをした人たちがいたんだな。 ●水俣病で苦しんだ人がたくさんいたことを知ってもらいたいな。 ●工場から川へ水銀が流されてたくさんの人や環境に影響がでたんだな。 ●阿賀野川の環境の変化がそこに棲む人々や生き物に大きな影響を与えるんだな。 ●安全できれいな水質を保つために大変な手間や時間などがかかるんだな。 ●自分たちの地域のごみ拾いをして環境を良くする。 ●ポスターを作って地域の人や全校に見てもらい，環境について考えてもらう。 ●ポスターを作って呼びかけるものいいね。 ●ポスターがいいです。	・校外学習のワークシート

３０

学習課題：ポスターで何を伝えたらよいか。

○ポスターで何を伝えたら人と自然，人と人のよりよいかかわり方を分かってもらえるか発表させる。

●水俣病のように川が汚染されて環境や人に影響を与えてしまわないように「ポイ捨てをしない」がいいと思います。

●ごみの処理をスムーズに行うことで環境にもやさしくなると思うので「ごみの分別」がいいと思います。

●環境や資源のことも考えて「水道や電気をつけっぱなしにしない」がいいと思います。

●限りある資源を大切に使ってほしいので「物を大切に使う」がいいと思います。

●校外学習に行って，水をきれいにするためにはとても大量の水が必要になると聞いたので，「家庭から出る排水をできるだけきれいにする」がいいと思います。

●水俣病になり，ほかの人から差別を受けて辛い思いをした人がいたことを知ったので「差別をせず，みんな仲良く」がいいと思います。

●食べ物を無駄にしないようにということと，ごみをできるだけ出さないように「食べ残しをしない」がいいと思います。

○良い考えがたくさんでたことをほめる。

５

まとめ：「人と自然」や「人と人」のかかわりがよく伝わる内容にすればよい。

○みんなが発表してくれたことをもとに，次回ポスターをかきましょう。

評価：環境保全について，自分の発信したいことを考えることができたか。

・子どもたちの考えたポスターの一部



















■様式２：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立曽野木小学校	担当（職・氏名）	講師・三浦　聡子
学習テーマ	社会科「水はどこから」「ごみはどこへ」 それいけ！曽野木環境調査隊		
活動のねらい	○身近な水環境を調べる学習を通して自然環境と人の営みとのかかわりについて理解を深め、環境を保全していこうとする態度を育む。 ○信濃川と過去に新潟水俣病が発生した阿賀野川流域と比較しながら総合的に学習する。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・活動概要②：「環境と人間のふれあい館」を訪問し、学習してきたことに加え、正しい知識を得る。また、様々な人々がこの問題の解決に関わっていることを捉えさせる。

・活動概要④：新潟水俣病の語り部の方から直接体験を聞き、偏見や差別の現実を知る。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

①社会科「ごみはどこへ」「水はどこから」で水をきれいにする生活環境・仕事を守る仕事について出前授業、調べ学習を通して理解を深める。（7 月～９月）

②「環境と人間のふれあい館」での新潟水俣病や水環境の大切さについての学習を通して、単元の学習課題を設定する。（１１月）

③水質を調査したり、各種の環境問題の資料を調べたりすることを通して、水を汚さないためにはどうしたらよいかを考えワークシートにまとめた。（１１月）

④国土交通省信濃川下流河川事務所による出前授業から川の自然や環境についての先人たちの苦労や歴史を受講した。（１１月）

⑤鳥屋野潟排水機場では、水は循環していることや自分たちの生活が水環境に大きく関わっていることを学習した。（１２月）

⑥私たちの未来のために、環境の視点から「今やるべきこと」を整理し、一人一人自分の課題についてのプレゼンテーションをした。（２月）

○　活動詳細

実施期間	７月～２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
総合的な学習の時間 「それ行け！曽野木環境調査隊」	25 時間	・環境と人間のふれあい館を見学する。（水の汚れ度実験・水環境についての学習） ・新潟水俣病について語り部さんより話を聞く ・曽野木地域を流れる信濃川について水質の簡易測定器を使い、酸素供給量を調べる。 ・課題を設定し、調べ・まとめ・発信する活動を組む。
社会科 「水はどこから」 「ごみはどこから」	8 時間 １０時間	・社会科の学習で環境と人々の生活について考えさせる。 ・水やごみなどの生活環境について学んだことをポスターにまとめさせる。

		きれいな水を守っていくために自分たちに何ができるかを考えさせる。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・環境と人間のふれあい館および語り部：曽我　浩　様

・国土交通省信濃川下流河川事務所による出前授業「川の水」事務局　様

・鳥屋野潟排水機場

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

【成果】

・信濃川の水質検査をすることにより、子どもたちは川への思いを高めることができた。

・社会科での学びと合わせて考えることで、様々な角度から環境問題についての考えをもつことができた。

・資料館への施設見学や新潟水俣病の語り部さんからのお話から、新潟水俣病の被害の歴史や、被害者の体験を聞き、そこから被害者の苦しみを学ぶことができた。また、公害を発生させないためには、どうすればよいかについて自分なりに考えることができた。

【課題】

・施設見学や語り部さんのお話、調査活動など様々な体験活動を通して、実感を併った深い学びを得ることができたが、新型コロナによる日程の変更もあり、1 月中に単元の終わりである「自分たちにできること」を実行に移すところまでに至らなかった。まだ、今年度は、数か月ある。限られた時間内ではあるが、是非とも実践を行っていきたい。

■様式３：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立曽野木小学校	**４年1組（25名）**	**１月26日**	**道徳**	**教諭・船越　友美**

・主題名「みんながなかよくくらしていくために」（B―７親切・思いやり）

・ねらい

地域が差別や偏見によって結びつきを失う様子や結びつきを取り戻すために行動する人々の姿を学習することを通して，相手の立場を想像し，相手のことを考えた行動の大切さに気付き，自ら誰かのために親切に行動を行おうとする心情を高める。

資料「お地蔵さんにこめられた願い」（新潟水俣病の教訓を後世につたえるためにＰ２９～４０）

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
5分	（資料の前段を読む） T：当時の「阿賀野川のほとり」はどのような様子でしたか。 （資料の中段を読む）	 C:みんなが仲良く暮らしていた。 一緒に力を合わせて仕事をしていた。	阿賀野川の当時の写真を画像で映す
	T：強い絆で結ばれていた村は水俣病によってどうなってしまったのですか？	C:バラバラになった。 C:陰口を言う人が出て差別が起きた。 C:絆が見られなくなった。	資料1
10分	T：ロールプレイ１をしてみましょう。	（交代でロールプレイ１をする。）	資料2
	T:A さん役だった人は，どんな気持ちになりましたか。	C:どうして分かってくれないのか。 C:なぜ信じてくれないのか。	
	（資料の後段を読む）。	C:悲しくて悔しい気持ち。	ワークシート
10分	T：どうすれば元の仲の良かった村に戻れるのかを考えてみましょう。	C:この苦しさを伝えたい。	
15分	T：旗野さんはどのような方法で村を元通りにしようとしたのでしょうか？		資料3
	（旗野さんの言葉を読む）	C:お地蔵さんを作った。 C:お地蔵さんに村がもとに戻れるようにと願いを込めた。	
	T:ワークシートに相手を思いやる言葉を書き加え，またロールプレイをしてみましょう。	（交代でロールプレイ２をする。）	
5分	T：A さん役の人はどんな気持ちでしたか？	C:自分の味方になってもらえたみたいでうれしかった。 C:気持ちが軽くなった。 C:頼もしい感じがしてうれしい。 C:優しい言葉をかけてくれてうれしい。 C:勇気がもらえた。	

	T:自分の思いや考えを伝えたい相手を「ニセ患者と言われ，陰口を言われた人たち」「陰口を言っていた人たち」「旗野秀人さん」の３人から選んで手紙を書きましょう。	C:相手の気持ちを考えて行動してほしい。 C:旗野さんのおかげでみんなの気持ちは少しずつ変わったと思う。	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

【水俣病と認められず，かげ口を言われていた人たちへ】

・今まで水俣病のせいで，辛い思いをしてきたと思います。でも，どれだけ辛かったかわたしたちは勉強をしたのでわかります。

・水俣病と認められなくてかげ口を言われて，悲しかったと思います。私はそういう人がいたら助けたいと思うようになりました。

【かげ口を言っていた人たちへ】

・水俣病は見た目ではわかりません。かげ口を言った人たちは，たくさんの方が見た目できめつけていると思います。偏見，かげ口はやめた方がいいです。

・かげ口を言うのはよくないと思います。なぜならそれは差別と同じようなことをしているようなものです。

・もしニセ患者と思って，そう言ったのなら，自分が患者として認めらなかった時，そう言われたらどんな気持ちになるか想像してみてください。きっと嫌な気持ちになります。そんな嫌な気持ちなら，謝っておすそ分けやお手伝いをして前のように優しく接してあげるのはどうですか。

【旗野秀人さんへ】

・阿賀のお地蔵さんを作っていただき，ありがとうございます。作ってくれたおかげで今でも強い絆で結ばれていると思います。作った当時はあまり効果を発揮できていいなかったかもだけど，今は阿賀のお地蔵さんは守り神でありそうです。

・旗野さんが村の人たちの仲を取り戻そうとしてまた強い絆で結ばれてほしいという心に心を動かされました。いろいろ考えたり悩んだりしたと思うけど，がんばって行動している旗野さんはすごいと思います。



総合「プラごみへらそうプロジェクト」
～みんなの川・海を守る～

新潟市指定「地域の特色を活かした環境学習支援事業」実施報告しました！

「環境と人間のふれあい館」で学ぶ







新潟水俣病の発生と経過を知り，自然環境と人間のつながりを学びました。福島潟周辺の水辺の水質調査も行いま

下水の浄水について学ぶ



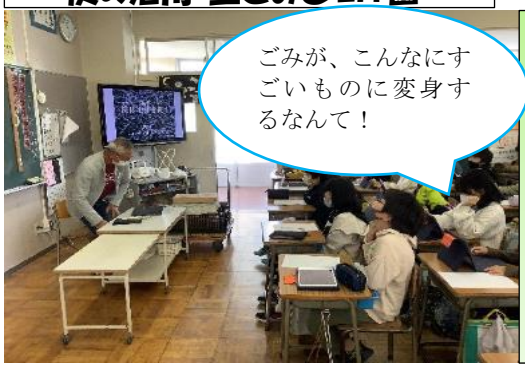
地域の浄化センターの方から，浄水のしくみと下水道の役割について学びました。

地域の方に学ぶ①信濃川クリーン作戦



信濃川クリーン作戦の様子をお聞きし，プラスチックごみが多いことを学びました。

地域の方に学ぶ②
炭の活用・生ごみと EM 菌



廃木を炭に変えたり生ごみから EM 菌を作ったりしている地域の方に，お話を伺いました。

地域の方に学ぶ③
廃油石鹸・ドイツのリサイクル



廃油石鹸を作るなど，地域のリサイクルに力を入れている地域の方から，廃油石鹸やドイツのリサイクルについて学びました。

地域の方に学ぶ④
不要な布と裂き織



不要な布を使って裂き織製品を作っている地域の方にお話を伺い，裂き織に挑戦しました。その後も、簡易織機で継続して織っています。



身近な水環境について調査



身近な水環境について，CODパックテストを行い，ロイロノートにまとめました。油や洗剤を含む水が水生生物に与える影響について学びました。



自分たちにできることを考えよう①　給食のプラスチックストローのごみを減らそう！





むぎストロー



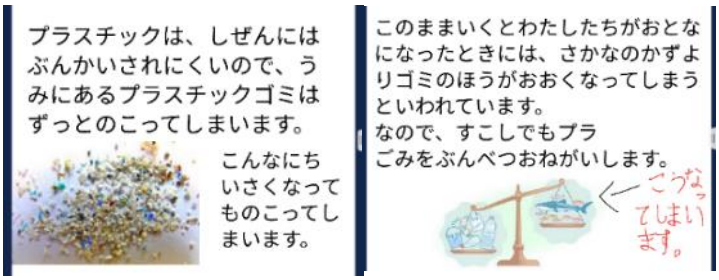
かみストロー



自分たちの身近なところから，環境のためにできることを考えました。給食のプラスチックストローのごみを減らすために，様々なアイディアを出し，試してみた結果，アルミのマイストローやマイコップを持参することになりました。

牛乳のパックを直飲みしやすくなるように，デザインを変えるアイディアもありました。

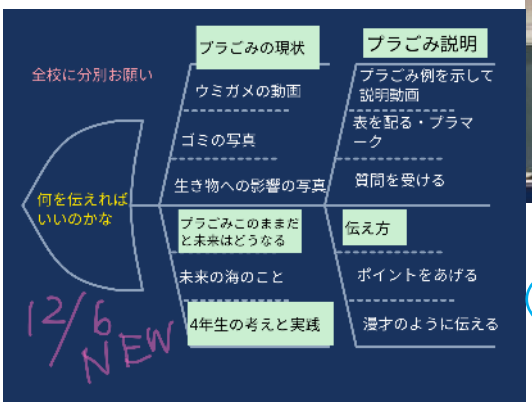
自分たちにできることを考えよう②　全校に　ごみの分別を呼び掛けよう！





地球に優しいことをしたら，オリジナルシールがもらえるよ！

全校に，自分たちの取り組みを紹介し，プラスチックごみの分別を呼び掛けました。ロイロノートを活用して，分かりやすく動画でまとめ，発信しました。





アルミストローが１番

プラごみの分別をよろしくお願いします！！

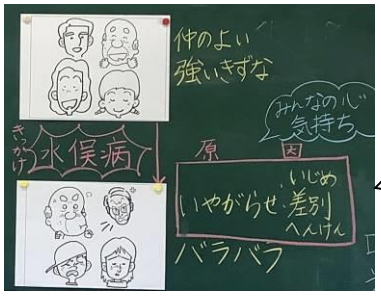


ロイロノート→資料箱→学内共有→「プラスチックごみの分別お願い4の1」に、子どもたちが作成した動画が入っていますので、ぜひご覧ください。

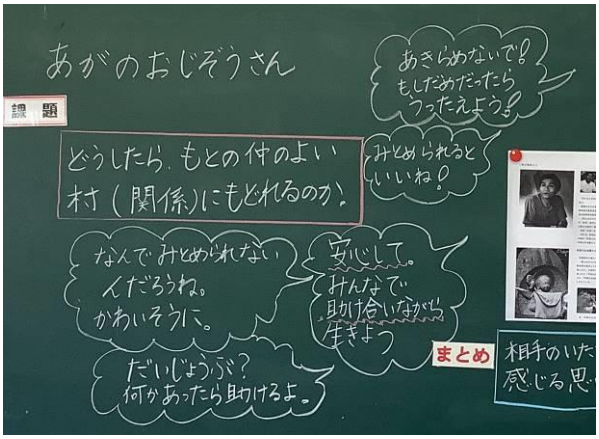
■様式３：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立小須戸小学校	**40 名**	**10/15**	**道徳**	**教諭 ・ 添田 真里**

・主題名　みんなが仲良くくらしていくために　２－（２）思いやり・親切
・ねらい　地域が差別や偏見によって結びつきを失う様子や結びつきを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して、相手の立場を想像し、相手のことを考えた言動の大切さに気付き、自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。

配 時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10	・資料「お地蔵さんにこめられた願い」を配布、途中まで範読する。 ○新潟水俣病が発生する前の「阿賀野川のほとり」の様子を確認させる。 ・新潟水俣病が発生したところから最後まで範読する。	●阿賀野川でたくさんの仕事をしていた。 ●川の水を飲んだり、魚をとったりしていた。 ●近所に魚のおすそ分けをしていた。 ●洗濯していた。 ●子どもは川で遊んでいた。 ●川を通して強いきずなで結ばれていた。	P37 ～ 38の資料
	強いきずなで結ばれていた村が、水俣病によってどうなりましたか。		
	○水俣病に起因する差別発言によって、地域が結びつきを失ったことを確認する。 	●体も痛いのに、みんなに陰口を言われて、とても傷ついた。 ●仲が良かった村の人たちが、話すことが少なくなって、みんなの心がバラバラになってしまった。 ●患者さんは、水俣病と差別の２つの苦しみが続いた。 ●きっかけは水俣病だけど、差別をした原因は、みんなの気持ちにある。	
10	**患者さんはどんな気持ちだったのだろうか。ロールプレイで確かめてみましょう。** ○【ロールプレイ１】患者と周囲の人を交代で役割演技させ、患者の気持ちを体感させる。 	●どうしてこんな目に合わなければいけないのか。 ●今まで仲が良かったのに、そんなひどいことを言われるなんて、悲しすぎる。 ●誰も信じられない。ひとりぼっちだ。 ●もう、誰とも話したくない。 ●これからどうやって生きていけばいいのか。 ●どうして認めてもらえないのか。 ●前のような仲の良い村にもどりたい。	P39 のワークシート上部

（学習課題）どうしたら、もとの仲のよい村にもどれるのか

15	○友だちの思いを共感的に受け止めさせ、当事者意識を持たせて課題につなげる。 ○阿賀野お地蔵さんと旗野秀人さんについての資料を提示し、旗野さんの思いを知らせ、自分にできる具体的な言葉かけを考えさせる。 		P36 の資料 P39 のワークシート下部
	自分が考えた言葉かけでロールプレイをしてみましょう。		
	○【ロールプレイ２】ペアで交替しながらロールプレイを行わせ、感じたことを発表させる。	●一緒にがんばろうといわれて安心した。 ●つらいけどがんばろうと思えた。 ●仲のよい村にもどれそう。 ●とてもうれしくてほっとした。	
	自分の生活の中で、」差別や偏見をなくすためにできることを書きましょう。		
10	○言葉掛けだけではなく、相手の立場や気持ちを考えようとすることが大切であることをおさえる。	●だれかがつらい思いをしているときは、絶対に助けてあげたいと思う。 ●自分がそういう立場になるかもしれないんだから、相手の気持ちに寄り添って接したい。 ●差別やいじめを見かけたら、味方になってあげたい。	

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・ぼくは、初めて新潟に水俣病というおそろしい病気があったことを知りました。川の水のことなんて、今まで考えたことはなかったけど、人間が自然環境を汚してしまっていると知って、環境を守ることについて、たくさん勉強したいと思いました。

・わたしは、水俣病のことを学んで、こんなに病気でつらい思いをしたのに、周りの人からも差別され続けて、裁判でも認められなくて、どんなに悲しかったのか想像もできないと思いました。自分の周りに差別やいじめがあったら、なくす行動をしたいし、言われている人の味方になりたいです。

・ぼくは、水俣病のことを勉強して、あんな手紙やいやがらせをわざわざする人がいるなんて、びっくりしました。でも、ぼくたちも、悪口を言ったり、仲間はずれにしたりしたことがあったから、同じだなと思いました。自分のことは悪いと思わない人が多いと思うから、これからも差別やいじめみたいなことをいつも勉強したいです。

■様式２：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立臼井小学校	担当(職・氏名)	教頭・大原　康史
学習テーマ	４学年：ふるさとの川を守るために，用水路の水質や生き物調べをしたり，クリーン作戦をしたりしながら，ふるさとの川の良さをアピールしよう。 ５学年：公害を乗り越えた地域では，環境を守り続けるために，どのような取組をしているのだろう。環境を守るために自分たちができることは何だろう。		
活動のねらい	４学年：身近な自然を調べる学習を通して，自然環境と生物とのかかわりについて理解を深め，環境を保全していこうとする態度を育む。 ５学年：昔の公害の歴史を知り，苦しい経験をした人たちの思いと努力を感じ，環境を守り続ける大切さをわすれない心情を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり（５学年：道徳・社会科）

「生きるⅢ　ある新潟水俣病患者の訴え」を使い，新潟水俣病の歴史や病気のために苦しんできた人々の思いや願いを考えた。「差別や偏見のない社会」をつくるために，どうしたらよいか，グループで話し合った。授業を行った１１月には児童会行事「いじめ見のがしゼロ集会」も実施され，水俣病への正しい理解をもち，差別や偏見のない学級・学校・地域の実現に努めようと，児童は真剣に考えることができた。

２月に社会科で，公害病について学習した。水俣病や水俣病以外の公害病について写真や年表などで調べたり，様々な人たちの努力により公害の防止や環境の保全が図られてきたことが分かり，公害から環境を守ることの大切さと必要性を感じることができた。

○　活動概要

４学年

① 身の回りの川と自分の生活との関わりを考えた。
② 水生生物，水質を調査した。
③ 川と環境について，白根郷土地改良区の方から学び，環境について学習を深めた。
④ 学習したことをカルタにして，環境を守る大切さをアピールした。

５学年

① 「生きるⅢ　ある新潟水俣病患者の訴え」を使い，差別や偏見のない社会をつくるために，どうしたらよいか考え，話し合った。（道徳：１１月）
② 公害病について調べ，公害から環境を守ることの大切さについて学んだ。（社会科：２月）

○　活動詳細

実施期間	令和３年５月　～　令和４年３月	
主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
６～７月【４学年】 ・水生生物、水質を調査しよう。	１０	・身近な川・用水路には、どのような生物がすんでいるのか調べ，水の水質調査を行った。ヌマエビやザリガニ等，様々な生き物が生きていることが分かった。自分たちの生活と水とのかかわりや水の大切さについて学んだ。
９月【４学年】 ・川の上流に行ってみよう。	５	・阿賀野川上流にある早出川の観察や，ダムの見学を行った。川の水から自分たちの生活を支えている電気を作ること，洪水から生活を守るダムの役目など，自分たちの生活と川のかかわりを学んだ。

１１月【４学年】 ・川の下流に行ってみよう。	５	・信濃川下流にある新潟市歴史博物館「みなとぴあ」の見学やその近辺の川の観察を行った。「みなとぴあ」内の展示から自分たちの生活と川のかかわりを学んだ。
１１月【５学年】 ･差別や偏見のない社会をつくるために，どうしたらよいか。	１	・「生きるⅢ　ある新潟水俣病患者の訴え」を使い，新潟水俣病の歴史や病気のために苦しんできた人々の思いや願いを考えた。「差別や偏見のない社会」をつくるために，どうしたらよいか，グループで話し合った。
１１～２月【４学年】 ･環境を守る大切さをアピールしよう。	１５	・未来の水環境について考え，ふるさとの川環境を守る大切さをアピールするカルタを作った。
２月【５学年】 ･環境を改善するために，人々はどのような取組をし てきたのだろう。	５	・水俣病や水俣病以外の公害病について，公害発生時の写真や年表などの資料をもとに読み取った。 ・公害をなくす運動に参加した人の話の資料から，公害をなくすためにどのような取組や努力があったのかを話し合った。 ・現在の環境保全の取組について調べた。 ・環境を守るために自分たちには何ができるのか話し合った。

○　協力団体・協力者等

・早出川ダム管理事務所　・白根郷土地改良区　・新潟市歴史博物館「みなとぴあ」

○　成果と課題

＜成　果＞

- 白根郷土地改良区の方から，水質検査や絶滅危惧種について分かりやすく説明していただき，絶滅危惧種への関心が高まったとともに，身近な水の環境を守っていきたいという意識を高めることができた。
- 「みなとぴあ」の調べ学習で，生活に使うことができる水は地球上の水のほんのわずかな割合でしかないことや安全に使えるようにすることは容易なことではないことを知り，普段何気なく使っている水の大切さについて学ぶことができた。
- 新潟水俣病のＤＶＤを活用し，新潟水俣病が過去の話ではなく，今も続いていることを感じることができた。また，水の汚れは自分たちにとって大きな影響があることを再確認し，水環境を守っていかなければいけないという意識を高めることができた。

＜課　題＞

- 学習を広げる目的で外部講師の先生をお招きし，お話を聞く機会をもっと設定したかったが，コロナ禍のために，白根郷土地改良区の方から学ぶ機会のみとなった。環境保全は，未来を担う子どもたちにとって大切なテーマであるので，身近な環境からスタートしながら，本物の体験を語ってくださる方との出会いを来年度も模索していきたい。

■様式３：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立臼井小学校	５年１組（24 人）	11 月８日	道徳	教諭　木村　仁美

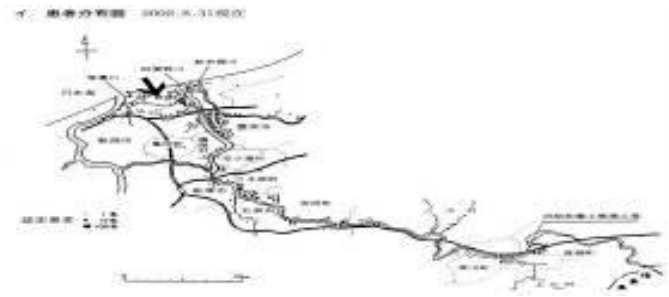
主題名　「ある新潟水俣病患者の訴え」　（「生きる　Ⅲ」新潟県同和教育研究協議会）

ねらい・　新潟水俣病が発生している事実を知らせ、たくさんの人々が命を奪われたり、心身や家族を破壊されたり、差別や偏見に苦しんだりしていることを理解する。

・　原因究明や公害病認定に向けて、懸命に闘ってきた人の生き方を学ぶことを通して、差別や偏見に屈することなく、立ち上がっていくことの大切さを学ぶ。

※「新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために」Ｐ７１～７６を参考に授業を構想した。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
１０	○新潟水俣病について知っていることを出し合う。	○社会科教科書「公害」のページや社会科資料集を見て、自由に出させた。 ・四大公害病の一つだ。 ・阿賀野川上流で起きている。 ・昭和電工鹿瀬工場の廃水で何人もの尊い命が奪われた。今も苦しんでいる人がいる。 ・新聞に今でも水俣病裁判について出ている。	・ P130～131 の写真 ・ P133 の絵
	○全文を読み、初発の感想を書く。 **病気に対する差別や偏見をなくすには，どうしたらよいのだろうか。**	○教師が範読し、分からないことや難解語句を説明しながら、通読した。 ○何人かに感想を発表させ、代表的な感想を板書した。 ・今も完全に解決されていないなんて、なぜなのか。 ・50年前の川への廃水が原因で今も苦しんでいる人がいるなんて初めて知った。 ・周りの人たちが差別するなんてひどい。 ・「わたし」は必死に水俣病と闘って、その生き方がすごい。	
１０	**「ぼろぼろの状態」になった「わたし」は、その後どういう行動をとりましたか。**	○主人公「わたし」を「心も体もぼろぼろの状態」にしたのは何か考えた。 ・阿賀野川　・昭和電工　・有機水銀　・公害 ・魚　・病気　・周りからの差別、偏見 ○児童と対話しながら、健康被害だけでなく、様々な差別や偏見があったことを認識させた。 ○その後の「わたし」の行動を読み取った。 ・責任を追及した。　・裁判で闘った ・けっしてあきらめなかった。・差別や偏見に負けなかった。	

１０	○新潟水俣病が阿賀野川流域各地に被害を及ぼし、新潟市にも患者の方がいることを知る。 **新潟水俣病の患者分布図を見てみましょう。新潟市にもたくさんの患者の方がいらっしゃるのです。** ○もう一度読んで、「わたし」が受けた差別や偏見はどのようなものか話し合う。 ○差別や偏見に負けず闘った「わたし」を支えたものは何だったと思いますか。	 ・身近に患者の方がいることは知らなかった。 ・水俣病への周りの無理解と誤解があった。 ・娘さんの結婚にも差別があった。 ・人の痛みを分からない周りの人の差別だ。 ・差別に対する怒りだと思う。 ・一緒に闘う仲間の支えがあったからだ。 ・「自分と同じ苦しみを味わわせたくない、二度と公害を起こさないで」という願いだと思う。	・ P132の地図
１５	**今日，あなたが新潟水俣病から学んだことは何ですか。 また，今の私たちにできることは何でしょう。**	○自分の体験と重ね合わせ、「わたし」の生き方から学んだことを作文に書いた。 ○最後に一人一人書いたことを発表してお互いの考えを聞き、深めあった。 	

・授業後の子どもたちの考え

・一度汚染され、破壊された環境や健康は、たくさんの費用や労力をかけても、元に戻すことができないことがわかった。だから、水俣病のことを学んで、二度と同じことを起こさないようにして、今の自然を守り、未来までも考えて、自然を大切にしていきたい。
・水俣病にかかっていることで周りの人から差別されていたなんて、ひどいと思う。
・差別に負けずに闘う勇気がすごい。もしわたしだったらできるかな。途中であきらめるかもしれない。勇気が大切だと言うことを学んだ。

■様式２：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立新通小学校	担当（職・氏名）	教諭・原口　博昭
学習テーマ	考えよう私たちの「食」～水から考える環境問題～		
活動のねらい	身近な河川の水と新潟県の主要産業の一つである農業や自分たちの暮らしとのかかわりについて調べたり新潟水俣病について調べたりする活動を通して，河川の水質をきれいな状態で保全していく大切さを理解し，分かったことや調べたことをまとめて言葉や文章などで自分なりに表現することができる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

新潟の河川の水は，自分たちの飲料水となったり地元の農作物を育てたりしている。いわば恵みの水である。しかし，同じように地域にとって大切な恵みのもとであった河川の水に有害な物質が混入したことによって新潟水俣病が発生した。この新潟水俣病について調べることで，世界的な課題でもある環境問題や新潟水俣病にかかわって起きた差別・偏見について，より身近な問題としてとらえさせることができると考えた。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

まず，農業と新潟の河川の水との関わりについて，社会科の学習と関連させて「米づくり」を中心にして学習した。さらに，地域で有名な「枝豆」などの野菜を育てるためにも河川の水が使われていることを知らせ，身近な川の水が私たちの暮らしと密接な関わりがあることを確認した。

その学習の後，「実は大切な川の水に関連して，昔，新潟でとても悲しい出来事があった」という形で新潟水俣病のことを紹介し，ＤＶＤを視聴したり，自分でインターネットなどを使って調べたりして新潟水俣病への理解を深めた。

また，身近な「西川の水質は現在大丈夫なのか」という疑問から水質検査キットを使って水質検査を実施したり，米づくり農家の消費拡大への取組を学ぶためにアグリパークに行って米粉について学んだり実際に米粉だんごを作ったりした。

この後，道徳の授業として生きるⅢにある「ある新潟水俣病の訴え」という資料を使って，新潟水俣病にかかわって起きた患者への差別や偏見とそれに立ち向かった人々のことを学習した。

最後に，分かったことをタブレットのソフトウェア「ロイロノート」を使って一人一人が工夫してタブレットにまとめた。

○　活動詳細

実施期間	Ｒ３年４月～１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
米づくりと水とのかかわり	１５	社会科の農業単元と関連させ指導した。 当初は，地域のコメ作り農家の吉田さんの協力を得ながら「田植え体験」や「稲刈り体験」を実施する予定だったが，新型コロナウイルスのため，担任が吉田さんの米づくりの様子を動画に撮影してみせることで対応した。また，吉田さんに農業への思いについて話していただいたり子どもたちの疑問に答えていただいたりした。

私たちのくらしと水とのかかわり	６	農業用水や飲料水としての河川の水の重要性を知らせた。子どもたちから出た疑問をもとにして，身近な河川である「西川」の水質検査をキットを使って実施。川の水の安全性を確認した。
阿賀野川と新潟水俣病	１１	学校に配布されていたDVDを使用して新潟水俣病についての概要を学ばせた。 その後，インターネットで新潟水俣病について調べ，ロイロノートにまとめさせた。
日本の食料自給率の課題とコメの消費拡大への取り組み	１４	社会科の食料生産の単元と関連させて指導した。 新潟の特産品ともいえるコメの消費量拡大のため，県で「R10 プロジェクト」という運動がされていることを紹介し，コメの消費拡大のための取り組みを調べさせた。 さらに深く学習をするため，アグリパークに行き，米粉についての講義を聴いたり，実際に米粉を使って団子を作ったりして学習を深めさせた。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

米づくり農家　吉田雄一郎さん(学校田への協力)

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

成果

○　環境問題について，身近にある川の水を使って実際に水質検査をしたり，コメ作り農家の話を聞いたり，アグリパークへ行って体験学習をしたりすることができたので，自分の身近な問題として環境学習をとらえることができ，自分の体験や知識と環境問題を結びつけながら学習を深めることができた。

○　新潟水俣病について，ＤＶＤや生きるⅢにあった読み物資料を使って学習した。環境を破壊する恐ろしさや差別や偏見について，それが身近な問題であるということや絶対にしてはいけないということを自分たちの生活と結びつけて考えることができた。

課題

○ 新型コロナウイルスのため，吉田雄一郎さんの協力を得ながら行うはずだった「田植え体験」「稲刈り体験」ができなかった。代わりとなる動画を見せたり，実際に米づくりをしている吉田さんをゲスト講師に迎えての講演を聴いたりすることで補ったが，体験から学ぶことも多いのでその部分が不足したことは否めない。

○ 新潟水俣病についても，予算や他の行事との関連で資料館へ行っての学習が組めなかった。資料館で実物の資料を使って学習すれば，さらに学びが深められたと考える。

■様式３：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立新通小学校	**5の3（27 名）**	**11／29**	**道徳**	**教諭　原口博昭**

・主題名　**新潟水俣病患者の訴えから学ぶこと　C-13　公正，公平，社会正義**

・ねらい　**「わたし」が被害を受けた新潟水俣病について，「わたし」をふくめた新潟水俣患者の方が病の原因追及や公害病認定に向けて，差別や偏見などと懸命に闘ってきたことを知ることを通して，差別や偏見の理不尽さと差別や偏見に屈せずに立ち上がっていくことの大切さが分かる。**

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
	・ロイロノートで，資料の一部（Ｐ．２７～２８の文章・写真）を配付し，事件の始まりについて読み聞かせる。	●前に調べた新潟水俣病だ。	
	これが，新潟水俣病の始まりです。患者さんは，何か悪いことをしましたか。		
		●いいえ。 ●何も悪いことはしていません。	
	・どんな症状で苦しんだか，確認する。		
	患者さんは，病気の症状以外にも苦しんだことがあります。何でしょうか。		
	・ロイロノートで，続きの資料（Ｐ．２９始め～Ｐ．３０の５行目まで）を配付し，読み聞かせ，分かったことを発表させる。	●分からないなあ。 ●差別かもしれない。 ●悪口を言われた。	
	患者さんは，何か悪いことをしましたか。		
		●していません。 ●病気で苦しんだだけ。悪いことはしていない。	
	・ロイロノートで，続きの資料（Ｐ．３０の７行目～１１行目まで）を配付し，読み聞かせる。		
	患者さんの周りの人たちは，応援したでしょうか。		
		●困っているんだから，応援したと思う。 ●意地悪だからしてないと思う。	
	・ロイロノートで，続きの資料		

	（Ｐ．３０の１２行目～Ｐ．３１の５行目まで）を配付し，応援でなく批判したと伝える。 ・感想を発表させる。	●ひどい。 ●かわいそう。なぜ，応援しないのかな。	
	どんな理由で，応援しなかったのでしょうか。		
	・情報が不十分なときに「差別・偏見」が始まってしまうことがあることを説明する。 ・実際に患者さんを中傷した手紙の画像を見せる。	不安になった人の中で， 始まってしまうことがあるもの 差別 偏見 	
	・ロイロノートで，続きの資料（Ｐ．３１の６行目～１５行目まで）を配付し，読み聞かせる。	●ひどい。 ●こんなに苦しんでいたのに認定されなかったんだ。	
	あなたなら，このあとどうしますか。		
		●あきらめるかも。 ●もう一度裁判する。	
	・ロイロノートで，続きの資料（Ｐ．３２～Ｐ．３３の５行目）を配付し，読み聞かせる。	●和解したんだな。	
	「わたし」の戦いは，終わりましたか。		
		●終わっていないと思う。	
	・続き（Ｐ．３３の６行目～最後まで）を読み，「わたし」は戦いが終わっていないと考えていること・差別は今も続いている事実を伝える。	●差別がまだ続いているなんて。 ●早く終わってほしいなあ。	
	今日の話や「わたし」の生き方や考え方からどんなことを学んだか書きます。		

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

●今日の学習で患者さんが水俣病の症状の苦しみの他に「差別」「偏見」などの苦しみもあったことを学んだ。自分は今まで差別や偏見で苦しんだことはなかったので，この話を聞いてすごくかわいそうだし裁判の相手のことをひどいと思った。差別などをしていた人は，人のことを考えたことはあるのかなと思った。これからは，絶対に差別をしないようにしようと思った。

●　今日のお話や「わたし」の生き方や考え方から、差別や偏見、いじめは良くないということを学んだ。今までの自分は、ちょこちょこ「患者とは一緒に泊まりたくないなぁ」とおもっていた。これからは，絶対に差別をしないようにしたい。また，手紙まで送って差別とかするなんて最低だなぁと思いました。送るなら応援の手紙の方がいいんじゃない？と思いました。

■様式２：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立曽根小学校	担当（職・氏名）	教諭・本間　梢
学習テーマ	公害を二度と繰り返さないために～新潟水俣病～		
活動のねらい	新潟水俣病の発生、患者の症状について関心をもち、原因や患者の苦しみなどを知るとともに、公害を二度と起こしてはならないという気持ちを持もち、自分にできることについて考える。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・新潟水俣病の原因・被害・患者の苦しみについて知る。
・「環境と人間のふれあい館」で、語り部の方から体験談を聞かせていただく。

○　活動概要

①新潟水俣病の概要をＤＶＤ「新潟水俣病からの学び　未来へつなぐ新潟の自然～悲劇を繰り返さないために～」を視聴して知る。
②「環境と人間のふれあい館」で語り部の方から体験談を聞かせていただく。
③環境を守るために、身近なところで自分が実践できることを考える。

○　活動詳細

実施期間	１１月～　　１２月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新潟水俣病の概要を知る。	１	ＤＶＤを活用し概要を理解させる。
新潟水俣病の概要・被害などについて調べる。疑問に思うことをまとめる。	１	新潟県の資料やインターネットなどで調べさせ、疑問に思うことをまとめさせる。
「環境と人間のふれあい館」へ見学に行き、展示資料から新潟水俣病について学ぶ。また、語り部の方から体験談を聞かせていただく。	２	「環境と人間のふれあい館」の展示資料から新潟水俣病についてより詳しく理解させたり、疑問に思ったことを解決させたりする。語り部の方から体験談を聞かせていただき、患者さんがどのように苦しんできたのか考えさせる。

環境を守るために、身近なところで自分が実践できることを考える。	1	自分ができる環境保全について考えさせる。

○　協力団体・協力者等

・「環境と人間のふれあい館」職員の皆様

・新潟水俣病　語り部様

○　成果と課題

【成果】

・新潟水俣病の概要について、ＤＶＤを活用することで正しい情報を分かりやすく、詳細に知ることができた。

・「環境と人間のふれあい館」の展示見学や質疑応答を通して、なぜ新潟水俣病は発生し、患者のみなさんがどのように苦しみ、戦ってきたのかについて学ぶことができた。

・語り部の方から体験談を聞かせていただくことができ、公害の恐ろしさ、患者さんの症状から出た苦しみ、患者さんが受けた差別など、心に響くお話を知ることができた。

・身近な環境保全について考える機会となった。

【課題】

・新潟水俣病の概要や患者さんの苦しみついては詳細に学ぶことができたが、公害を自分事として捉え直し、身近な環境保全について考える活動ではなかなか意見が出なかった。来年度の５年社会科で公害について学習するので、その折に、再度公害を自分事として捉えて環境保全について考え直す機会となればよいと思う。























■様式３：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立曽根小学校	**4年1組（30人）**	**11月12日**	**総合的な学習の時間**	**教諭　本間　梢**

・主題名　新潟水俣病から学ぼう

・ねらい　新潟水俣病によって多くの人々が命を奪われたり、差別や偏見に苦しんだりしている事実を理解し、これから自分たちにできることは何か考える。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
10分	新潟水俣病患者の方が受けた差別や偏見について振り返らせる。 先日聞いた小武さんのお話から、新潟水俣病の患者さんたちはどのような差別や偏見を受けてきたのかについてまとめましょう。	新潟水俣病患者の方が受けてきた差別や偏見について振り返る。 ●お金が欲しいだけのにせ患者。 ●うつるからこちらへ来るな。ミナだ、ミナ。 ●医者にも正しく診察してもらえなかった。	p.173
10分	ワークシートをし、患者の視点で考えさせる。 もし自分が水俣病患者になったら、どうすると思いますか。 	自分が患者だったらどうするか、考える。 ●水俣病の苦しみを訴える。 ●水俣病であることを認めてほしいが、言えないでいる。	
10分	（学習課題） 小武さんが伝えたいこと・自分にできることは何だろう。 新潟水俣病患者の方が訴えるメッセージについて振り返る。 小武さんはどのようなメッセージを伝えたかったのだと思いますか。	新潟水俣病患者の方からのメッセージについて考える。 ●患者の経験を知り、自然等の環境を守る必要性に気付いて欲しい。 ●差別されている人が周りにいたら、助けてあげてほしい。	

10分	これから自分たちにできることは何か考えさせる。 これから自分たちにできることは何でしょうか。	これから自分たちにできることを考える。 ●二度と公害を起こさないために、身近な自然や川を大切にする。 ●差別や偏見を受けている人がいたら、助ける。 ●新潟水俣病の辛い過去を、身近な人に話して伝える。	
5分	振り返りを書かせる。	振り返りを書く。	

・授業後の子どもたちの考え等(作文等)

・水俣病が人を変えてしまうことが心に残りました。これから自分にできることは、コロナや水俣病に対しても偏見・差別をせずに、みんなにやさしくすること。そして、一人でも多く水俣病で苦しんだ人のこと、差別はいけないということを伝えて、差別のない世界を作りたい。

・小武さんは同じあやまちをしないでほしいと伝えたかったのだと思う。これから自分にできることは、水俣病がどんな病気なのかを話して伝えていくこと。差別をしないこと。生き物の体にとって悪いものを、自分たちが捨てないようにすること。水俣病の患者さんのように悲しい思いをしている人がいたら、その人の気持ちを理解してあげること。

・小武さんは、５５年間１日たりとも水俣病のことを忘れたことがないと聞いて、それだけひどく苦しんできたと分かった。小武さんは諦めずに裁判を行い、今も語り部として２０年間活動されていてすごいと思う。これから自分にできることは、水俣病を知らない人に知ってもらうこと。いじめや差別を起こさないこと。自然を大切にすること。

・水俣病の悲惨さをいろいろな人に伝えていって知ってもらい、興味を持ってもらいたいと思った。水俣病になってしまった方を自分が治すことはできないけれど、困っている人がいたら支援して助けてあげられる人になりたいと思った。

■様式２：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立南浜中学校	担当(職・氏名)	教諭・小林 正文
学習テーマ	新潟水俣病についての学習を通して，環境保全や人権尊重について考えを深めよう。		
活動のねらい	新潟水俣病の現地学習を通して，新潟水俣病への正しい理解を深めるとともに，差別や偏見を身近な問題として認識させ，自ら解決しようとする態度を育てる。		

○　新潟水俣病とのかかわり

・旧昭和電工（株）鹿瀬工場を見学したり，「環境と人間のふれあい館」で職員の説明や語り部の講話を聴いたりすることで，新潟水俣病についての理解を深める。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

新潟水俣病について，ジグソー学習を行い，現地見学の前日には，あがのがわ環境学舎の職員の講義を受けた。現地見学では，鹿瀬工場と「環境と人間のふれあい館」を見学して学習を深めた。最後に，これからの社会をよりよくするための提言と自分ができることを考えた。

○　活動詳細

①新潟水俣病について，４つの観点でジグソー学習を行った。
②あがのがわ環境学舎の職員からグーグルマップを使い，阿賀野川流域を地図で確認しながら，鹿瀬工場が社会の変化に対応し生産品目が変化したことを学習した。
③旧昭和電工鹿瀬工場・鹿瀬ダム・排水口を見学する。
④「環境と人間のふれあい会館」で語り部の講話を聴いた後，施設見学をした。
⑤グループごとに分かれ，提言と自分ができることを考え，SDGs の項目を入れて，個人でまとめた。

実施期間	９月～１０月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
学習ガイダンス	１	・新潟水俣病について基礎知識の学習を行う。 ・今後の学習について理解する。
事前学習①	１	・DVD「悲劇を繰り返さない」を視聴し，感想を書く。
事前学習②	２	①発生の経緯・原因・②身体的被害・③社会的被害・④水俣病の現在，４つの観点に分けて，ジグソー学習を行った。
発表	１	調べたことを全員で共有する。
直前講義	２	あがのがわ環境学舎の職員からの講義を受ける。
校外学習	１日	旧昭和電工鹿瀬工場周辺を見学する。 「環境と人間のふれあい館」で語り部の講話と施設見学
まとめ	２	これからの社会をよりよくするための提言と自分ができることを SDGs の項目を入れてまとめる。

○　協力団体・協力者等（※この欄の必要が無ければ削除してください。）

・あがのがわ環境学舎

・環境と人間のふれあい館

○　成果と課題　（※成果と課題を分けて記述してください。水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

≪成果≫

・新潟水俣病を通した環境学習を通して，新潟水俣病について理解とそれに伴う社会の差別や偏見に気付き，環境保全や人権尊重について考えを深めることができた。

・学習ガイダンスとあがのがわ環境学舎の職員によるパワーポイントを使った講義は，視覚教材は，生徒の視覚に訴えものであり，新潟水俣病の理解を深めた。

・４つの項目に絞り込んでジグソー学習を用いて調べ学習を行うことで，各自が責任をもち主体的に活動することができた。

・あがのがわ環境学舎の職員から直前講義で，ジグソー学習で学んだ新潟水俣病の内容を確認でき，目的意識をもって現地学習に臨めた。

・現地学習ではジグソー学習と直前講義で学んだこととリンクし，深い学びにつながった。

・語り部の講話を聴くことで，今までの学習で知ることができなかったことや語り部の気持ちなど生きた情報を聴くことができ，差別や偏見を身近な問題として考えることができた。

・まとめの学習で，SDGs の視点で自分の立場に置き換えて自分ができることで，これからの生活に生かす態度が醸成できた。

≪課題≫

・調査活動を行ったが，タブレットを活用が中心となり，配布された使用をじっくりと読みこむ生徒が少なかった。また，インターネットで調べた資料の読み取りが難しく，理解できないまま書き写しているだけの生徒がいて，班に戻った時に，他の班員にうまく説明できない様子が見られた。調査時間の増加と説明の工夫と調査活動中の支援の仕方などの改善点があった。

・まとめの学習活動の中で，感じたことや考えたことを発表し合って振り返ることをすれば，より学習が深まった。

・コロナ禍で，語り部の講話が録画されたものを視聴することになり，生で聴く雰囲気を感じることができなかったことが残念であった。録画されたものを視聴だけでなく，ZOOM で講話の一部を流したり，質疑応答があったりするとより学習成果が上がると思う。

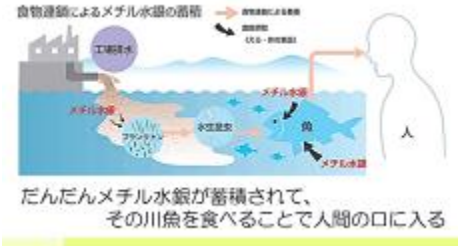
■様式３：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立南浜中学校	**1学年（27名）**	**9月29日**	**総合的な学習**	**教諭・小林正文**

・主題名　**新潟水俣病～環境と人権問題を考える～**

・ねらい　**新潟水俣病について，その発生原因や被害について考え，調査学習を通して，新潟水俣病が環境を破壊し，人権を侵害したことを理解し，環境保全と人権尊重の重要性について考え，校外学習に向けて意欲を高めることができる。**

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
導入（10）	ワークシートを配布 ○公害とは？スライドを使って説明する。	●説明 ・環境基本法では，事業活動やその他の人の活動に伴って生じる人の健康又は生活環境に係る被害と定義	ワークシート
	公害が発生したのはなぜか。		
	○公害が発生したのはなぜか，予想させる。（下はスライドの一例） 	●生徒の反応 ・自分勝手な人が多いから。 ・便利さを求めたから。 ・会社の利益を優先したから。 ・国が法律を作るなどの対策をしなかったから。	スライド（教師作成）
	○四大公害病とは？	●説明 ・新潟水俣病，水俣病，イタイイタイ病，四日市ぜんそく	
本時（30）	（学習課題） 新潟水俣病とは、どのような公害だったのか。		ワークシート
	阿賀野川と人々の暮らしはどのように結びついていたのか。		スライド（教師作成）
	○阿賀野川と人々の暮らしについて，スライドで説明する。（右はスライドの一例）	●説明 ・阿賀野川は生活の場，タンパク源だった。 	
	新潟水俣病が発生した原因は何か。		
	○新潟水俣病の発生原因について資料で調べる。（次ページは授業の様子）	●昭和電工から出されたメチル水銀を含む排水が原因である。 ●メチル水銀に汚染された川魚を大量に食べた人が発症した。（次ページはスライドの一例）	初めての新潟水俣病

			新潟水俣病 20 の疑問
	これからのどのようなテーマで学習していくか。 ○総合的な学習のテーマについて	●テーマ ①環境を守ることの大切さ ②水俣病被害者の人権	
まとめ	（まとめ） ・新潟水俣病とはメチル水銀を原因とする公害 ・新潟水俣病により、差別や偏見が生まれ、現在も苦しんでいる人々がいる。		スライド（教師作成）
振り返り（10）	○授業を通して考えたことを書く。 ○ワークシートを回収し，数名の意見を発表する。	●生徒の反応 ・手足のしびれ，震えなどいろいろな症状で今も苦しんでいる人がいることがわかった。 ・これからの新潟のためにも，水俣病への理解をもっと深めていきたいと思った。	ワークシート

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・小学校の頃も勉強したけれど，この授業で思い出すことができた。水俣病の症状も，もちろん辛いと思うけれど，それにプラスで地域の人に差別や偏見を受け，すごく辛いなか被害者の方は生きていたんだなと思った。

・なぜ熊本で 1 回水俣病が起こったのに，また新潟で起こってしまったのか気になった。就職や結婚，さらに生まれてくる子供にまで影響があり，本当に大変だとわかった。新型コロナウイルス感染に近い部分があると思った。今まで水俣病について，受け継がれたものをこれからも受け継いでいくことが大切だと思った。

・アセトアルデヒドを作る際にメチル水銀が生まれ，多くの人が被害にあっている。偏見や差別で病気を隠している人がいた。「生きているうちに救済を」と訴え，国と和解した人もいた。新潟の未来のために一人ひとりができることをする。

・水俣病を隠して亡くなられた人がいたことがわかった。その事実から差別などもあったことが感じられた。精神的にも追い詰められて，私たちには，わからない苦しみを味わったと思う。また一方で，今もまだ裁判をしている人がいて，被害者にとっては今も続いているので，私たちも環境汚染しないようにしたい。そして，私たちが学んだことは次の世代に伝えていきたい。

・多くの人に水俣病を知ってもらって，後世につなげるように企業の取り組みと，もう二度と繰り返されないよう一人一人にできることを考えて取り組む。

■様式２：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」実施報告書

学校名	新潟市立白南中学校	担当（職・氏名）	教諭　稲村　直輝
学習テーマ	新潟水俣病に関する学習を通して，環境・人権・自分の生き方について考えよう。		
活動のねらい	新潟水俣病に関する調査活動を通して，水俣病が発生した当時の社会的背景や環境問題、人権問題を理解し，自然環境の在り方や人権について考えるとともに，自らの生活や行動に生かすことができるようにする。		

○　新潟水俣病とのかかわり

「環境と人間のふれあい館」を訪問し，水俣病に対する理解を深めることで人権に対する意識を高める。また，当時の人々の暮らしや社会の流れ，環境に対する意識など多角的観点から水俣病について考える。

○　活動概要（新潟水俣病とのかかわりの内容に触れてください。）

・読み物資料やＤＶＤから新潟水俣病について知る。
・新潟水俣病発に関する疑問点と課題を見つける。
・校外学習（「環境と人間のふれあい館」へ訪問）を行い，詳しく学ぶ。
・新潟水俣病についてまとめ，発表し，振り返る。

○　活動詳細

①「生きるⅣ」を使って，新潟水俣病についての概要を学習する。
②ＤＶＤを用いて新潟水俣病発生前後の，社会全体，人々の暮らし，人権と環境に対する意識などについて調べ，疑問点と課題を見つけてまとめる。
③「環境と人間のふれあい館」へ行き，語り部さんから直接お話を伺い，水俣病について正しく理解する。また，福島潟の散策を行い，環境保全について考える。
④これまでの学びをまとめるとともに，環境と人権の２つの視点から，今後どのような姿勢で自らが関わっていきたいと考えるのかをプレゼンテーション形式で発表する。

実施期間	５月～９月

主な学習内容・活動内容	時間	指導・支援の内容
新潟水俣病について知る	３	・「生きるⅣ」で新潟水俣病についての概要を学ばせる。 ・水俣病患者に対する差別や偏見があることを理解させる。 ・「新潟水俣病」のＤＶＤを視聴させ，原因，当時の社会的背景，水俣病について詳しくとらえさせる。 ・学んだことをワークシートにまとめさせる。
校外学習	５	・資料館を訪問し，提示資料，ゲストティーチャーなどから幅広く情報を収集させる。 ・福島潟を散策し，環境保全について考えさせる。
まとめる	３	・読み物や資料館，ゲストティーチャー，福島潟散策で得た情報をもとに，環境問題・人権問題について，今後の関わり方についてスライドでまとめさせる。

発表する・振り返る	3	・作成したスライドを使って，「環境と人権の視点から自分ができること」についてのプレゼンテーションを行う。 ・３グループつくり，iPad を大型ＴＶに拡大表示し，一人５分程度で発表させる。

○　協力団体・協力者等

・環境と人間ふれあい館

・同館の語り部２名（曽我　浩様，権瓶　良雄様）

○　成果と課題

＜成果＞

・読み物資料やＤＶＤなどを活用し，新潟水俣病の発生原因を知り，依然として患者に対する偏見や差別があることを理解し，人権意識を高めることができた。

・「環境と人間のふれあい館」を訪れ，展示資料を見たり語り部から話を聴いたりする活動を通して，新潟水俣病を含めた環境問題について，実感を伴って理解を深めることができた。

・これまでの学びをタブレット（ロイロノート）にまとめ，グループごとに発表する活動を通して，新潟水俣病への見方や考え方を生徒同士で共有することができた。

＜課題＞

・今後の環境問題へのかかわり方として，ボランティア活動への参加や地域のごみ拾いなど，やや一律的なものが多かった。

＜写真資料＞　環境と人間のふれあい館で展示資料の説明を受ける生徒達



語り部さんへ質問をする生徒



福島潟を散策する生徒達



発表会の様子（タブレットと大型 TV を用いて）



■様式３：令和３年度「地域の特色を活かした環境学習等支援事業」に係る授業記録

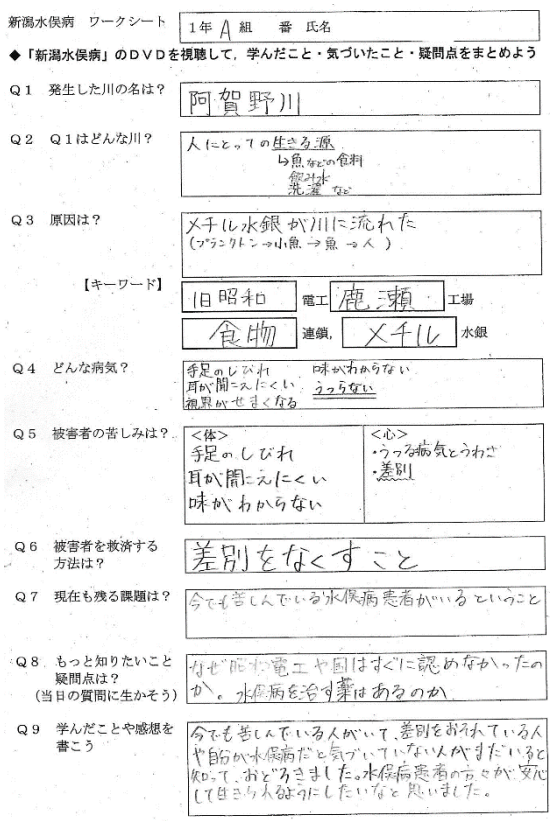
学校名	授業学級（人数）	実施日	実施教科等	授業者（職・氏名）
新潟市立白南中学校	**1年A組（22 名）**	**7月5日**	**総合**	**教諭　稲村　直輝**

・単元名　新潟水俣病について詳しく知ろう　―ＤＶＤ「未来を見つめる旅～新潟水俣病から学ぶ人と環境のあした～」を視聴して―

・ねらい　新潟水俣病に関するＤＶＤを視聴する活動を通して，新潟水俣病には環境問題や人権問題があることを理解し，自然環境の在り方や人権について考えるとともに，自らの生活や行動に活かすことができるようにする。

配時（分）	教師の働き掛け	子どもの反応（学習活動等）	資料
20	・ワークシートを配付し，ＤＶＤを視聴させる。		・P128～133の資料
	新潟水俣病の発生原因や病気の症状は何でしょうか。		
	○ＤＶＤを視聴しながら，新潟水俣病の発生原因や，病状が何かを探らせる。	●阿賀野川上流で旧昭和電工が排水した汚水（メチル水銀）で育ったプランクトンを魚が食べ，さらにその魚を食べたことが原因で，多くの人々が発症したことを確認する。 ●手足のしびれや震え，視界が狭くなる，耳が聞こえにくくなる，頭痛，めまいなどといった症状があり，人によって異なる。	
	DVD 視聴の様子  		
20	○新潟水俣病には身体的な問題だけでなく，心の問題が潜んでいることに気付かせる。	●いわれのない差別や偏見，根拠のないうわさ，仕事ができないなどの心の問題が残っておりそれらが人権問題であることに気付く。	
	（学習課題） 現在も残る新潟水俣病に関する人権問題とは何でしょうか。 また，被害者たちはどのような行動を起こしたのでしょうか。		
	○被害者は問題解決のために立ち上がった人々もいるが，完全な解決には至っておらず，依然として多くの人々が苦しんでいることに気付かせる。	●被害者の中には，国や旧昭和電工を相手に裁判を起こした人たちがいる。 ●裁判を起こしても，ニセ患者，賠償金めあてなどと偏見をもたれてしまった人々がいる。	・P145の資料 ・P67 の資料

生徒のワークシートより



新潟水俣病　ワークシート　1年 A 組　番　氏名

◆「新潟水俣病」のＤＶＤを視聴して，学んだこと・気づいたこと・疑問点をまとめよう

Ｑ１　発生した川の名は？　阿賀野川

Ｑ２　Ｑ１はどんな川？　人にとっての生きる源 ↳魚などの食料 飲み水 洗濯など

Ｑ３　原因は？　メチル水銀が川に流れた（プランクトン→小魚→魚→人）

【キーワード】　旧昭和　電工　鹿瀬　工場　食物　連鎖，　メチル　水銀

Ｑ４　どんな病気？　手足のしびれ　耳が聞こえにくい　視界がせまくなる　味がわからない　うつらない

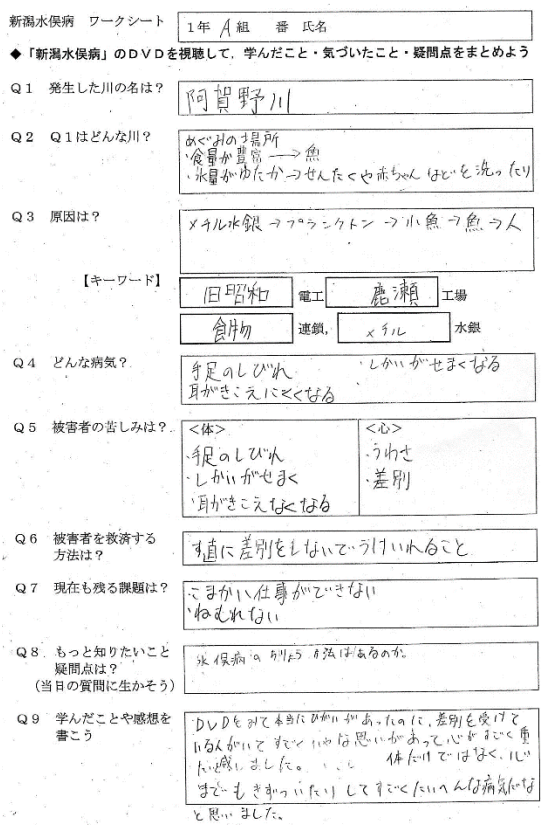
Ｑ５　被害者の苦しみは？　<体> 手足のしびれ　耳が聞こえにくい　味がわからない　<心> ・うつる病気とうわさ　・差別

Ｑ６　被害者を救済する方法は？　差別をなくすこと

Ｑ７　現在も残る課題は？　今でも苦しんでいる水俣病患者がいるということ

Ｑ８　もっと知りたいこと疑問点は？（当日の質問に生かそう）　なぜ昭和電工や国はすぐに認めなかったのか。水俣病を治す薬はあるのか

Ｑ９　学んだことや感想を書こう　今でも苦しんでいる人がいて，差別をおそれている人や自分が水俣病だと気づいていない人がまだいると知って，おどろきました。水俣病患者の方々が安心して生きられるようにしたいなと思いました。



新潟水俣病　ワークシート　1年 A 組　番　氏名

◆「新潟水俣病」のＤＶＤを視聴して，学んだこと・気づいたこと・疑問点をまとめよう

Ｑ１　発生した川の名は？　阿賀野川

Ｑ２　Ｑ１はどんな川？　めぐみの場所 ・食量が豊富→魚 ・水量がゆたか→せんたくや赤ちゃんなどを洗ったり

Ｑ３　原因は？　メチル水銀→プランクトン→小魚→魚→人

【キーワード】　旧昭和　電工　鹿瀬　工場　食物　連鎖，　メチル　水銀

Ｑ４　どんな病気？　手足のしびれ　耳がきこえにくくなる　・しかいがせまくなる

Ｑ５　被害者の苦しみは？　<体> ・手足のしびれ　・しかいがせまく　・耳がきこえなくなる　<心> ・うわさ　・差別

Ｑ６　被害者を救済する方法は？　すぐに差別をしないでうけいれること

Ｑ７　現在も残る課題は？　こまかい仕事ができない　・ねむれない

Ｑ８　もっと知りたいこと疑問点は？（当日の質問に生かそう）　水俣病のなりょう方法はあるのか。

Ｑ９　学んだことや感想を書こう　ＤＶＤをみて本当にひがいがあったのに，差別を受けているんがいてすごくいやな思いがあって心がすごく重たい感じました。　体だけではなく，心までもきずついたりしてすごくたいへんな病気だなと思いました。

10

ＤＶＤを視聴して，あなたが新潟水俣病について学んだことは何ですか。
また，自分たちにできることは何ですか。

○ＤＶＤ全体を視聴して，感じたこと，学んだことは何かを考えさせ言語化させる。 ・自分たちにできることは何かを考えさせる。	●自然の恵みをいただいた人たちが苦しんだり亡くなったりしたのに驚いたし，今も多くの人たちが苦しんでいることを理解した。 ●新潟水俣病について深く知ることが大切だし，差別や偏見をしてはいけない。

・授業後の子どもたちの考え等（作文等）

・新潟水俣病は体や心の苦しみがあることがわかった。今でも多くの人々が苦しんでいて，完全に治せない人がいるのに驚いた。自然環境を守ることはとても大切なことだと感じた。

・新潟水俣病によって体の自由が利かないなどの被害があるだけでなく，差別を受けるなどとても嫌な思いをしている人がいて，重たい人権問題だと思った。

・裁判では，被害者が勝訴したり和解したりしたケースもあるが，未だに何も言えない人や，病気のことに気付いていない人々もいることが分かった。

・新潟水俣病について，人にうつるなどの間違った情報やうわさなどが広まることが問題を大きくしていると思った。新潟水俣病に対する正しい理解が必要だと感じた。

・未だに差別や偏見があることに驚き，心が痛みました。この学習を通して，普段から差別や偏見を絶対にしないように行動したい。

令和３年度
小学校・中学校への地域の環境学習等支援事業
地域の特色を活かした環境学習支援事業
実施報告書

主催・制作　新潟県、新潟市
発　行　　新潟県立環境と人間のふれあい館
〒950-3324　新潟市北区前新田字新々囲乙 364-7
☎ 025-387-1450　　メール fureai@abeam.ocn.ne.jp